



JETSKI
watercraft **800 SX-R**

ウォータークラフト

JETSKI
watercraft **取扱説明書**

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

JETSKI
watercraft は川崎重工業株式
会社の登録商標です。



ウォータークラフトには定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、バッテリー、ホース類等）があります。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

カワサキは人と地球にやさしい環境作りをめざしています。

早見表

一般事項

操縦方法

保管

整備と調整

トラブルシューティング

船舶検査

航行区域

環境保護

お客様の相談窓口

JET
STAR

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータクラフト“ジェットスキー”をご購入くださいますとありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させてください。

この取扱説明書は、あなたのウォータクラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得してください。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、“ジェットスキー”の魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守ってください。

ウォータクラフト“ジェットスキー”に乗るときは本書を携帯し安全なマリライフをお楽しみください。

本書は大切に保管し、ウォータクラフト“ジェットスキー”を転売や譲渡等されるときは必ず添付してください。

別冊の整備手帳には保証書とともに定期点検整備表および点検整備記録簿が入っています。ウォータクラフト“ジェットスキー”の維持管理にご活用ください。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています

警告

取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

○ 作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

目次

主要諸元	6	直線停止	46
一般事項	8	通常停止	47
製造番号	8	停止技術	47
各部の名称	9	旋回	48
ラベル位置	11	ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方	51
燃料およびオイル	16	立ち上がり方	51
操縦装置	18	転落	52
エンジンフード	23	転覆したウォータクラフトの起こし方	53
エンジンフードの開け方	23	航走終了後の手入れ	54
エンジンフードの閉め方	26	第1：排気系統の水抜き	54
工具	30	第2：エンジンルームの清掃	54
ビルジシステム	31	第3：船体外部の清掃	55
ドレンプラグ	31	特殊な手入れ	56
操縦方法	32	インペラの清掃	56
安全な操縦	32	汚れたスパークプラグの清掃	56
操縦者の水泳能力	32	浸水後の処置	57
安全運転規則	32	ウォータクラフト“ジェットスキー”のえい航	59
ジェットポンプに関する注意	34	ジャンプコードによる始動	59
乗船者の安全装備	35	エンジンのオーバーヒート	61
目と足もとの安全と保護	35	保管	62
ヘルメット着用の選択	36	保管する前の作業	62
積載	36	冷却系統	62
乗る前の点検項目	37	ビルジ系統	62
ならし運転	39	燃料系統	63
エンジンの停止	40	エンジン	64
エンジンの始動	41	バッテリー	64
発進	43	ジェットポンプベアリング/シール	65
水深の深い場所での発進	43	洗浄	65
水深の浅い場所での発進	44	潤滑	65
立った姿勢での発進	45		
停止	46		

保管後再使用する前の作業.....	66	ビルジ系統の洗浄.....	93
整備と調整	68	ジェットポンプベアリング/シール.....	94
定期点検整備表.....	68	ヒューズ.....	94
コントロールケーブルの調整.....	70	トラブルシューティング	96
チョークケーブルの調整.....	70	船舶検査	99
スロットルケーブルの調整：.....	70	船舶検査.....	99
ステアリングケーブルの調整：.....	71	船舶検査証書など合格証書類.....	99
ステアリングケーブルの点検：.....	74	航行区域	100
燃料系統.....	74	航行区域.....	100
キャブレタの調整.....	74	海岸あるいは陸岸で使用する場合.....	100
燃料フィルタスクリーン：.....	75	母船に乗せて使用する場合.....	101
スパークプラグ.....	77	環境保護	102
バッテリー.....	79	環境保護.....	102
潤滑.....	88	お客様の相談窓口.....	103
冷却系統の洗浄.....	91		

JET
STAR

主要諸元

ウォータクラフト “ジェットスキー” JS800A

エンジン			
型式			2ストローク、2気筒、クランクケースリードバルブ、水冷
排気量			781 cm ³
内径×行程			82 × 74 mm
圧縮比			7.2:1
点火方式			CDI(デジタル)
燃料、潤滑			ガソリン・オイル混合 混合比 60:1
キャブレタ			ミクニ BN 40-38 × 2
始動方式			スタータモータ
スパークプラグ			NGK BR8ES
ギャップ			0.7 ~ 0.8 mm
端子形状			一体型端子
点火時期			上死点前 13° @1 250 rpm ~ 20.2° @4 000 rpm
動力伝達機構			
カップリング			エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ	:型式		軸流、単段
	:推力		317 kg
ステアリング			ステアリングノズル
ブレーキ			水の抵抗力

※性能	
連続最高出力	80 PS/6 250 rpm
連続最大トルク	9.6 kgf-m/5 750 rpm
最小旋回半径	3.2 m
燃料消費量	32 L/h (フルスロットル運転時)
航続距離	39 km (フルスロットル運転時)
航続時間	31分間
寸法・重量	
全長	2 300 m
全幅	730 mm
全高	735 mm
整備質量	180 kg
燃料タンク容量	17 L (予備3.0 Lを含む)
電装品	
バッテリー	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

一般事項

製造番号

- 船体およびエンジン番号は、あなたのウォータークラフト“ジェットスキー”を表す番号です。この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。下のそれぞれの空欄に記録してください。



A. 船体番号

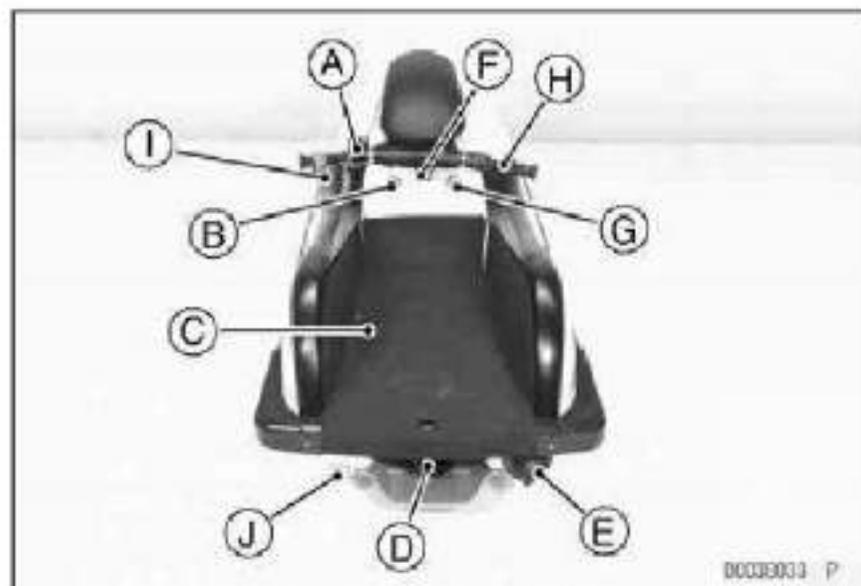
船体番号	
------	--



A. エンジン番号

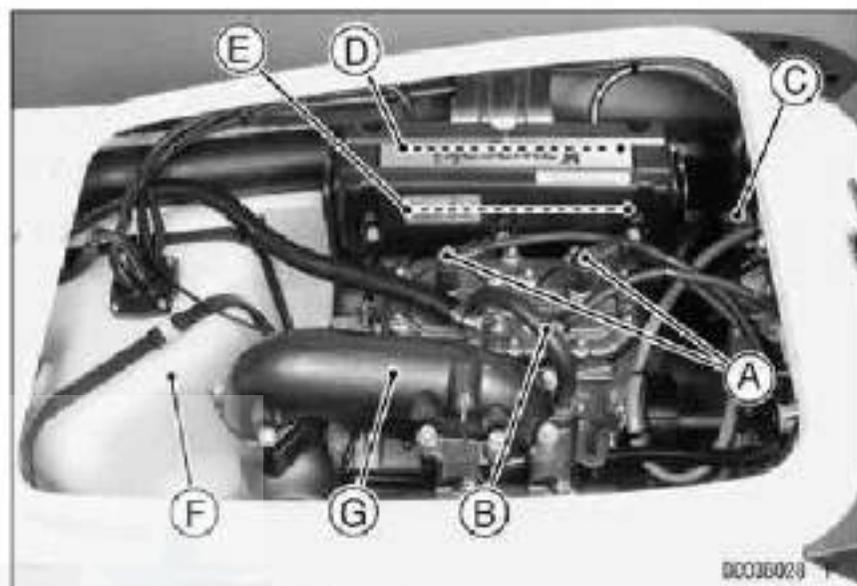
エンジン番号	
--------	--

10 一般事項



0003003 P

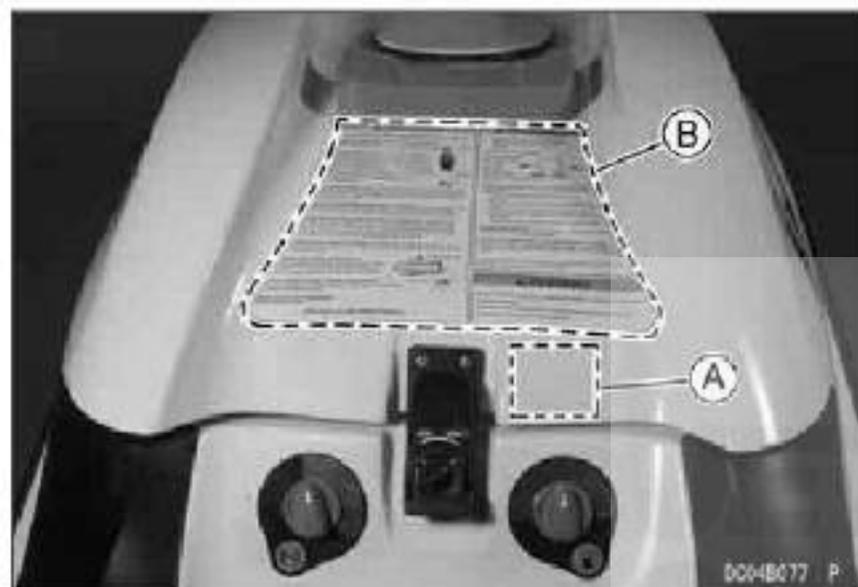
- A. エンジンスタータ、ストップボタン
- B. チョークノブ
- C. 乗船位置 (デッキ)
- D. ステアリングノズル
- E. 排気口
- F. エンジンフードラッチ
- G. 燃料バルブ
- H. スロットルレバー
- I. キルスイッチコード
- J. ドレンプラグ



0003002

- A. スパークプラグ
- B. クーリングホース
- C. バッテリ
- D. フレームアレスタ
- E. キャブレタ
- F. 燃料タンク
- G. 排気筒

ラベル位置



- A. 最大搭載人員
- B. 操縦時の注意および航走前、航走後の注意



- C. 推奨混合比
- D. 推奨オイル
- E. 燃料注入

12 一般事項



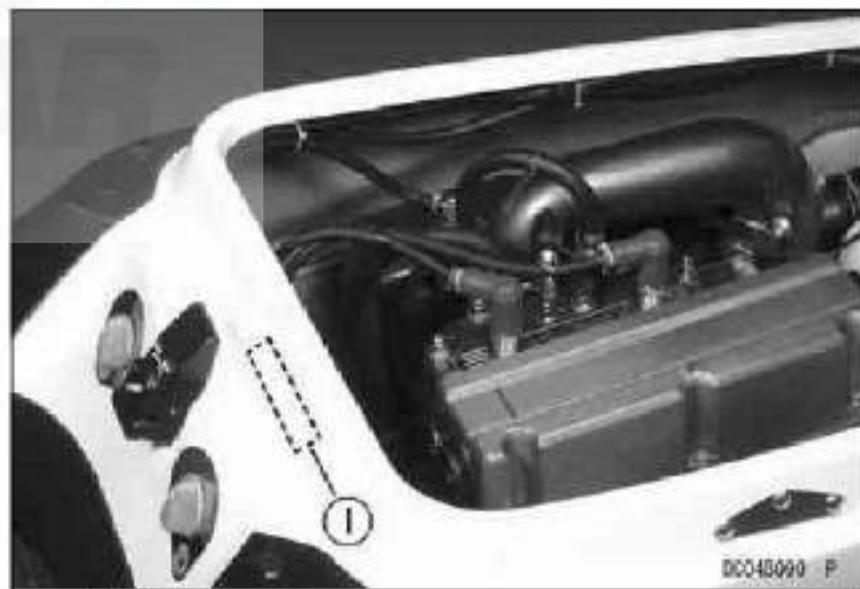
F. オーバーヒート (陸上)



G. バッテリー



G. オーバーヒート (水上)



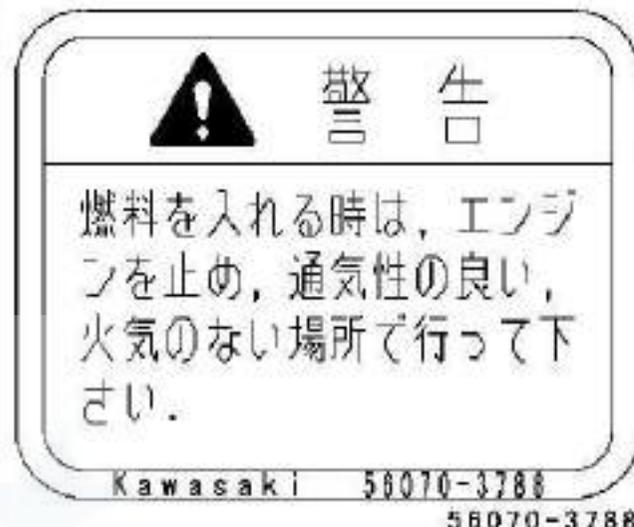
I. 製造者名

(A)



DC051170M2 0

(E)



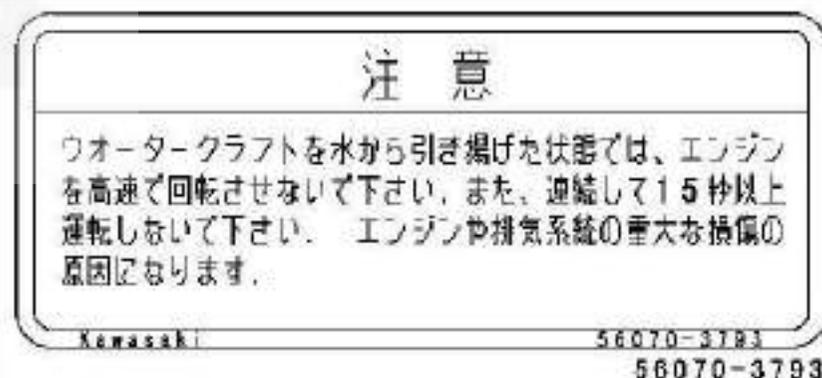
DC051459M2 0

(C)



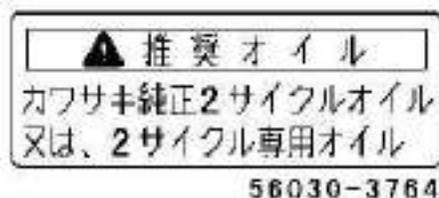
DC051460M2 0

(F)



DC051479M2 0

(D)



DC051180M2 0

警告

ウォータークラフトを安全にお使いいただくために、次の事項を必ずお守りください。

- 使用前は、必ず（日本の船舶検査機関）指定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは各体に合ったものを使用してください。
- 乗客は身体を保護できる姿勢を確保してください。揺れ等の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り傷める恐れがあります。必要の水圧では身体を十分に保護できません。身体を保護できるジェットスーフパンプを着せ必ず着用してください。シューズ、手袋、ゴーグル（保護眼鏡）も着用してください。
- 船室には、特殊小型船舶運転免許が必要です。高圧電圧を帯びてお取り扱いください。
- 乗客が落下したときにエンジンが停止するようにキルスイッチコードを子機にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供や他の人が見えないようにキルスイッチコードをウォータークラフトから外してください。
- 自分の乗船時をよく知り、実際の状況はしないで行ってください。自分の乗船位置を越えて航走すると、思い通りに操縦できなくなり、危険や 衝突の可能性が増えたりします。乗客が乗船のジャンプは荷重/移動、座、戻やくるまじし等を確認あるいは確認する恐れがあります。ジャンプは行わないでください。
- ウォータークラフトの荷室に入っているときはスロットルを戻さないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。スロットルを戻すか、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをする恐れがあります。
- エンジン運転中はジェットポンプの吸込口に近づかないでください。高い壁、たぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりする恐れがあります。
- 水中からの乗船時は視界が妨げられているので、早く乗り込み、立ち上がるかたがまづいた乗客をたおしてください。
- 船中や船中の乗客は絶対に乗船しないでください。
- 取扱説明書をお読みし、よく理解してから、使用してください。



警告

ウォータークラフトの乗客では溺死が多く、死傷につながっています。次の事項を必ず、徹底して守ってください。

- 湖沼の深水区、障害物、船舶に近づかず注意してください。自分の視界が妨げられている場合、あるいは他の人から見えにくい空間にいる場合は特に注意してください。
- 湖沼、障害物、船舶の船舶等から逃げる安全な通路、距離を確保してください。
- 他のウォータークラフトや船舶等の動きも注意し取り、周囲の状況を確認し、安全な距離を確保してください。
- 湖沼など周囲の環境も注意し、安全な距離を確保してください。
- 事前に行動を話し、衝突防止に努めてください。ウォータークラフトも一般船舶と同様に「レーダー」設置はありません。
- 障害物を避けるときはスロットルレバーを戻さないでください。方向を変えるためには必ず「スロットルレバー」を戻して停止または減速することをお勧めします。緊急時には、スロットルレバーとスイングが止まらずに作動することをお勧めしてください。
- 湖沼は、地域の条例や規制を必ず守ってください。
- 乗客を乗せられません。
- 湖沼の近くや、船舶の衝突が激しい水域では航走しないで行ってください。



警告

エンジンを始動する前に、エンジンルームの換気をして下さい。換気しないままにエンジンルーム内に居ると、火災や爆発の原因となることがあります。

注意

- 航走する前に、スプリングの曇り、パッドの摩擦等をよく調べ下下さい。
- 船体を横向きに傾けると、水がエンジンへ浸透するのを防止するために、必ず右向き  に傾けて下さい。

(G)

注 意	
エンジンがオーバーヒートすると、警告装置が働き自動的にエンジンの回転が下がります。航走中にエンジンの回転が低下したら、おだちに岸辺に戻りエンジンを停止して下さい。冷却システムを点検し修理が終わるまでは、ウォータークラフトを操縦しないで下さい。	
Kawasaki	56070-3791

000518092 0

(H)

バッテリーの取扱いにご注意！		ST-VTNER
この12Vバッテリーは液面点検及び補水不要な耐御式（シールタイプ）です。 ●充電時等いかなる場合においても、ふたや密封栓を絶対に外さないこと。 ●この電池は特別弁式バッテリー装置車以外には使用しないこと。		
危険		
	火気厳禁 メガネ着用 こども禁止 警備注意 取組資格等 運送注意 ●水素ガス発生、取扱いを誤ると引火燃焼の恐れあり ●このバッテリーを二輪自動車やエンジン始動機以外の用途には使用しない ●工具等でショートやスパークをさせない ●充電は製造時のよい所で行う ●バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり 液がつかいたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける	
▲ DANGER KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY. ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.		

00061398 2

(I)

MFD. BY KAWASAKI MOTORS MFG. CORP., U. S. A.
56037-1808

0005042096 0

燃料およびオイル

- 燃料はガソリンとエンジンオイルとの混合油を使用します。

ガソリン	レギュラーガソリン
エンジンオイル	カワサキジェットスキー純正オイル (2サイクルエンジンオイル)
推奨混合比	60 : 1 (ガソリン : 60対エンジンオイル:1)

ガソリンとオイルは十分に混合しておきます。

注意

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。
燃料を補給するときは、必ず無鉛ガソリンであることを確認してから行ってください。
- 高濃度アルコール燃料を使用しないでください。
高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。
- 粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。
粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

燃料の注入

警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタータロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- エンジンを停止状態にします。
- 艇を水平に保ちます。
- タンクへの燃料の注油状態を確認するため、エンジンフードを取り外してください。



A. 注入口カバーノブ

- 燃料注入口キャップを外し、推奨混合比の燃料を注入してください。注入する時は、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、

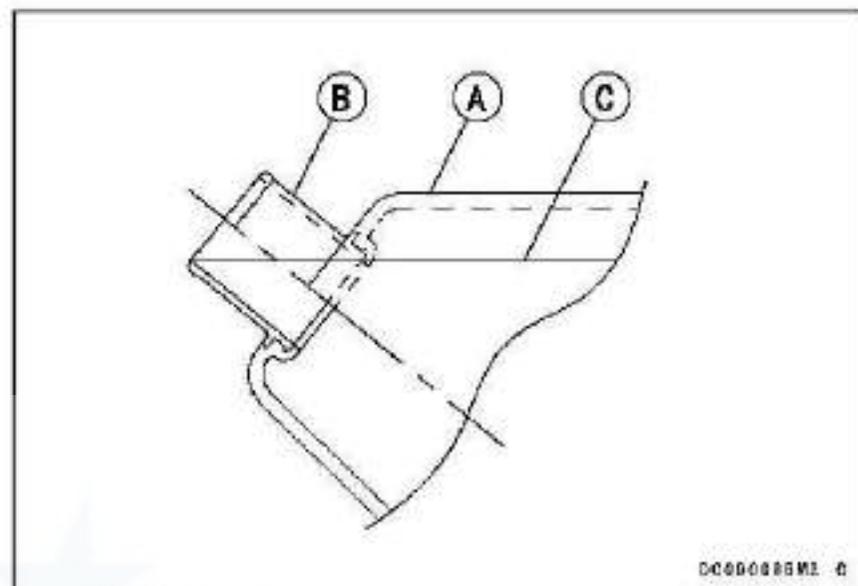
ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。

- こぼれた場合はただちに布でふき取ってください。
- 水上での給油や条例等で禁止されている砂浜での給油はしないでください。
- タバコを吸いながら給油しないでください。

⚠ 警告

燃料をタンク一杯に注入しないでください。温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、ベントチューブから溢れる事があります。注入後はキャップを確実に締めてください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気してください。



- A. 燃料タンク
- B. 注油口
- C. 液面

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

注意

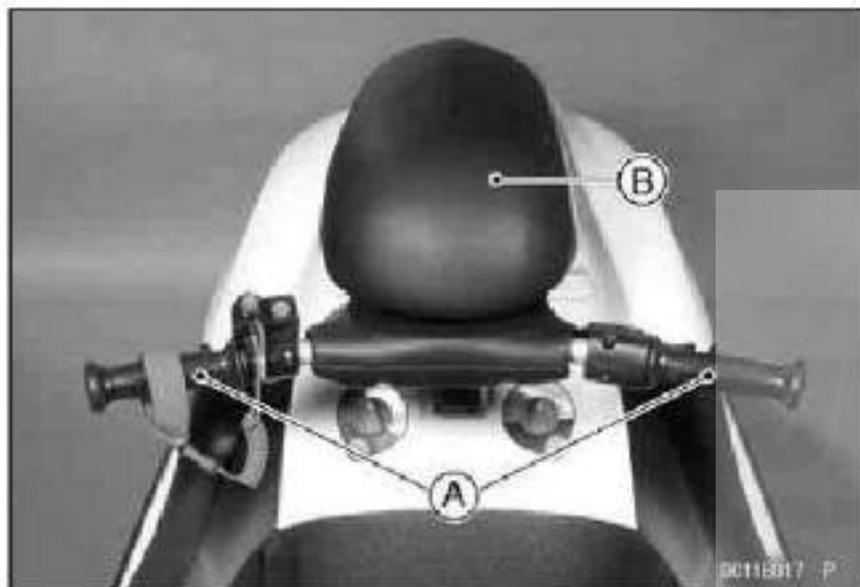
雨の中、およびほこりっぽい中での注油は燃料に混入するおそれがありますのでしないでください。

要点

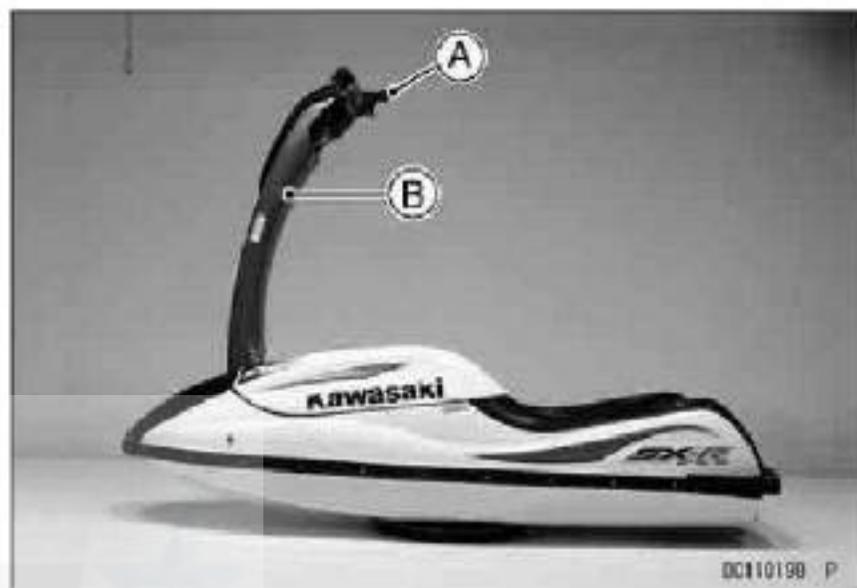
- エンジンフードを外したときにガソリンのにおいがする場合、「ジェットスキーARK」で燃料システムの点検を受けてください。

操縦装置

ステアリングハンドルバー



A. ハンドルバー
B. ハンドルボール

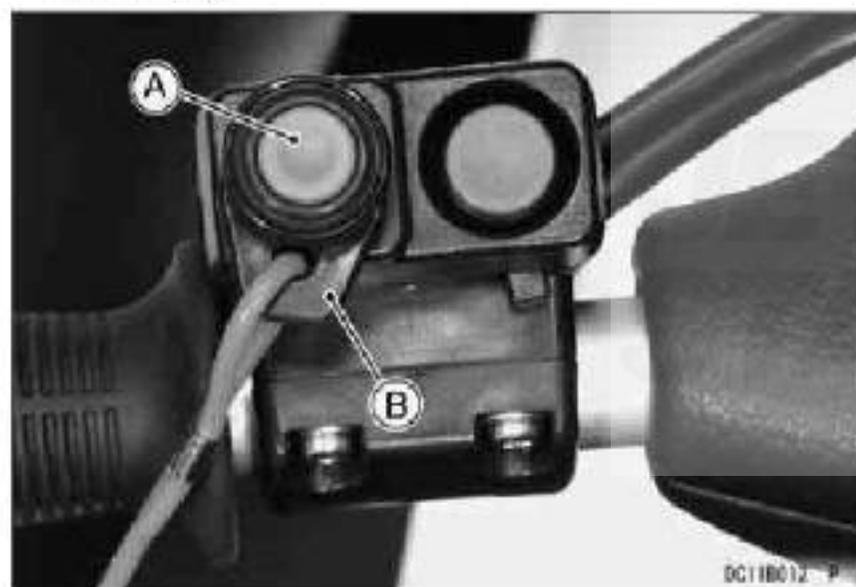


A. ハンドルバー
B. ハンドルボール (直立状態)

- ステアリングハンドルバーはハンドルボールの端のピボットに取り付けられており、自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いている時のみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータクラフトを旋回させる事が出来ます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータクラフト後部のステアリングノズルとつながっています。

ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。
- 下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。



A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

スタータロックスイッチ

- スタータロックスイッチは不用意な始動を防止するもので、スイッチが右位置にある時のみ緑色のスタータボタンを押すとエンジンが始動します。スイッチが左位置にある時はスタータボタンを押してもエンジンは始動しません。

警告

不用意にエンジンが回転し、事故が発生するのを防ぐために、エンジンが回転していない時は、常にスタータロックスイッチを左位置にしておいてください。



A. スタータロックスイッチ
B. 始動不可能位置



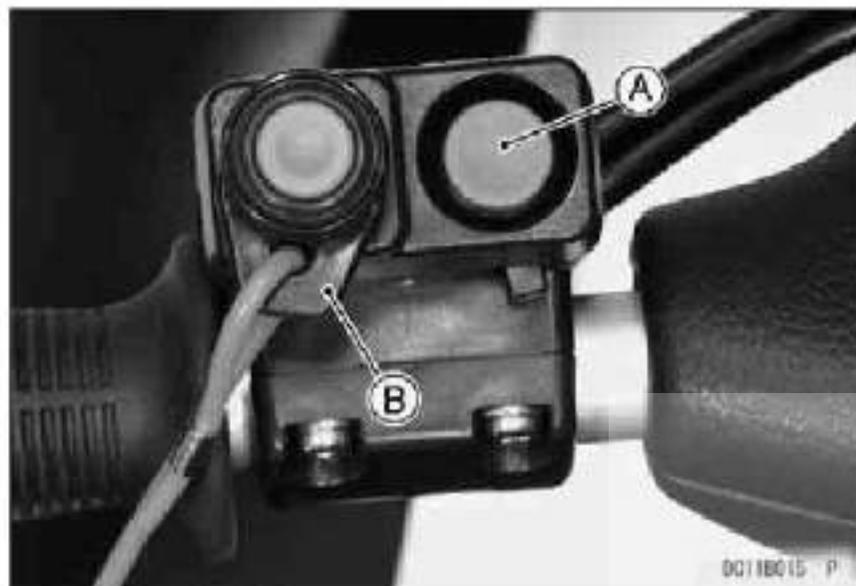
A. 始動可能位置

スタータボタン

- スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と上方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放してください。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転しますが、始動しません。

注意

エンジンが回転している時や、スタータがまだ回っている時に、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、またスタータの故障の原因になります。



A. スタータボタン
B. キルスイッチコードキー

要点

- スタータボタンは、スタータロックスイッチが右位置にある時のみ作動します。
- エンジンが始動するためには、キルスイッチコードキーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照してください。

スロットルレバー

- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常的位置に戻るか必ず点検してください。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくってはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参照ください。



A. スロットルレバー

22 一般事項

チョークノブ

- チョークノブはデッキ前方にあるパネルの左側に付いています。チョークノブを右方向に回すと（“ON”位置）、混合気が濃くなり始動が容易になります。始動後はチョークノブを元の位置（“OFF”位置）に戻します。



- A. チョークノブ
- B. 燃料バルブ

要点

- もし、チョークノブがエンジン始動後も使用しますと、燃料のむだ使いとなり、性能も下がり、またスパークプラグの汚れの原因にもなります。

燃料バルブ

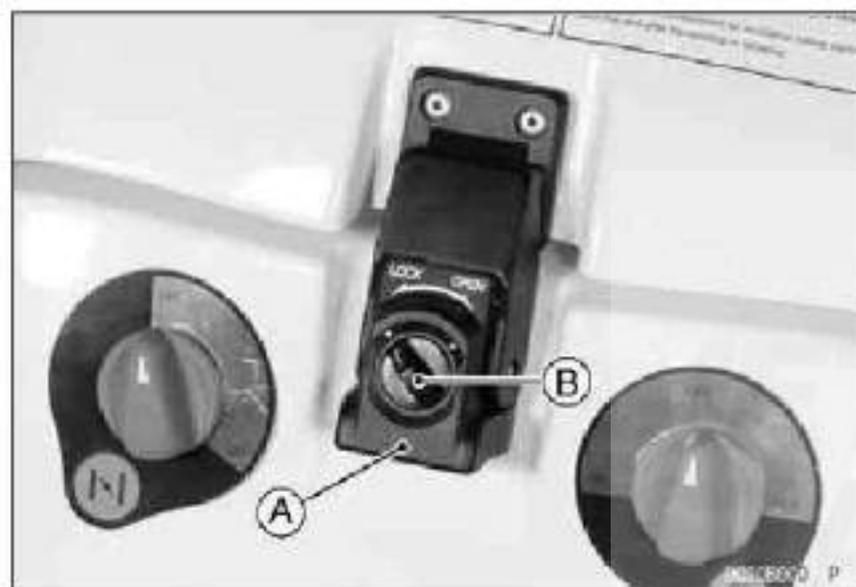
- 燃料バルブはデッキ前方のパネルの右側にあります。燃料バルブには、“ON” “OFF” “RES”（予備）の三つの位置があります。ONの位置で燃料を使い果たした時は、ノブをRESに切り換える事により約3.0 Lの予備燃料が使えます。RESに切り換えたら、スロットルは半開以下で走行してください。

要点

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給してください。
- 補給後はノブを必ず“ON”の位置にしてください。

エンジンフード

- エンジンフードはデッキ前方のパネルにあるラッチで固定されています。

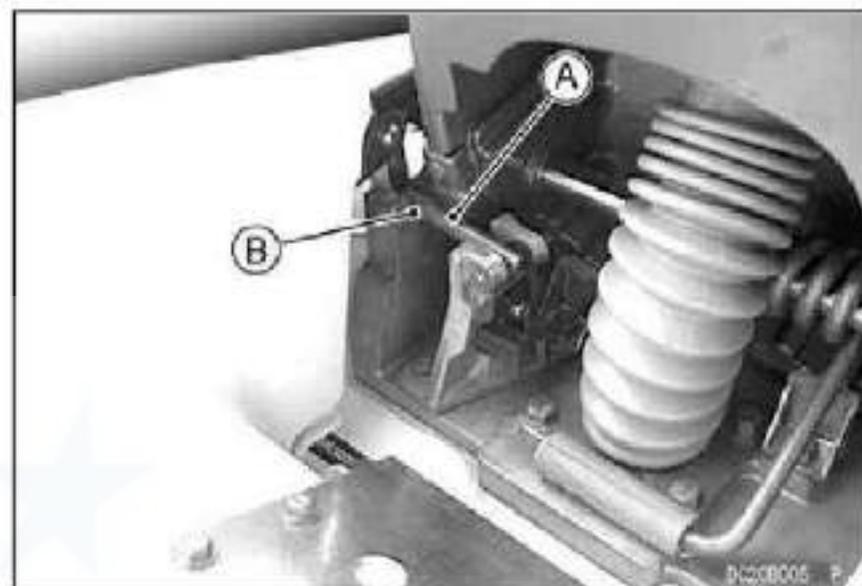


- A. ラッチ
B. ノブ

エンジンフードの開け方:

まずハンドルポールを一杯引き上げ、片手でそれを支えながらハンドルポールストップピンを引き上げてブラケットの穴に入れます。これでハンドルポールは立てた状態に固定されます。立てた

状態のハンドルポールに寄りかからないでください。



- A. ストップピン
B. 穴

要点

- ストップピンをハンドルポールブラケットの穴にしっかりと入れてください。

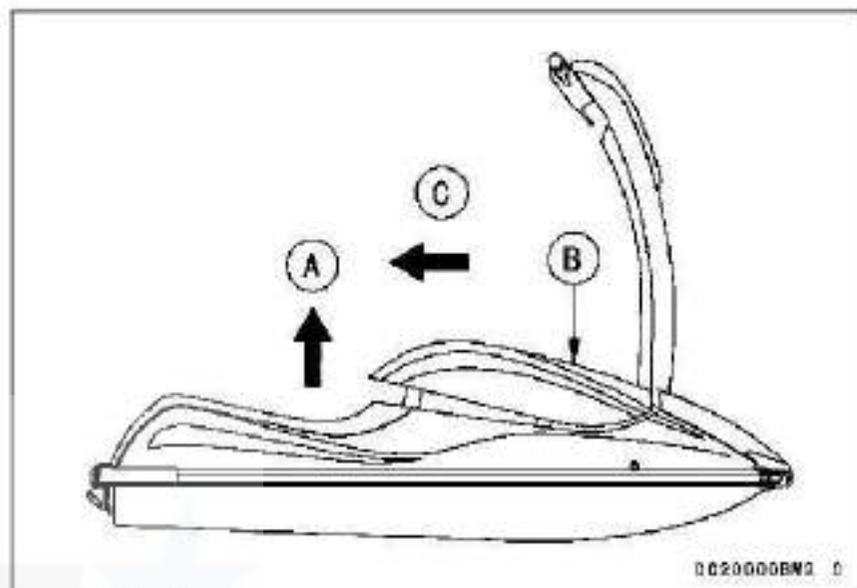
次にラッチのノブを右に回し、ラッチを一杯引き上げ、上部をエンジンフードから外します。そしてエンジンフードを取り外します。

24 一般事項

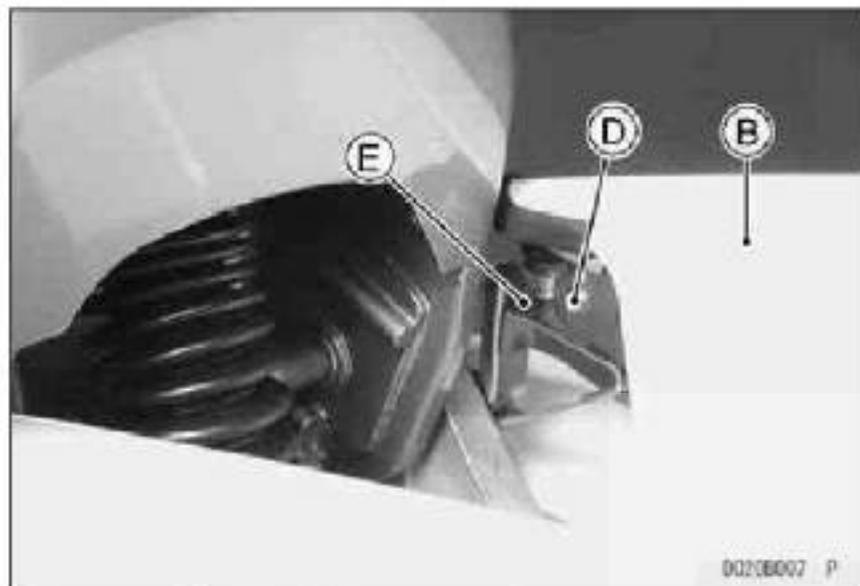


A. はずす

- エンジンフード(B)の後端部を少し持ち上げながら(A)、後方へずらし(C)、フードフック(D)をハンドルポールヒンジ部のブラケット(E)から外します。

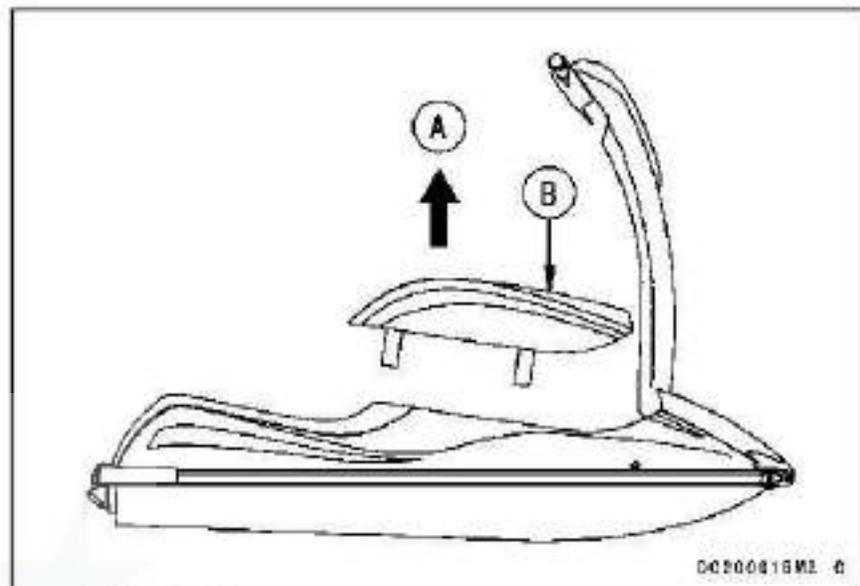


- A. 持ち上げる
- B. エンジンフード
- C. 後方へずらす。



- B. エンジンフード
- D. フードフック
- E. ブラケット

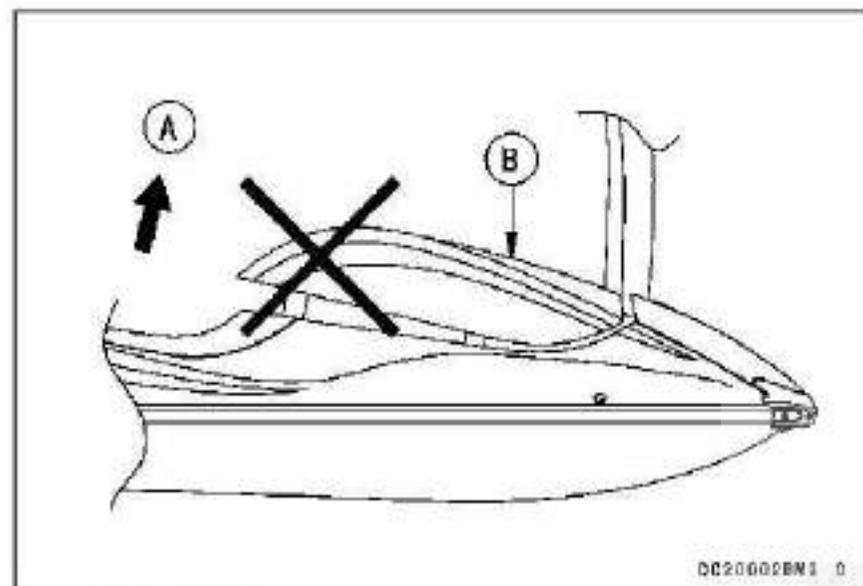
- エンジンフード(B)を持ち上げ(A)取り外します。



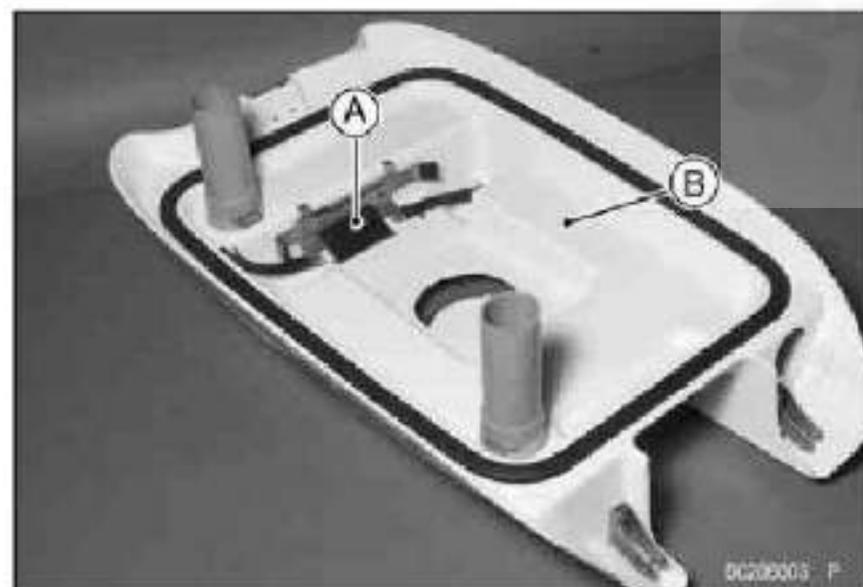
- A. 持ち上げる
- B. エンジンフード

注意

ハンドルポールヒンジ部のブラケットからフードフックを外さない状態でエンジンフード(B)を持ち上げないでください(A)。フード内部が壊れることがあります。



- A. 持ち上げない
B. エンジンフード

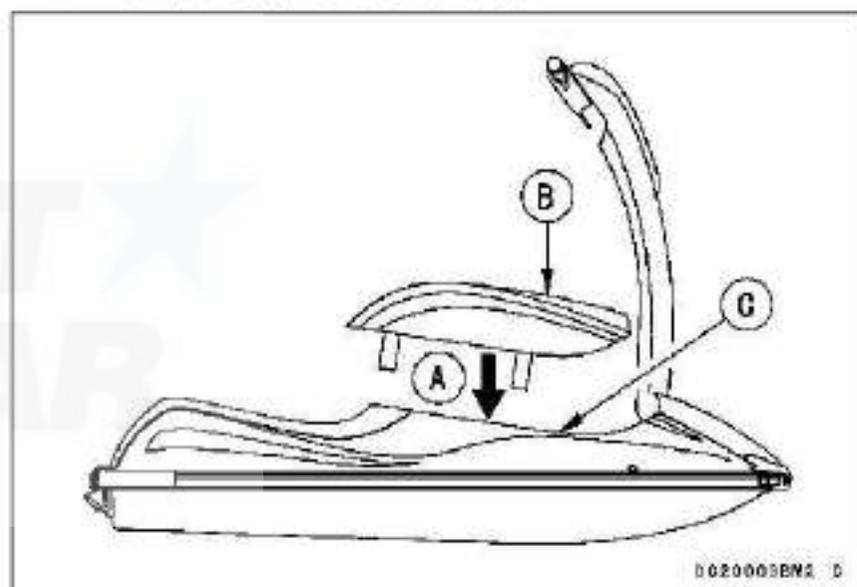


- A. 消火器用ホルダー
B. エンジンフード

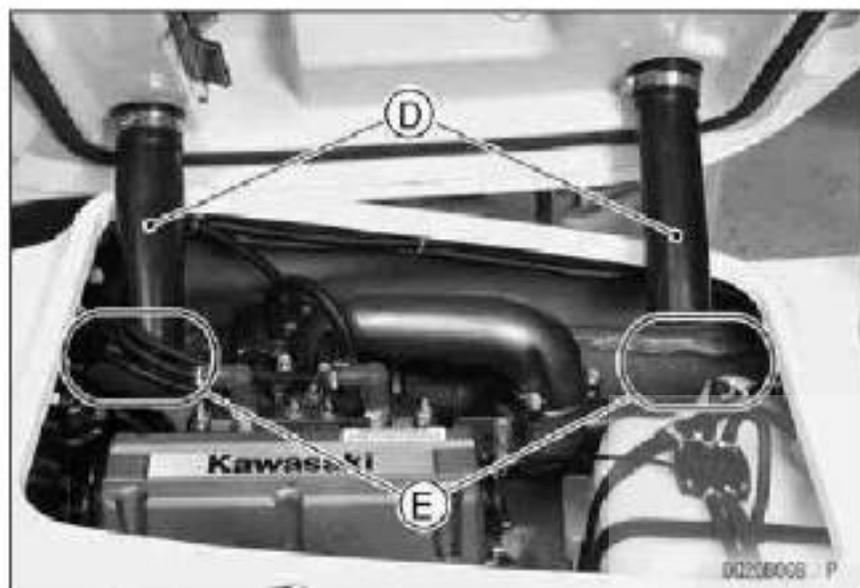
- エンジンフードの裏面に消火器取り付け用ホルダーがあります。

エンジンフードの閉め方

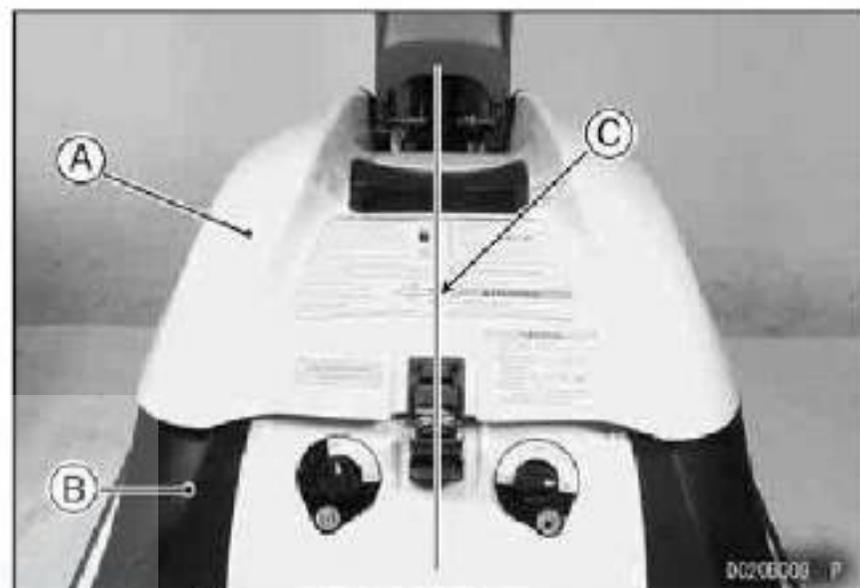
- フード内面の2本のダクト(D)をエンジンルームの所定の空間(E)に収めるよう、かつフードをエンジンルームの開口部(C)に平行に保ちながらフード(B)を降ろします(A)。



- A. 水平に降ろす
B. エンジンフード
C. エンジンルーム開口部



- D. ダクト
- E. エンジンルーム内空間

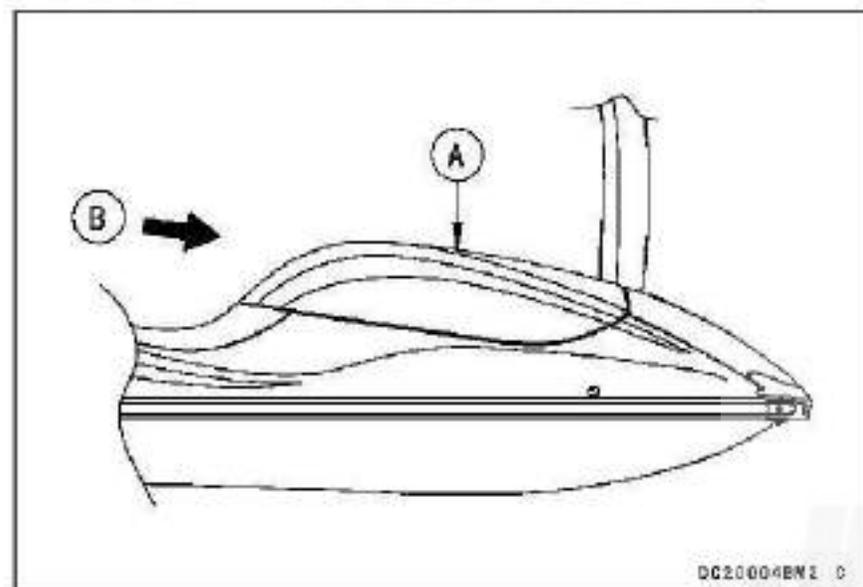


- A. エンジンフード
- B. エンジン開口部
- C. 中心を合わせ。

- エンジン開口部(B)とフード(A)の中心を合わせながら(C)フードを置きます。

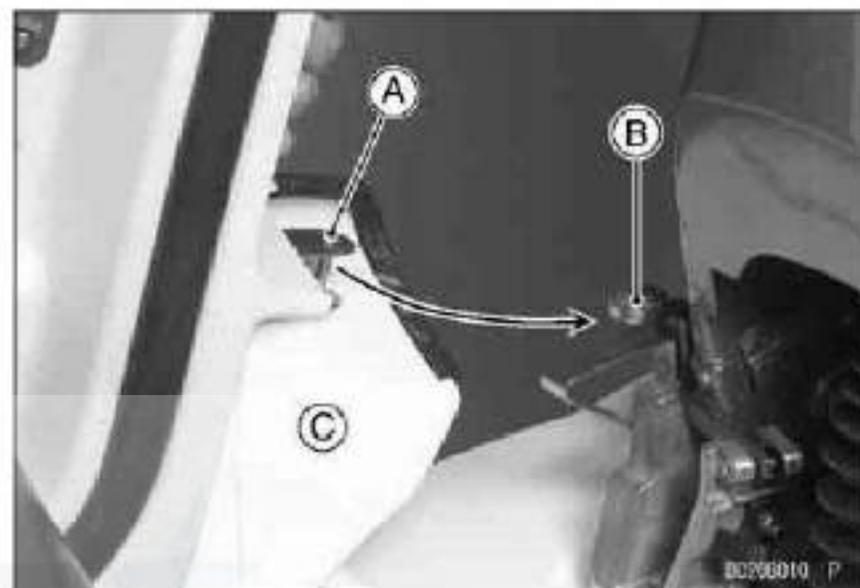
28 一般事項

- エンジンフード(A)を前方へ押します(B)。



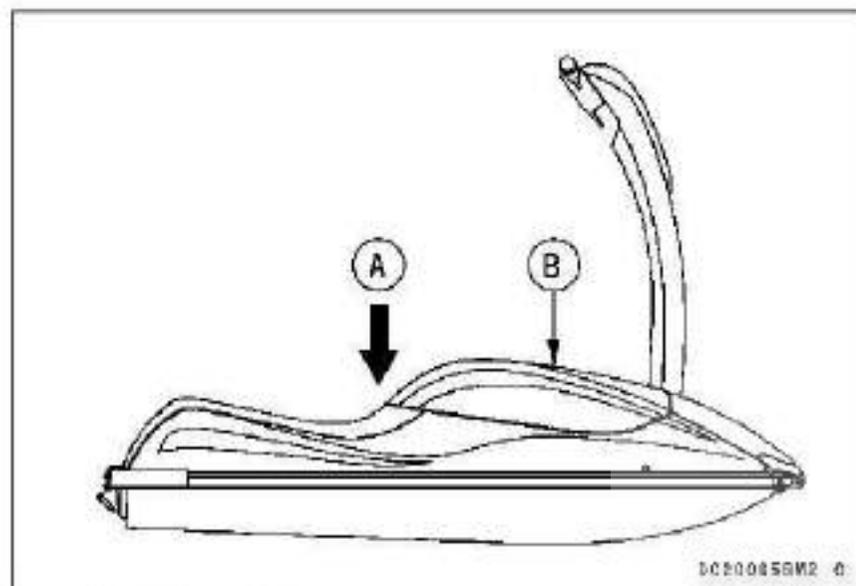
- A. エンジンフード
- B. 前へ押す。

- フードの両方のフック(A)がハンドルポールヒンジ部のブラケット(B)に入っているのを確認します。

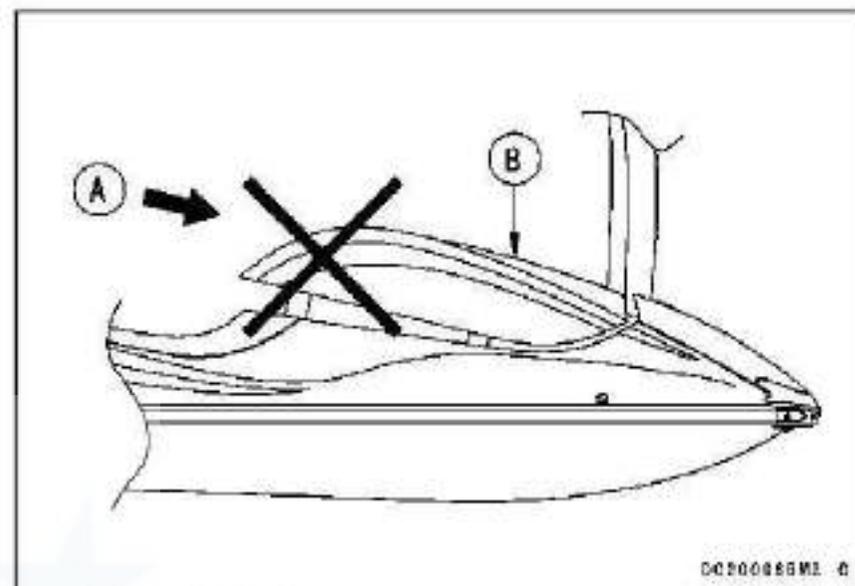


- A. フードフック
- B. ブラケット
- C. エンジンフード

- エンジンフード(B)の後端部を押さえつけます(A)。
- フードのラッチを下に降ろし、ラッチのロックノブを左側へ回します。



- A. 押さえつける。
- B. エンジンフード



- A. 斜めに押さない。
- B. エンジンフード

注意

次のイラストの様にフードを斜めに差込まないでください。フードの内部が損傷することがあります。

- ハンドルボールを手で保持したまま、ボール下部のストッパーピンを外しピンのホルダー(B)に格納します。



- A. ストッパーピン
- B. ピンホルダー

ウォータクラフトを輸送する時は、エンジンフードが確実に固定されているか確認してください。また、ハンドルポールもしっかり固定してください。固定されていないとハンドルポールおよびエンジンフードが損傷する場合があります。

工具

工具はエンジンルームの中にあります。この工具で取扱説明書に述べている調整および整備を行う事が出来ます。



- A. 工具入れ

ビルジシステム

このウォータクラフトにはエンジンルームの後部にバキューム式の排水装置が装備されています。この装置は推進用のウォータジェットによりエンジンルームのビルジを吸引・排水します。水上でエンジンが作動しているときのみ作動します。

注意

定期点検整備表に従って、定期的にビルジ排水装置の作動を確認し、ビルジ吸引口周辺のゴミを取り除いてください。

警告

このビルジシステムは事故等によるエンジンルームへの浸水に対処するようには設計されていません。

要点

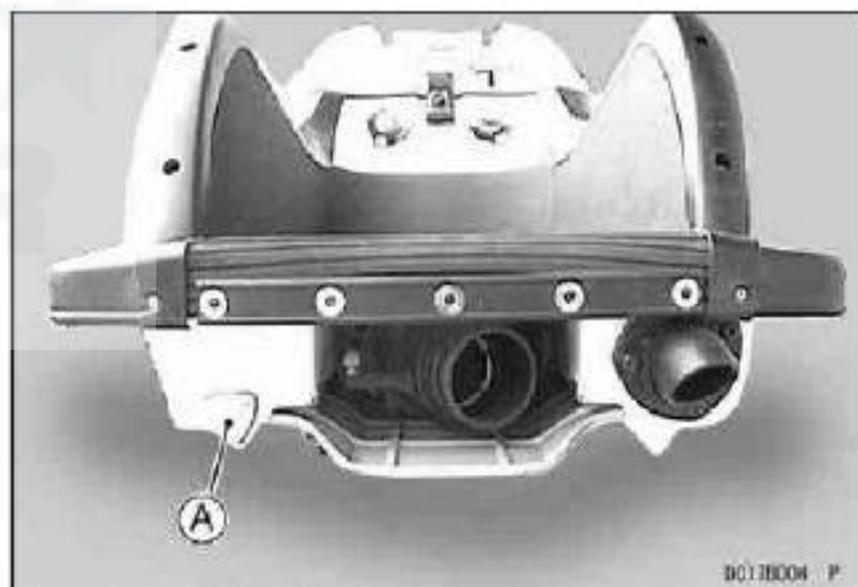
- エンジンルームの残水を排水するには、ウォータクラフトが陸上にある状態で船体後部のドレンプラグを取り外してください。

ドレンプラグ

- スターン（船尾）には、エンジンルームにたまった水を排出するためのドレンプラグがあります。ウォータクラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外してください。

注意

ウォータクラフトを水上に降す前に、エンジンルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかりと締めてください。



A. ドレンプラグ

操縦方法

安全な操縦

操縦者の水泳能力:

⚠ 警告

道具(たとえ浮袋のような簡単なものでも)を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができなければなりません。また、泳いで戻ることができる範囲より沖合に出てはいけません。

安全運転規則:

⚠ 警告

平成15年6月1日以降ウォータクラフトを操縦するには、特殊小型船舶操縦士免許が必要になりました。(新制度の1級、2級小型船舶操縦士免許では操縦できません。但し、それ以前に取得された旧制度の免許では、湖川小馬力以外の5級小型船舶操縦士以上の資格で従来通り操縦ができます。)ウォータクラフトを操縦する際は、必ず免許証を携帯し、安全規則、各地方の条例等を良く確認し、これらに従ってください。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注意

一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいため、変化には十分注意してください。気象情報のみによらず、観天望気により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港してください。観天望気:雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- このウォータクラフトの定員は一人用です。操縦者以外の人を乗せないでください。
- エンジンを始動する前に、スロットルやステアリングが正常に動くか点検してください。これらが故障していると、事故につながる可能性があります。
- 操縦者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。
- 操縦者は身体を保護できる衣服を着用してください。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷をするおそれがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。
- 操縦者は遊泳者、障害物、周囲の船舶から回避できる安全な速度、距離を保って航走してください。

- 他のウォータクラフトや船舶などの後ろを追走しない。
- 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
- 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
- 浅瀬や暗礁のある水域は航走しない。
- 発進や急旋回する時は、周囲に十分注意してください。ウォータクラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていないか、ふり返って確かめてください。
- 操縦者は早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータクラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 操縦者は落水した時エンジンが停止するようキルスイッチコードを手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げるおそれのある薬物を服用して、ウォータクラフトを運転してはいけません。
- ウォータクラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。
- 水深の浅い場所で水中に降りた時、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者はデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。
- 旋回するためにはジェットノズルからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に放すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられないおそれがあります。
- このウォータクラフトは転覆してもその時の波と風の状態によっては自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っていなければなりません。
- ウォータクラフトは日没後、操縦しないでください。夜間も操縦できるように設計されていませんし、灯火もありません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないでください。
- インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないでください。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意してください。
- 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越えないでください。ウォータクラフトの損傷や、操縦者のけがのもとになります。
- 悪天候や荒波では危険ですからウォータクラフトを運転しないでください。重大な海難事故につながる可能性があります。
- 波を横切る前に、速度を落としてください。荒波の中を高速で航走すると、脊髄、腰や足をいためることがあります。
- 操縦者は、視界の良し悪し、他の船の往来、天候、波の状態などを考えて安全なスピードを判断しなければなりません。波がぶつかり合うような水面では、ウォータクラフトの航走特性はかなり影響されることがあり、操縦者が落水す

34 操縦方法

る原因になることがあります。さらに、悪条件のもとでフルスピードで航走しようとする、船が予想外の動きをする原因になり、けがをすることがあります。

注意

波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータクラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

ジェットポンプに関する注意

ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。

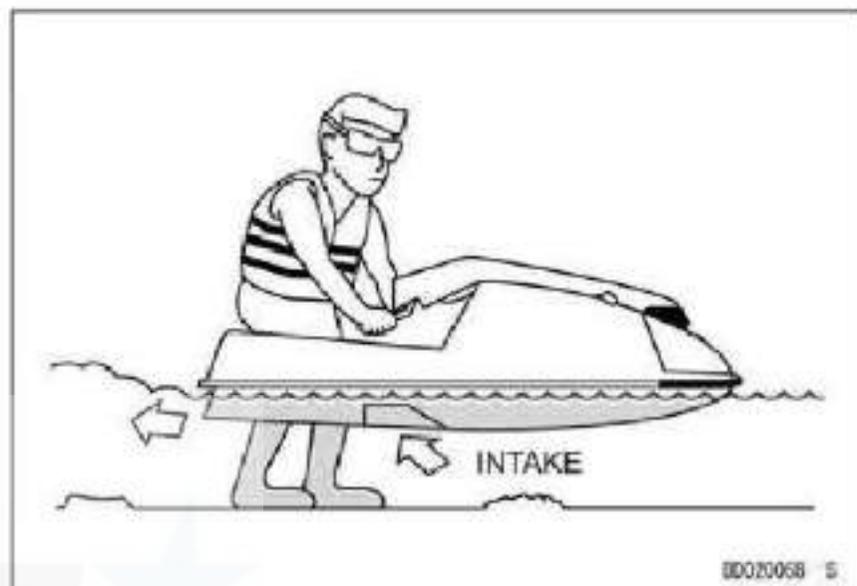
警告

エンジンが回転中は、けがをすることがありますので、ジェットポンプの吸水口(船底の中央後部)に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル(ジェットノズル)に物をさし込まないでください。

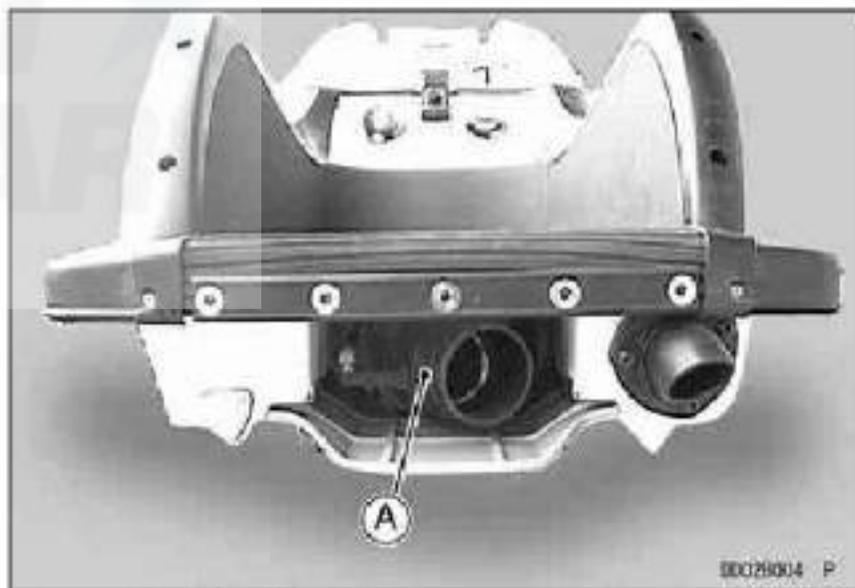
ウォータクラフトの背後に人がいる時はスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。

スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをすることがあります。

エンジン運転中はジェットポンプの給水口に近づかないでください。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりすることがあります。



80020068 S



80029004 P

A. ステアリングノズル

乗船者の安全装備:

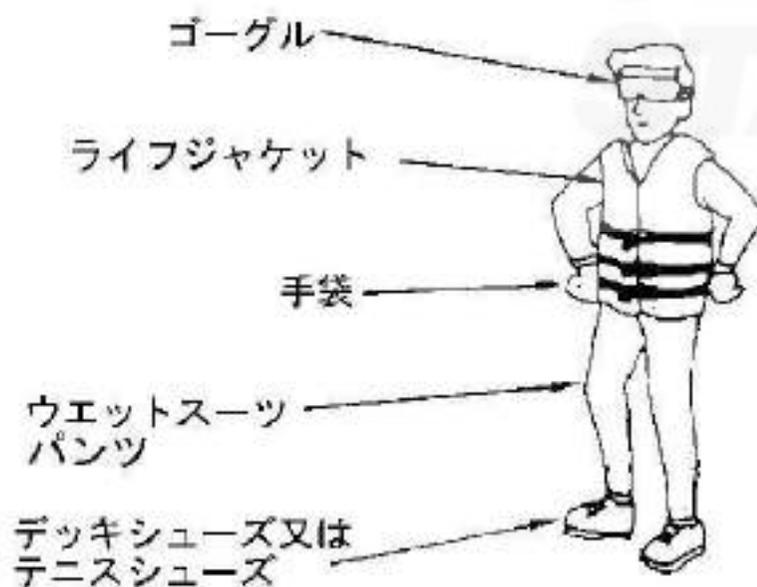
警告

乗船者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。落水・乗り込み時に、水の圧力により体腔内に水が入り負傷することがあります。操縦者は、しっかり保護できるウェットスーツパンツのような水着を着用してください。シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)も着用してください。

目と足もとの安全と保護:

警告

ウォータークラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。ウォータークラフトを操縦する時は、デッキシューズ等を履いて足を保護してください。水中にかくれている貝殻や岩等による打撲、すりきず等を防ぎます。



36 操縦方法

ヘルメット着用の選択

ウォータクラフトでヘルメットを着用する前に、その利点と危険をよく考えねばなりません。

利点：ヘルメットは固いものにぶつかった時、頭部を保護します。

危険性：ヘルメットの着用は周りの視野を制限し、その重みで疲れを増すことがあります。また、水中に転落したとき頸部とのどに負担をかけ、重大なけがをする原因になるおそれがあります。

積載

警告

荷物の積載やアクセサリの使用、またはウォータクラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与え、航走条件を危険にします。乗る前に以下の指示に従っているか、必ず確認してください。

最大積載重量

定員1名

重要：カワサキウォータクラフト用純正アクセサリはその製品およびカワサキのウォータクラフトへの取り付けに関して安全に設計されています。アクセサリを装備される時は必ずカワサキの純正アクセサリをご使用ください。

純正以外のアクセサリを使用されますと、カワサキはその安全性に関して確認することが出来ません。また純正以外のアクセサリの不適切な取り付け・使用およびウォータクラフトへの改造はウォータクラフトに事故および不具合を生じる危険性があり、保証の対象にならない場合があります。

このようにカワサキの純正以外のアクセサリを使用したり装備をする場合は、あなた自身およびあなたの周りの人達への安全に関して、十分な責任をお持ちください。

ウォータクラフトは重量配分の変化に敏感です。アクセサリをつける時は、最大の注意を払ってく

ださい。以下の一般的なガイドラインを参考にしてください。

- このウォータクラフトは定員1名として設計されています。定員以外の人を乗せないでください。定員以上乗ると、船の操縦安定性に悪い影響を与え、事故につながるおそれがあります。
- 船の性能を落とすようなアクセサリを付けしないでください。

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータクラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検してください。
 - 1) 燃料タンク内の圧力：燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。終了後キャップはしっかりと締めてください。
 - 2) エンジンルームの換気：エンジンフードを外し、エンジンルームを数分間換気します。

警告

酸化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 3) 燃料漏れ：エンジンルームを換気している間に、燃料漏れがないか点検してください。
- 4) ビルジ(あか)の排水：エンジンルームに水がたまっていれば、ドレンプラグを外して水を出してください。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 5) ポンプの清掃：給水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いてください。
- 6) ポンプカバー：ジェットポンプカバー、給水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取り付けボルトを締めてください。
- 7) 船体の損傷：船体の損傷を点検してください。
- 8) ドレンプラグ：スターン（船尾）のドレンプラグが確実に締められているか確認します。

38 操縦方法

- 9) **燃料:** 燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給し、燃料バルブノブをONにします。
- 10) **ファスナ:** ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、あれば締めてください。
- 11) **ホースの接続:** すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認してください。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換してください。
- 12) **ステアリング:** ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検してください。必要であればケーブルを調整してください。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしてあり、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換してください。
- 13) **スロットルコントロール:** スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態にもどらなければなりません。

警告

もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になるおそれがあります。

- 14) **バッテリーターミナル:** バッテリーターミナルのスクリュがしっかりと締まっているか、また、ター

ミナルカバーが確実に取り付けられているか点検します。

警告

バッテリーケーブルの取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡するおそれがあります。バッテリーターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

- 15) **キルスイッチコード:** エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

警告

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

水から引き上げたウォータクラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 16) **ストップボタン:** 再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。

- 17) **エンジンフード**: エンジンフードをしっかりと取り付け、ラッチがロックされたか確認します。
- 18) **操縦者の保護**: 操縦者は常にライフジャケットを着け、その他完全装備をしてください。

ならし運転

- 新しいウォータクラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、それらの偏摩耗を防ぎ、また、表面を滑らかにするためです。最初の5時間は急激な加速や長時間の全開運転をしないでください。この間は全開の3/4以下で運転してください。
- 一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転してください。
- ならし運転期間中、ウォータクラフトを注意深く取扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場にて定期点検整備を受けてください。「整備と調整」の章の「定期点検整備表」をご参照ください。

JET
STAR

エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによって、止めることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込まねばなりません。



A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

⚠ 警告

エンジンが停止すると、ウォータクラフトの進路変更ができなくなります。

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならない時は、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いてください。

考えられる緊急事態とは：

- * エンジンの回転をコントロールできなくなった時。
- * スロットルレバーが指を放しても完全に戻らない時。

⚠ 警告

もし、スロットルが正しく作動しない時は、原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを運転しないでください。
下船後は子供や他の人が使えないようにキルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。

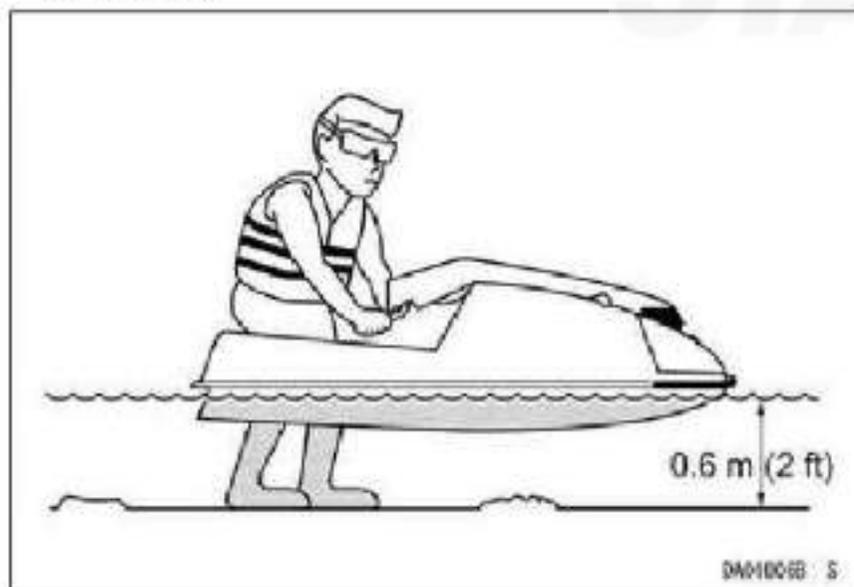
エンジンの始動

- 船を水上に降ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従ってください。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気してください。

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深60 cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ポートや障害物がないかよく確認します。



注意

ウォータクラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が60 cm以上の所で行ってください。

- 燃料ノブを“ON”にし、スタータロックスイッチを右位置にしてください。
- 水の中でウォータクラフトの隣に立ち、コードキーをストップボタンの下に差し込み、コードのもう一方の端を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにします。コードを引っ張ってみて、しっかり手首にはまっているか確認してください。

要点

- キルスイッチコードキーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転しても始動しません。
- チョークノブを右へいっぱい回します（“ON”位置）。右手で右ハンドルバーを握り、スロットルレバーを少し引きます。

⚠ 警告

エンジンが回転中はジェットポンプの給水口（船底の中央部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（噴水口）に物を差し込まないでください。けがをするおそれがあります。

- 左手で緑色のスタータボタンを押し、エンジンが始動したら放してください。もし、エンジンが5秒以内に始動しないときは、スタータボタンを放してください。15秒間待って再び始動さ

42 操縦方法

せてください。数回試みても始動しない時は、「トラブルシューティング」の章を参照してください。



A. スタータボタン

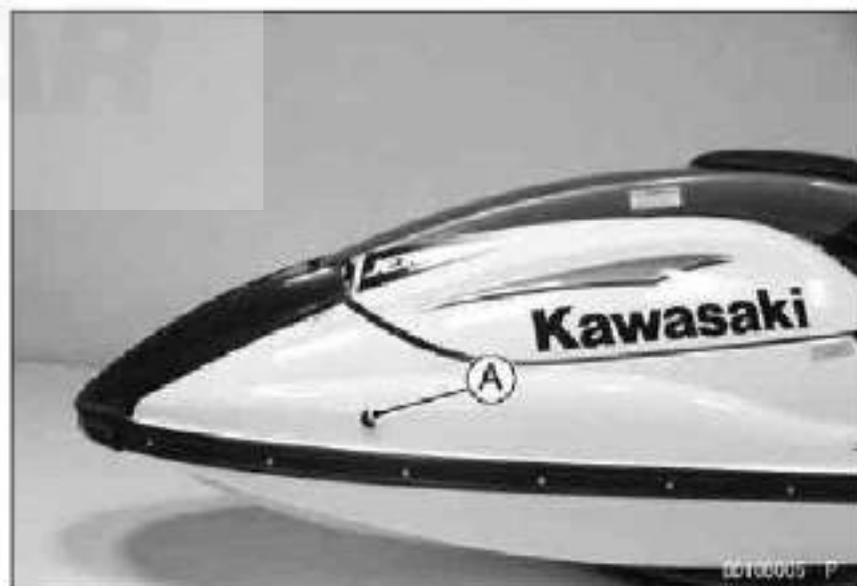
要点

- エンジンが始動しない時は、15秒間隔で始動を行ってください。こうすることはバッテリーやスタータの寿命を延ばすことになります。
- エンジンに初爆があれば、たとえ始動に至らなくてもチョークノブを左へ一杯戻してください。燃料の過給を防ぎます。
- エンジンが温まっている時は、チョークを使わないでください。

注意

エンジンが回転している時や、スタータがまだ回っている時に、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転します。時々スロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。
- スロットルレバーを引いた時、船体の左側のバイパス出口から水が出てくるか確認してください。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていない時は、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



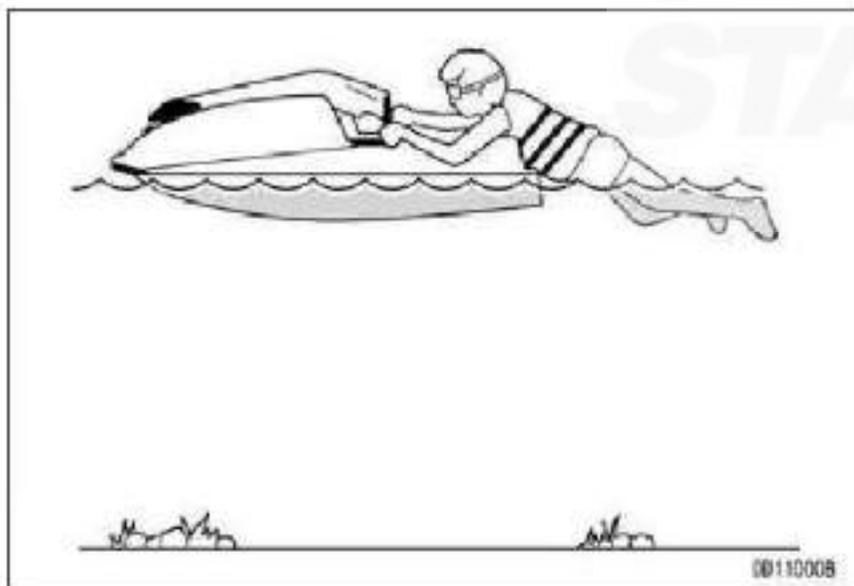
A. バイパス出口

発進

水深の深い場所での発進:

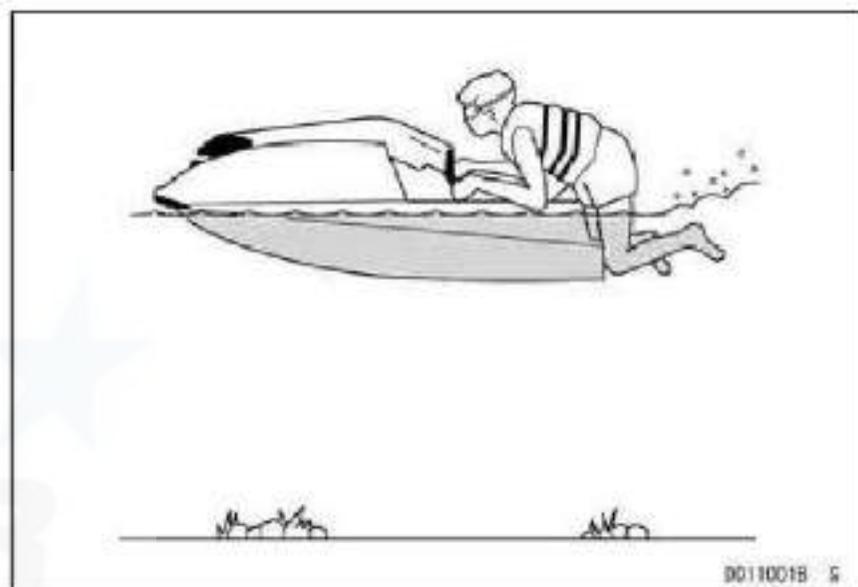
水深の深い所での発進はウォータクラフトの基本的な発進方法です。これは一番やさしい方法ではありませんが、深い所でウォータクラフトから落ちても再び乗ることが出来るよう、マスタしてください。

- 少なくとも腰のあたりまでの深さでエンジンを始動させます。
- 両手でハンドルバーをつかんでウォータクラフト後部にうつむく姿勢をとり、前腕は船べりに乗せます。
- 前方の水面に障害物等がないか確認します。



- スロットルレバーを引き、急速に加速してください。ジェットの推力により船体が安定し、旋

回が可能になります。加速するにつれて船べりについたひじをテコにしてデッキに体を乗せ、次にひざを乗せます。ハンドルの操作の邪魔にならない程度にできるだけ前へ移動してください。



警告

進行方向にいるポートや泳いでいる人達、その他障害物に注意してください。これは危険防止のため初心者には特に重要なことです。

- ウォータクラフトのスピードが上がるにつれて船首が下がり水平になって滑走します。体重の軽い人より重い人の方が時間がかかります。一旦、滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走ってください。

44 操縦方法

深い所での発進は、体重の重い人、または体調の良くない人には一般的により難しくなります。この場合、岸に戻り浅い場所から発進してください。何回か練習すると深い所での発進もできる様になります。

警告

体を後に引きずったような姿勢でウォータクラフトを長時間操縦しないでください。視野がさえぎられるため、進行方向のボートや泳いでいる人達、その他障害物が見えにくくなります。また、ジェットポンプが吸い上げて後へ噴出するおそれのある異物も見えないかも知れません。

水深の浅い場所での発進:

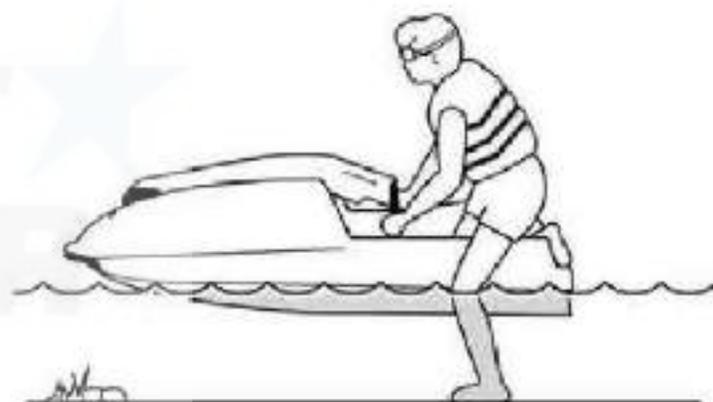
一番やさしい発進方法ですが、これにばかり頼らないでください。深い所での発進がやはり初心者にはもっとも大切な方法です。

- ウォータクラフトを浅瀬にけい留するときはいつも砂場や岩場を引きずらないでください。これは船体の傷を減らし、砂や岩がジェットポンプの中に入り、再始動時、ジェットポンプが損傷することを防ぎます。
- 海岸に引き上げたウォータクラフトの中に砂や岩が入ったときには、水中にて船尾を何回も大きく上下させ、ジェットポンプの中を洗浄します。
- 少なくとも60 cm以上水深があるところでエンジンを始動させます。

注意

ウォータクラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が60 cm以上の所で行ってください。

- 両方のハンドルバーのグリップをつかみ、一方の足でバランスをとりながら他の足のひざをデッキに乗せます。



BD11002B 5

- 前方の水域に何もなければ確認し、ハンドルバーを真っ直ぐ前方に向けてください。
- スロットルレバーを引き、急速に加速します。ジェットの推力で船体が安定し、旋回が可能になります。
- 進行方向の他のボート、泳いでいる人達、障害物に絶えず注意を払ってください。
- ウォータクラフトが加速したら、もう一方のひざもデッキにのせ、ハンドル操作のじやまにな

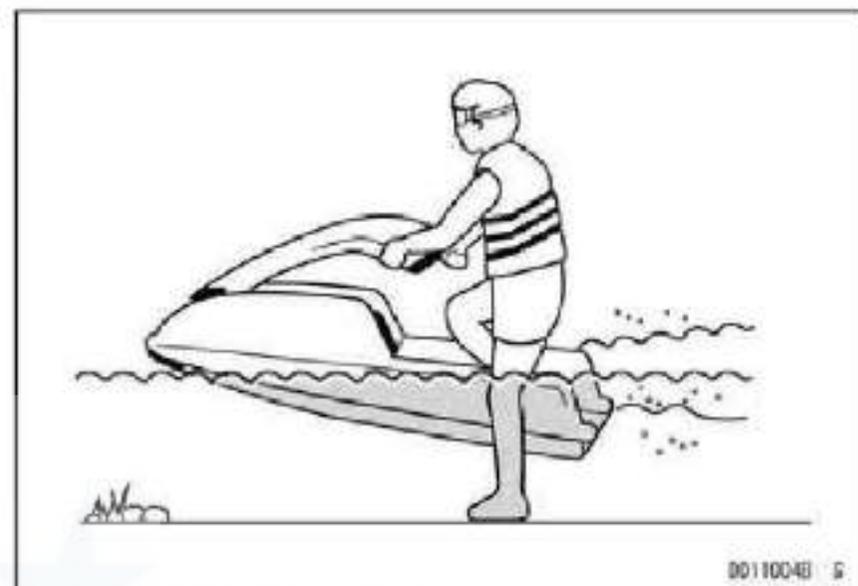
らない程度にできるだけ前方へ移動してください。体重を前方へ移動してください。体重を前方に低くかけ、体を垂直に保ってください。



立った姿勢での発進:

この方法は熟練者が行うことができます。

- 少なくとも60 cm以上水深がある所でエンジンを始動させます。
- 片方の足で海底に立ってバランスをとりながら、もう一方の足をデッキに乗せます。

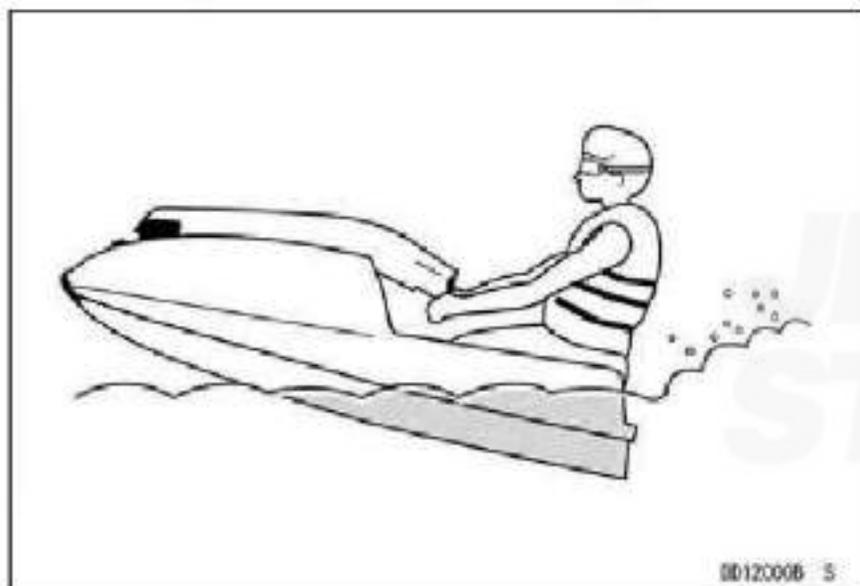


- すばやく加速して滑走に移り、立てていた足もデッキの後部に乗せます。
- 進行方向の他のボート、泳いでいる人達や、障害物に絶えず注意を払ってください。



停止

- ウォータクラフトは前進力によって滑走状態(水平)を保っているため、停止すると操縦者の体重により後部はいつも沈むこととなります。従って、停止したらウォータクラフトから降りられるよう準備をしておいてください。



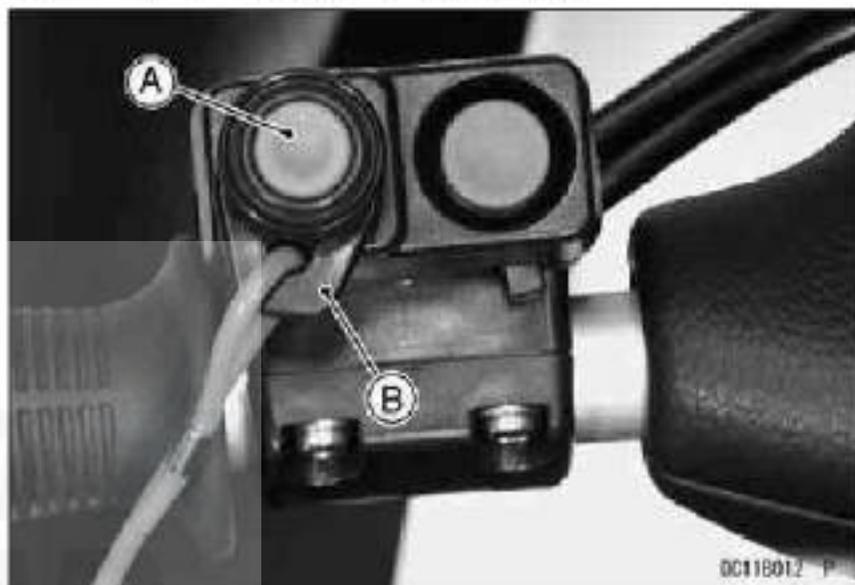
⚠ 警告

フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100m以内に直進して近づかないでください。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落としてください。

ウォータクラフトの停止方法は通常2通りのうちのどちらか一つです。いずれも水の抵抗を利用して停止します。

直線停止:

赤色のエンジンストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いてください。



- A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

ストップボタンを押すか、またはコードキーを抜くと直ちにエンジンが止まり、最短の直線距離で停止します。岸や停止したい位置に近づいてきたら赤色のストップボタンを押してください。砂や異物がジェットポンプに入ると損傷させることを防ぎます。

⚠ 警告

ウォータクラフトの旋回が必要なら、エンジンを止めないでください。エンジンが止まると方向を変えることは出来ません。

通常停止:

スロットルレバーを放してください。



A. スロットルレバー

スロットルレバーを放すと、エンジンストップボタンを押した場合と殆ど同じ位早く、船の前進運動を止めることができます。重要なことは、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いて船の進行方向を変えることが出来ることです。この方法で船を旋回させ、障害物から離れることが出来ます。

警告

スロットルレバーは完全に放すとウォータクラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引きつづけているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

停止技術:

停止技術は操縦者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮する事が出来ます。停止距離を短くするには、停止する際に体重を後へ移動する方法と、スロットルレバーを使って急旋回する方法があります。

警告

ウォータクラフトが完全に止まらないうちに降りる時は、前方に他のポートや泳いでいる人達、障害物がない事を確認してください。

緊急時には身を守るためにいつでも船から飛び降りてもかまいませんが、水上にいる他の人達を守る事にも最大の努力を払わなければなりません。

48 操縦方法

最短停止距離

最高速度で滑走中に、ストップボタンを押したときの最短停止距離は42mです。

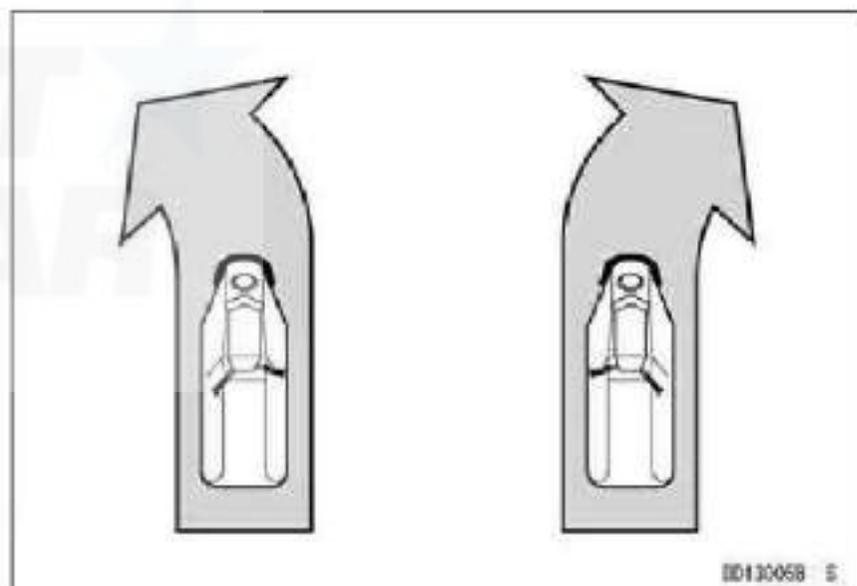
この数字は一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変われば数字も変わってきます。

旋回

ウォータクラフトを旋回させるには、次の三つの動作の組み合わせが必要です。

- ハンドルバーを回す。
- 旋回方向に体を傾ける。
- スロットルを使う。

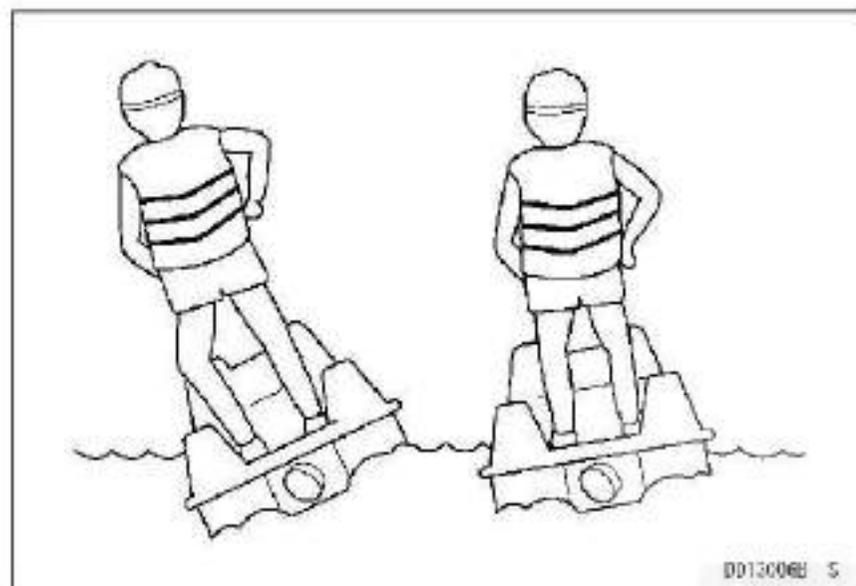
左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。 右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。



左旋回

右旋回

- バランスをとるために、体を旋回の内側へ傾けてください。傾ける度合いは、旋回半径の大小と滑走速度によって異なります。一般的には、速度が上がる程、または旋回半径が小さくなる（鋭く旋回する）程大きく体を傾けてください。

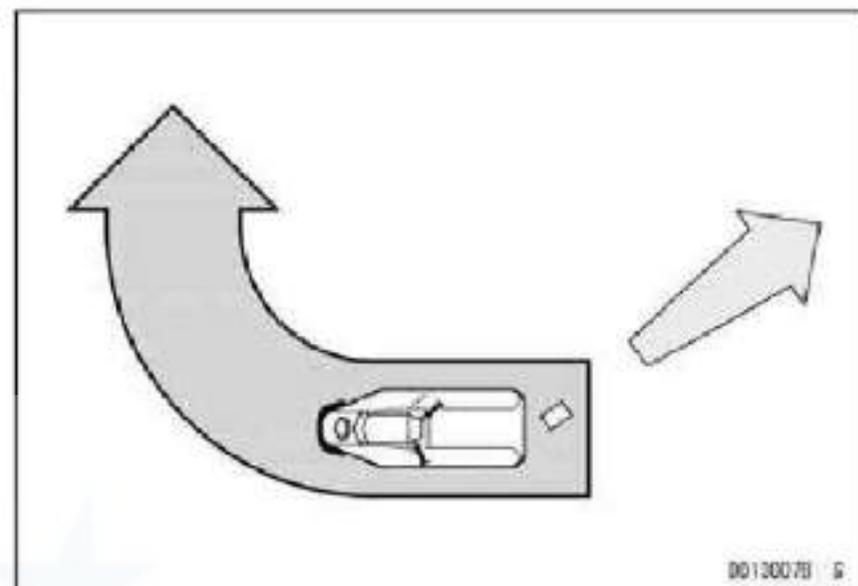


高速旋回(急旋回)

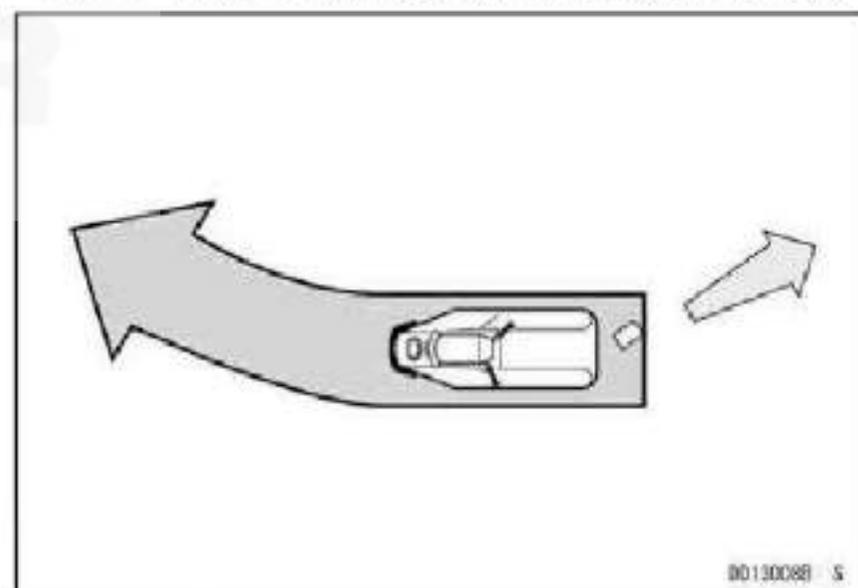
低速旋回

スロットルを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

ジェットポンプの推力が強いとウォータクラフトはより鋭く旋回します。



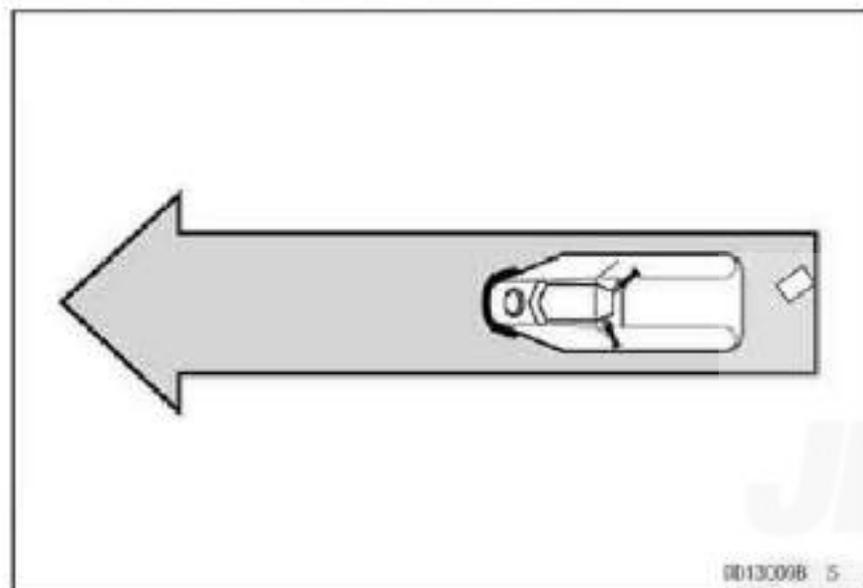
ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



アイドリング=ゆっくりと徐々に旋回

50 操縦方法

航走中にエンジンを停止するとジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータクラフトは真っ直ぐに進みます。



無推力＝旋回不可能

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ポートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

警告

スロットルレバーを完全に放すとウォータクラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方

初めてウォータクラフトに乗った時は、まずデッキに両膝をつき、ハンドルポールを降ろしたままにしてください。ウォータクラフトの扱い方に慣れてください。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルが旋回にどう影響するか感触をつかんでください。

ウォータクラフトの船首が連続的に上下する状態（ポーポイジング）が起きたら、体重をさらに前方へ移してください。

⚠ 警告

ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしないでください。波にぶつかった時、けがをすることがあります。

もし、燃料がきれてエンジンが止まった場合、チョークノブを回してはいけません。燃料バルブノブをRESの位置に回し、エンジンをもう一度始動します。常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意してください。

要点

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給してください。

- RESに切り換えたら、スロットルは半開以下で走行してください。
- 補給後はノブを必ず“ON”の位置にしてください。

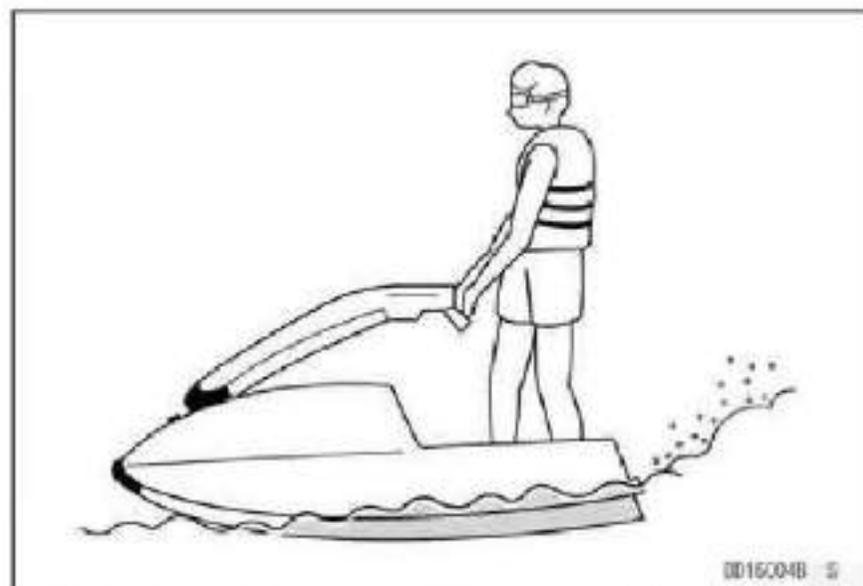
注意

ハンドルバーを押し下げないでください。ハンドルポールはエンジンフードの上に乗っているため傷がつくおそれがあります。
ウォータクラフトを岸に乗り上げないでください。インペラや船体がひどく損傷することがあります。浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないでください。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

一般に体重の重い人程上達するのに時間がかかります。操作特性になれたら、次は立って操縦する練習ができます。

立ち上がり方:

- 安定したスピードを保ちながら、ハンドルバーを少し持ち上げ、片足をデッキの前方近くに置きます。
- バランスを保ち、立って操縦する位置へゆっくりと立ち上がります。ハンドルバーもいっしょに持ち上げます。



- 体を垂直に保ち、ハンドルバーで旋回します。上達するに従って、体の反射運動の効果とか旋回時に体を傾ける効果を試してみてください。

転落:

初めてウォータークラフトに乗り、大抵の人がやるようにもし水中に転落しても落胆しないでください。ウォータークラフトの楽しみ方の一つはチャレンジであり、柔道の受身のように最良の倒れ方を知ること大切なことです。

また、操縦者がウォータークラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

警告

ウォータークラフトから落ちた時、ハンドルバーにしがみつかないでください。ウォータークラフトにぶつかってけがをするおそれがあります。

注意

落ちるときにハンドルバーにしがみつくと、ハンドルポールに狂いが生じる原因になり、その結果ハンドルポールとエンジンフードが損傷する原因になることがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、尻から先に落ちることです。
- コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押してエンジンを始動します。
- 「発進」の項で述べた要領で船に乗ります。
- もしウォータークラフトが復元せずに転覆したままになっていれば、直ちに次に述べる起こし方に従ってください。

要点

- もし、ウォータークラフトが大きく転覆したら、(特に初心者が操縦していた場合)、熟練者がときどきスロットルを全速にして走らせることが必要です。これによりエンジンルームにたまった水はピルジ装置で排水されます。
- ウォータークラフトは浮揚能力があります。エンジンルームが水で一杯になっても、船首は完全に水面下になっていますが、船体は水平に浮かんでいます。しかし、もしエンジン内に水が入った場合は、「浸水後の処置」の項の指示に従ってください。

転覆したウォータークラフトの起こし方:

万が一ウォータークラフトが転覆した時は、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。

⚠ 警告

このウォータークラフトは転覆してもその時の波と風の状況によっては自動復元しません。操縦者は適切なウォータークラフトの起こし方を知っていなければなりません。さもないと立ち往生することがあるかも知れません。

直ちに次の手順で船体を起こしてください。

- エンジンが停止したか確認します。もし、停止していなければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

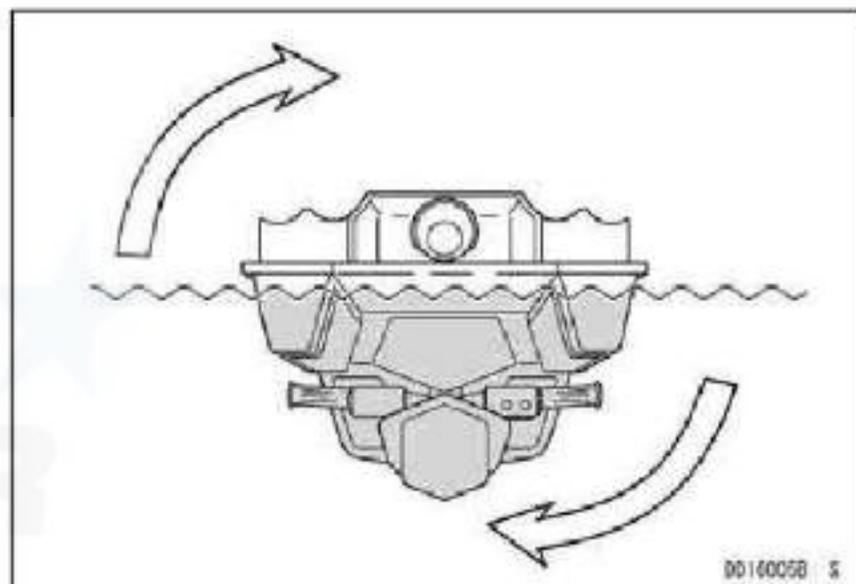
注意

もし、ウォータークラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、キャブレタやエンジンに水が入るおそれがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

- 転覆した船の後部に泳いで行きます。
- 両手でデッキ後部の左右の角をつかみ船を回転させます。

注意

転覆した船は常に左舷を下側にして右廻しに起こしてください。反対に廻すとマフラ内部の水がエンジンの中に入り、エンジンの損傷を招くおそれがあります。



- コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- 再び船に乗り込みます。

要点

- ウォータークラフトがいったん転覆した場合は、熟練した操縦者にスロットルを全開にしてしばらくの間船を走らせてもらってください。こうするとビルジ装置が働いて、エンジンルームにたまった水を排出することができます。

54 操縦方法

- もしエンジン内部に水が入った場合は、特別な処置が必要です。「特殊な手入れ」の項の「浸水後の処置」を参照してください。

航走終了後の手入れ

第1: 排気系統の水抜き

- ウォータクラフトを水から引き揚げます。
- エンジンを始動し、数秒間回転させて余分な水を排気系統から出します。排気口から水が出なくなる迄、繰り返しエンジンをふかしてください。

注意
水から引き上げた状態では、エンジンを高速で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。 水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄してください。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは、塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

第2: エンジンルームの清掃

- エンジンフードを取り外します。
- エンジンルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外し、排水をします。
- 海上でウォータクラフトを使用した場合はエンジンルーム内部を清水であらいます。

注意

水洗いする時は電気部品に水を掛けないように注意してください。またフレームアレスターに水が入らないよう、エアインテークホールにカバーを取りつけてください。また清掃後には必ず同カバーを取り外してください。

- ウォータクラフトを一週間以上使用しない時は、エンジン各部の発錆を防ぐため、防錆剤を塗布します。
- ウォータクラフトを2週間以上使用しない時は、バッテリーを取り外し、充電器を使って充電します。「整備と調整」の章の「バッテリー」の項を参照ください。
- エンジンルームをよく拭き乾燥させた後、エンジンフードを閉鎖してください。
- ウォータクラフトを保管する場合は、エンジンルームの換気ができるように、フードをきっちり締めずにすき間を開けておいてください。

第3: 船体外部の清掃

- 船外、デッキ、吸水口及び推進装置を清水で洗います。

注意

ウォータクラフトは、長時間水上に停泊するように設計されていません。長時間水上に停泊させると、船体塗装の浮きやはがれの原因になります。また、ジェットポンプの金属部の電解腐蝕を招き、寿命を縮める原因にもなります。ウォータクラフトは、昼夜を通した停泊を避け、1日の使用が終わるたびに陸上に引き揚げてください。これにより、塗装の傷みや電解腐食を防ぎ、外観をきれいに保ちます。

特殊な手入れ

インペラの清掃

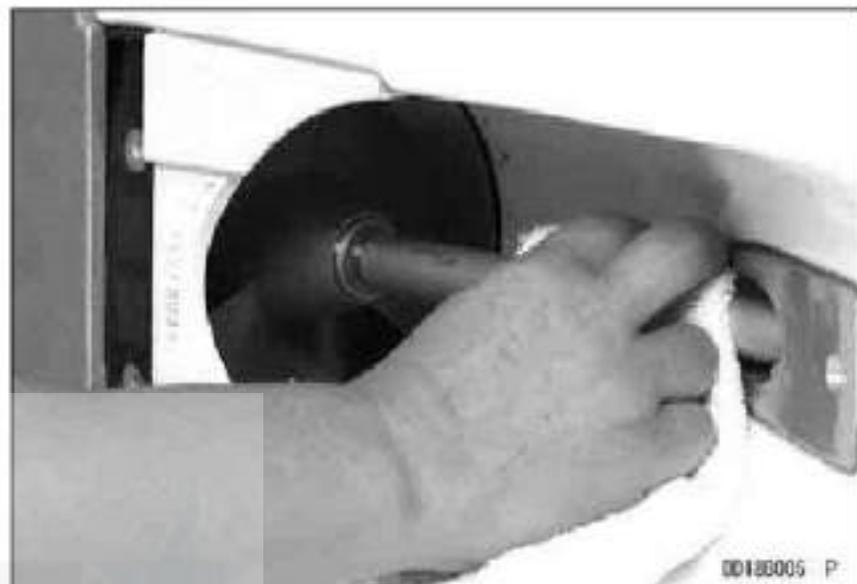
時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に除去する必要があります。

- エンジンを止め、ウォータクラフトを水から引き揚げます。

⚠ 警告

エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないでください。怪我をするおそれがあります。エンジンを止め、スタータロックスイッチを左位置にしておいてください。

- スタータロックスイッチを左の位置にします。
- タオルかパッドをウォータクラフトの横におきます。
- ウォータクラフトを左側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子およびカバーを取り外してください。
- 給水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプ口、ステアリングノズルから海草やゴミを取り除きます。



注意

ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっているか確認してください。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトをしっかりと締めます。

ボルト締め付けトルク: 7.8 N·m (0.8 kgf·m)

汚れたスパークプラグの清掃:

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度、長時間のアイドリング運転、チョークを使用したままの航走、規定されたガソリン対オイルの混合率以上にオイルを入れすぎた場合等です。また、燃料に水が混

じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けてください。汚れたスパークプラグはプラグクリーナーで清掃してください。水の付いたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。

スパークプラグ締付トルク:

25 ~ 29 N·m (2.5 ~ 3.0 kgf·m)

- エンジンを始動します。スロットルは殆ど使わないでください。

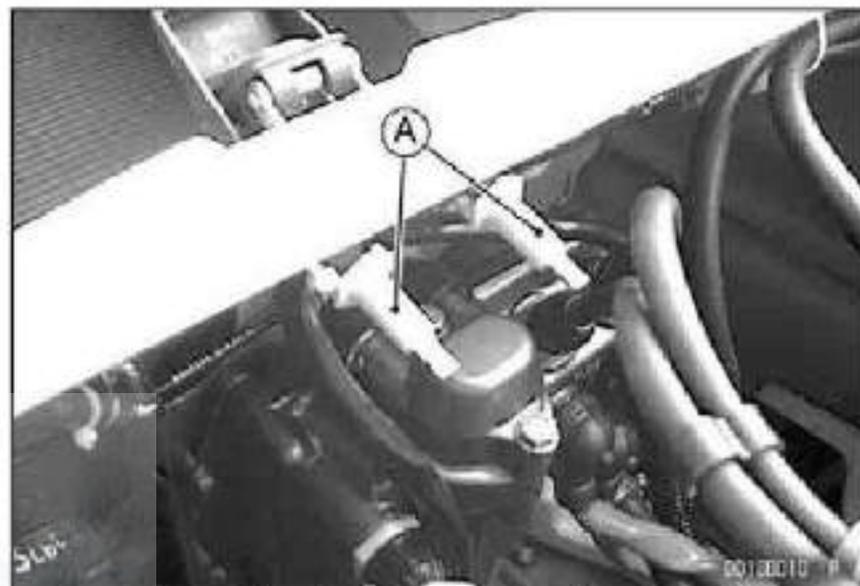
浸水後の処置:

注意

もしエンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をしてください。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もしウォータクラフトが浸水したら、キャブレタの吸気口からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクにも水が入ることがあります。

1. ウォータクラフトを水から引き揚げ、エンジンフードを取り外します。
2. ドレンプラグを外し、エンジンルームから水を出します。
3. スパークプラグキャップをスパークプラグから引き抜き、キャップホルダーへしっかりと差し込みます。



A. スパークプラグキャップホルダー

4. スパークプラグを取り外します。
5. ストップボタンを押したまま、またはコードキーを抜いて、スタータボタンを押します。これでエンジン内の水が排出されます。スタータボタンは5秒以上押さないでください。もう一度スタータボタンを使用する時は15秒以上間をあけてください。

警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ口から水とガソリンの混合物が勢いよく噴出し、目に入るおそれがあります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

58 操縦方法

6. スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグを取り付けます。

スパークプラグ締付トルク:

25 ~ 29 (2.5 ~ 3.0 kgf-m)

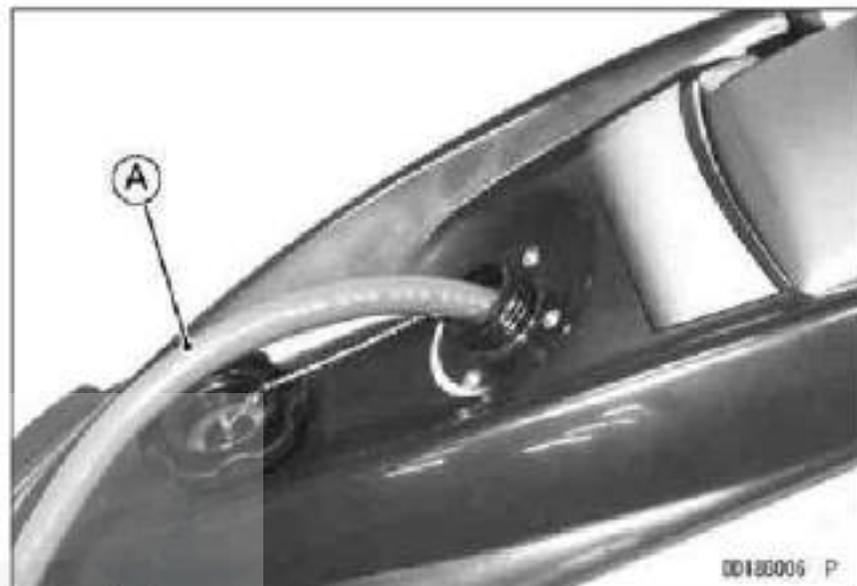
7. プラグキャップを取り付けます。
8. エンジンを始動します。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

水から引き揚げた状態では、エンジンを高速で回転させないでください。エンジンの重大な故障の原因になります。

9. もし、エンジンが始動しないならば、スパークプラグを取り外し、水気がないか点検します。浸透性防錆剤をスプレーして清掃し、再度始動してください。何度もプラグに水が付着するならば、燃料系統内に水気があります。
10. 燃料タンク内に水があれば、ポンプまたはサイフォンで全部抜きとります。燃料フィルタスクリーンを清掃します。(「整備と調整」の章の「燃料系統」の項参照。)新しい燃料を入れます。汚れた燃料は決められた場所で処理してください。



A. サイフォンホース

警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタータロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

注意

油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので「ジェットスキーARK」にご相談ください。

要点

○ エンジンから全く水がなくなる迄、この方法を繰り返してください。繰返しトラブルが起きる時は、混入した水を排出するために燃料ポンプを分解する必要があります。「ジェットスキーARK」に相談してみてください。

11. エンジンフードを取り付けます。
12. ドレンプラグを取り付けます。
13. 最後にウォータクラフトを水上に戻し、10分以上走らせて残っている水を完全に乾かし、異物(塩など)を排気口から排出します。

ウォータクラフト“ジェットスキー”のえい航:

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合には、ウォータクラフトをえい航してもらうことができます。6mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ポートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8 km/h以上のスピードを出さないでください。

注意

このえい航要領は重要ですから必ず守ってください。そうしないとエンジンルームに浸水し、ウォータクラフトの一部が沈むことがあります。

ジャンプコードによる始動:

バッテリーが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができない時は、他のウォータクラフト等の正常なバッテリーとジャンプコードを使って始動することができます。その場合、ウォータクラフトのバッテリーと同じ電圧(12V)のものを使用してください。

警告

バッテリー液は条件によって引火性および爆発性がある水素ガスを発生します。このガスはバッテリー内に常時あり、放電しきった状態でも残っています。火気や火花をバッテリーから遠ざけてください。また、バッテリーを取り扱っている時は、保護メガネを着用してください。バッテリー液が皮膚や目、衣類に付着した時は、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者診察を受けてください。

- 両方のバッテリーの(+)ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリーの(-)ターミナルに接続します。

注意

バッテリーを反対の極[(+)から(-)]へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



- A. (-) コード
- B. (+) コード

- もう一方の端をエキゾーストパイプのボルトに接続します。

警告

最後の手順の接続を間違えてキャブレタやバッテリーへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をする時は、バッテリーの上に体を取り出さないでください。また、凍結したバッテリーをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発するおそれがあります。

注意

5秒間以上連続してスタータを回さないでください。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、また回してください。

- エンジンを始動させた後、前記の逆の順序でジャンプコードを取り外してください。

エンジンのオーバーヒート:

このウォータクラフトには、エンジンがオーバーヒートした時にエンジンの回転を落とす温度センサーがついています。

- スロットルレバーを引いてエンジンが回転しているのに、ウォータクラフトのスピードが落ちた時は、直ちに岸に戻って冷却系統が詰まっていないか点検してください。

注意

航走中にウォータクラフトのスピードが落ちた時は、直ちに岸に戻ってください。オーバーヒートは、エンジンは排気系統の重大な損傷の原因になります。原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを運転しないでください。

JET ★
STAR

保管

冬の間や、長時間ウォータクラフトを使用しない時は、適切な保管が必要です。無くなった部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑、また一般的には次回ウォータクラフトを使用する時、最良のコンディションにしておくための準備をしておきます。「ジェットスキーARK」で行ってもらうか、または次の事項を実施してください。

注意

ウォータクラフトは、長時間水上に停泊するように設計されていません。長時間水上に停泊させると、船体塗装の浮きやはがれの原因になります。また、ジェットポンプの金属部の電解腐蝕を招き、寿命を縮める原因にもなります。ウォータクラフトは、昼夜を通した停泊を避け、1日の使用が終わるたびに陸上に引き揚げてください。これにより、塗装の傷みや電解腐食を防ぎ、外観をきれいに保ちます。

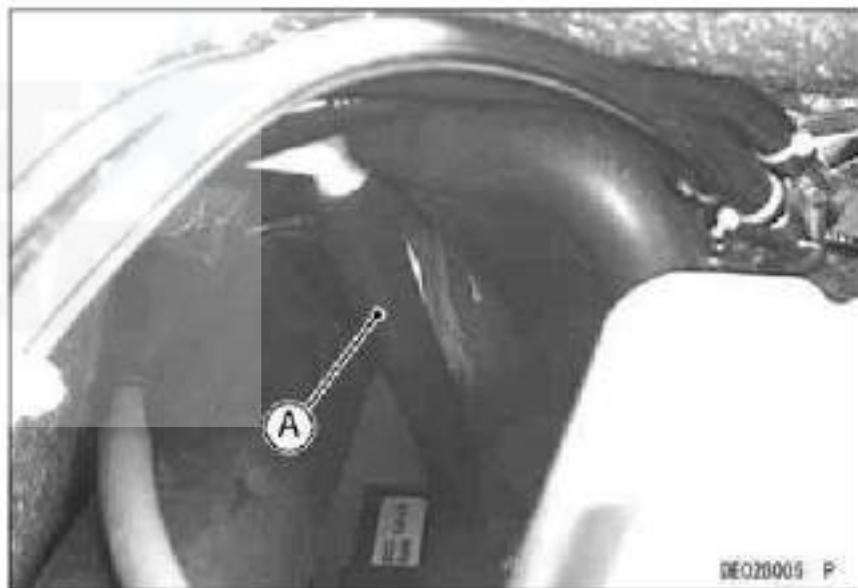
保管する前の作業

冷却系統:

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

ビルジ系統:

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）この時、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧縮空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出してください。



A. 両方のホースに空気を吹き込む。

燃料系統:

警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタータロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- サイフォンまたはポンプを使って、燃料タンクから燃料を抜いてください。
- 燃料フィルタスクリーンおよび燃料フィルタを清掃します。（「整備と調整」の章の「燃料系統」の項参照。）
- 燃料タンクの結露を防ぐために、燃料注入口キャップを緩めたままにしておいてください。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、キャブレタ内の燃料を使い切るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。
- コードキーをストップボタンから抜きます。

注意

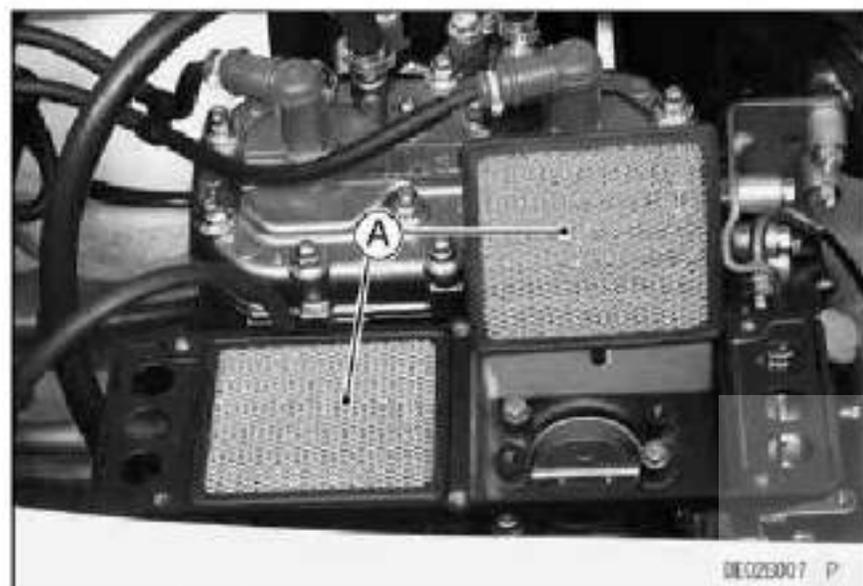
水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- キャブレタから空気吸入口カバーを取り外します。



- A. 空気吸入口カバー
- B. ボルト

- フレームアレスタエレメントを取り外し、石鹼水で洗います。乾いたらエレメントを取り付けます。上下の区別はありません。



A. エレメント

- キャブレタ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- カバーを取り付け、しっかりとボルトで締めます。

エンジン:

- スパークプラグを取り外し、各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- ストップボタンを押しながら、またはコードキーを抜いてスタータボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグロから防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入るおそれがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者診察を受けてください。

- スパークプラグに浸透性防錆剤をスプレーして取り付けます。

スパークプラグ締めトルク:

25 ~ 29 N·m (2.5 ~ 3.0 kgf·m)

バッテリー:

- バッテリーを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリー」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意

密封栓は絶対に取り外さないでください。バッテリーが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリーを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかないでください。また、保管中は大体月に1回補充電してください。

要点

○密閉型バッテリー専用の充電機を使用してください。

ジェットポンプベアリング／シール：

注意

ウォータクラフトを長期間保管する前に、ジェットポンプベアリングとシールの整備を実施し、ジェットポンプ内に残った水を抜いてください。水がポンプに残っていると、ジェットポンプベアリングが腐食したり、早期破損の原因になります。整備が不十分な場合、ジェットポンプベアリングが破損し、エンジンの重大な損傷の原因となります。

長期間保管する前に、「ジェットスキーARK」でジェットポンプベアリングとシールの整備を実施し、ジェットポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水が残ったまま長期間保管すると、ジェットポンプベアリングが腐食したり、早期損傷の原因になります。整備が不十分な場合、ジェットポンプベアリングが破損し、エンジンの重大な損傷の原因となります。

洗浄：

- エンジンルームを水洗いし、船尾のドレンプラグを外して水を抜きます。
- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かしてください。

注意

ウォータクラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用してください。強力な溶剤は化学作用で表面の塗装を変色させることがあります。

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。
- エンジンフードをゆるくかぶせ、適当な換気が行われ、結露を防ぐために10 mm位の木片等を差し込んでおきます。
- ウォータクラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

注意

ウォータクラフトを屋外に保管すると、カバーで覆っていてもデッキに水がたまる場合があります。デッキにたまった水は塗装の浮きやはがれ、さらにはデッキマットがはがれる原因になります。ウォータクラフトをトレーラに載せたまま保管する場合、デッキの水が流出するように船首側を上げておいてください。

潤滑：

- すべての推奨潤滑方法を実施してください。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータクラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。「ジェットスキーARK」で行ってもらうか、または次の事項を実施してください。

- すべての推奨潤滑方法を実施してください。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）
- スロットル、チョーク、およびステアリング機構が動かなかったり、途中でひっかかたりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置に戻らなければいけません。
- スパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。（「整備と調整」の章の「スパークプラグ」の項参照。）
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータクラフトを左へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換してください。カバーを取り付け、しっかりと固定します。

ボルト締め付けトルク: 7.8 N·m (0.8 kgf·m)

- ドレンプラグがしっかり取り付けられているか点検します。
- ターミナルを清掃し、必要ならば補充電します。バッテリーを取り付けてください。（「整備と調整」の章の「バッテリー」の項参照。）

- 燃料タンクに燃料を入れ、燃料注入口キャップをしっかりと締めます。

警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタータロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気してください。

警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理してください。

警告

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料および排気ガスの漏れを点検してください。漏れがあれば必ず修理してください。

注意
水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。 水から引き揚げた状態では、エンジンを高速で回転させないでください。エンジンの重大な故障の原因になります。

- エンジンフードを取り付け、ラッチがロックされたか確認します。

JET★
STAR

整備と調整

定期点検整備表

要点

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施してください。

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間毎
すべてのホース、ホースクランプ、ナット、ボルトおよびファスナを点検する。		●	●		
※ ジェットポンプベアリングとシールを潤滑する。 ベアリング/シールを点検し、必要ならば交換する。		最初の20時間後、以降は50時間毎または毎年1回のどちらか早い時期			
キャブレタ部のスロットルケーブル取り付け部および チョークケーブル取り付け部を潤滑する。			●		
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。			●		
チョークケーブルとスロットルケーブルおよびスロットル ケースのケーブル取り付け部を潤滑する。			●		
ステアリングケーブルとホールジョイントと、ステアリングノ ズルのピボットを潤滑する。			●		
※ ハンドルバーピボットを潤滑する。			●		
燃料フィルタスクリーンを清掃する。			●		

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間毎
バッテリーの充電状態を点検する。			●		
キャブレタを調整する。			●		
ビルジ系統およびフィルタを洗浄する。			●		
冷却系統を洗浄する(海上で操縦したときは使用後毎回)。			●		
フレームアレスタを点検および清掃する。			●		
※ 燃料ベントチェックバルブを点検する。			●		
※ インペラのブレードの損傷を点検する(要取り外し)。					●
※ カップリングダンパを点検、交換する。					●
※ キャブレタのスロットルシャフトのスプリングを点検する (もし必要ならばキャブレタを交換する)。					●
※ ステアリングケーブルを点検する。					●
船尾ドレンプラグの損傷を点検する(もし必要ならば交換する)				●	
バッテリーターミナルの点検			●		
※ 燃料ホースを交換する。		5年毎			

※これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取り扱いに熟練していなければ、「ジェットスキーARK」で実施してもらってください(サービスマニュアル参照)。

コントロールケーブルの調整

チョークケーブルの調整

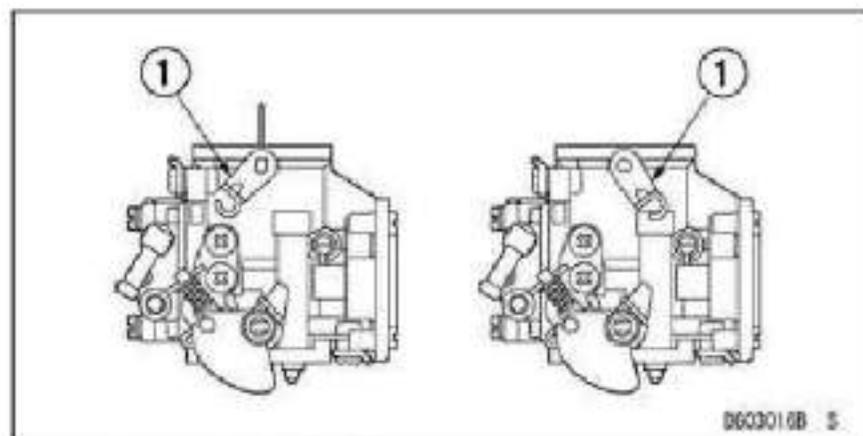
- チョークノブが左にいっぱい回っているとき（“OFF”位置）、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に開いていなければなりません。チョークのピボットアームが船の右側にいっぱい向いており、ケーブルがわずかに緩んでいるか点検します。
- チョークノブが“ON”の位置の時、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に閉じていなければなりません。チョークのピボットアームが船の右側にいっぱい向いており、アームがそれ以上手で動かないことを点検します。

チョーク開

（チョークノブ“OFF”の位置）

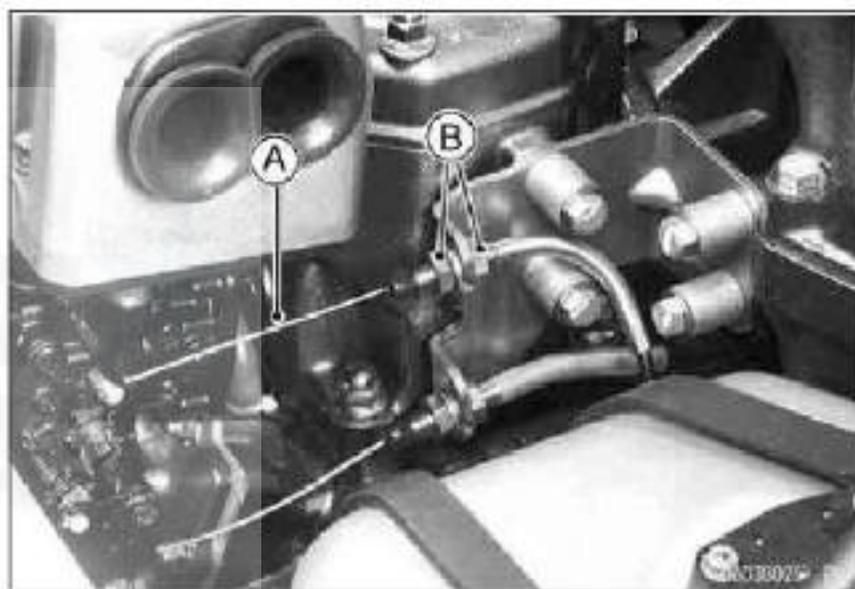
チョーク閉

（チョークノブ“ON”の位置）



1. チョークピボットアーム

- 必要ならばチョークケーブルを調整してください。
- チョークノブを“OFF”位置にします。
- ケーブルブラケットにあるロックナットを緩めて回し、ケーブルに少しの遊びを持たせます。
- ロックナットをしっかりと締めます。



A. チョークケーブル
B. ロックナット

スロットルケーブルの調整:

- スロットルケーブルの調整具合を点検します。
- スロットルレバーを全く放した状態では、スロットルピボットアームの下側のストッパがアイドルリングアジャストスクリーンに当たっており、スロットルケーブルはわずかに遊びがあります。

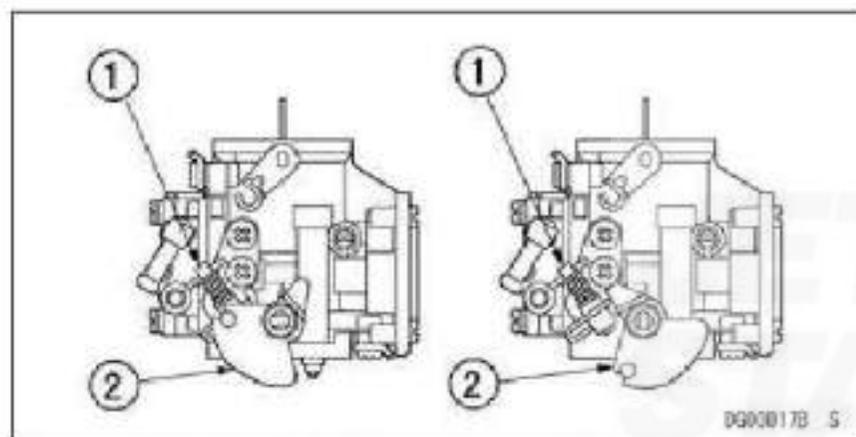
- スロットルレバーをいっぱい引いた時、ピボットアームの上側のストッパがキャブレタのストッパに最大限に近接しています。

チョーク閉

(レバーを放した状態)

チョーク開

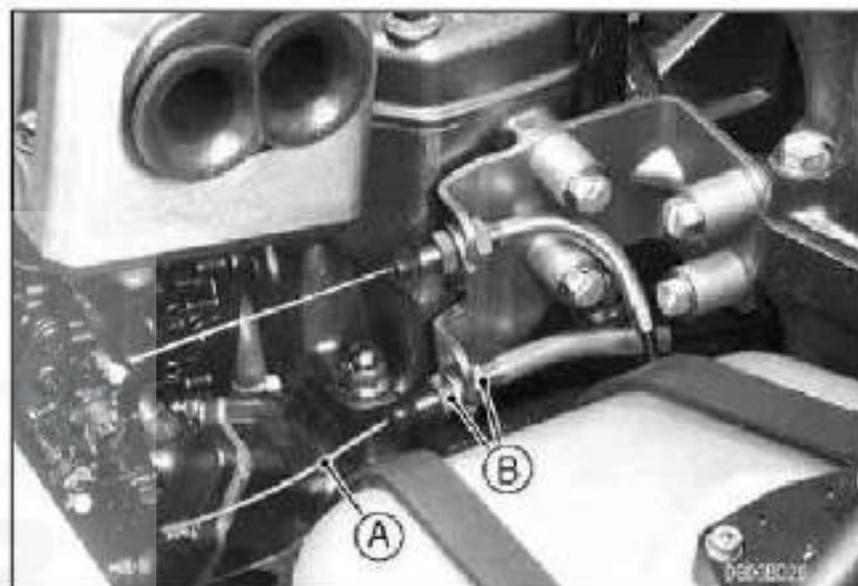
(レバーをいっぱい引いた状態)



1. アイドリングアジャストスクリュー
2. スロットルピボットアーム

- 必要ならばスロットルケーブルを調整します。
- ケーブルプラケットのロックナットを緩めます。ピボットアームの下側のストッパがアイドルアジャストスクリューに当たるようにします。

- 次にロックナットを回して、ケーブルに少しの遊びを作ります。
- 調整が終わったら、ロックナットをしっかり締めてください。

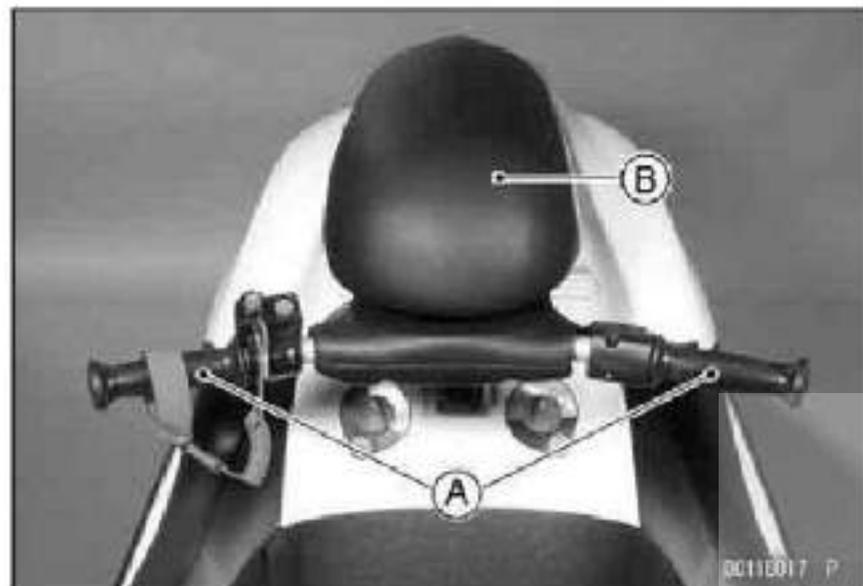


- A. スロットルケーブル
- B. ロックナット

ステアリングケーブルの調整:

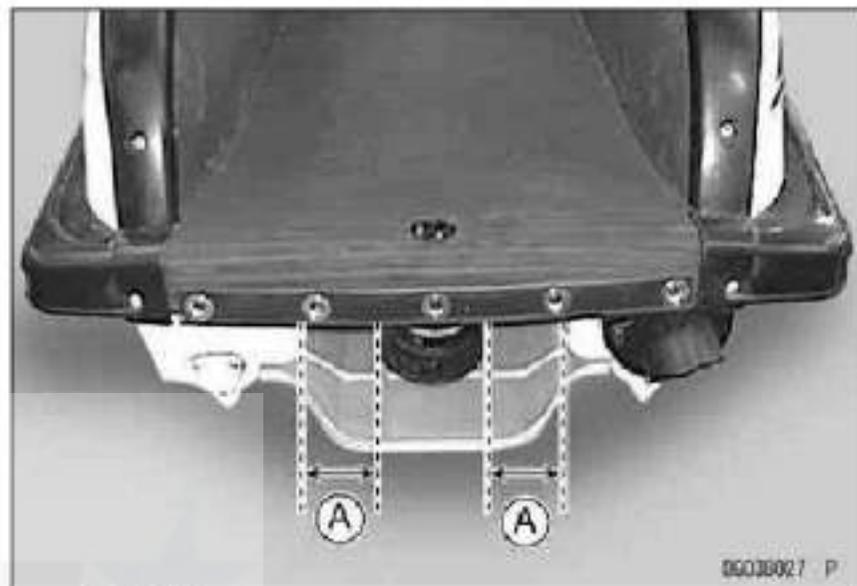
- ハンドルボールを下げ、ハンドルバーを真っ直ぐ正面に向けます。

72 整備と調整



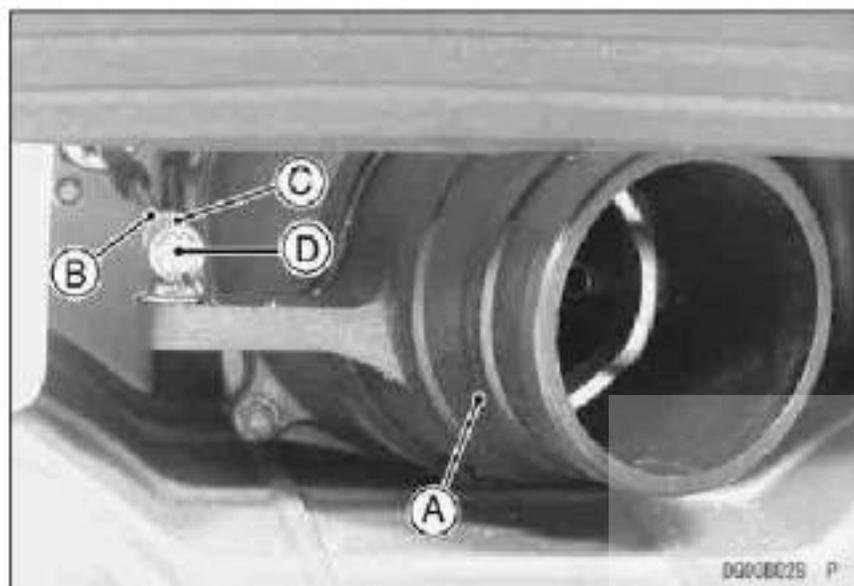
- A. ハンドルバー
- B. ハンドルポール

○ ステアリングノズルがノズルルームの両側から同じ距離にあるか点検します。



- A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル左側のステアリングリンクのロックナットを緩めます。

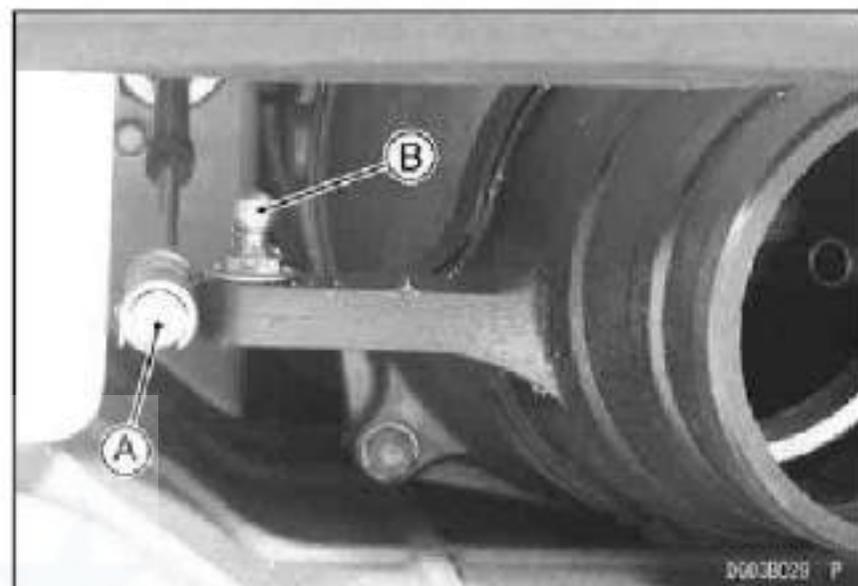


- A. ステアリングノズル
- B. ロックナット
- C. スリーブ
- D. ボールジョイント

- アウタスリーブをずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- ハンドルバーを真っ直ぐ正面に向けます。
- ステアリングノズルをノズルルームの中央に位置させます。
- リンクのボールジョイントを回して、穴がボールの位置に合うようにします。

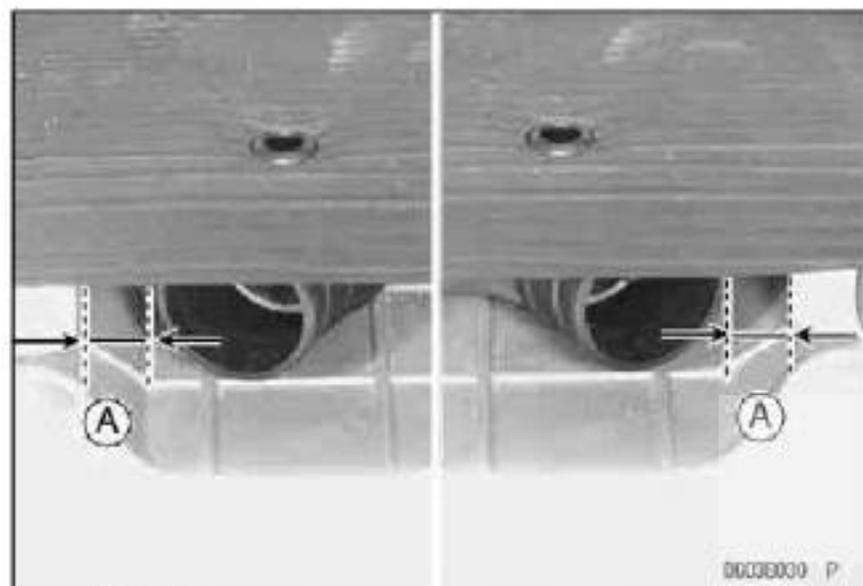
要点

- ケーブル端部が5mm以上ジョイントにねじ込まれていることを確認します。



- A. ボールジョイントの穴
- B. ボール

- ボールジョイントを接続し、もう一度ケーブルの調整具合を点検します。
- 調整がただしければステアリングリンクのロックナットを締めます。
- もう一つの点検方法として、ハンドルバーを左右にいっぱい切ります。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

ステアリングケーブルの点検:

ステアリングの動きがスムーズでなかったり、引っかかっているように感じられた時は、「ジェットスキーARK」で点検を受けてください。

要点

- ステアリングケーブルの両端はシールされているので、潤滑する必要はありません。

燃料系統

キャブレタの調整

アイドリングスピード:

正常なアイドリングスピードとは、最も低い、しかし安定したスピードを言います。

- アイドルアジャストスクリューを右へ回すとアイドリングスピードは上がり、左へ回すと下がります。



A. アイドルアジャストスクリュー

アイドリングスピード

- 水上……約1 250 rpm
- 陸上……約1 700 rpm

ミクスチュアスクリュー

キャブレタは出荷前に工場にて測定器を使って一つひとつ調整されていますので、すべてのキャブレタに共通する特定のセッティングはありません。そのキャブレタに最適のセッティングがなされた後、キャップが取り付けられています。従ってキャップのレバーを動かしたり、キャップを外してミクスチュアスクリューの位置を変えたりしないでください。

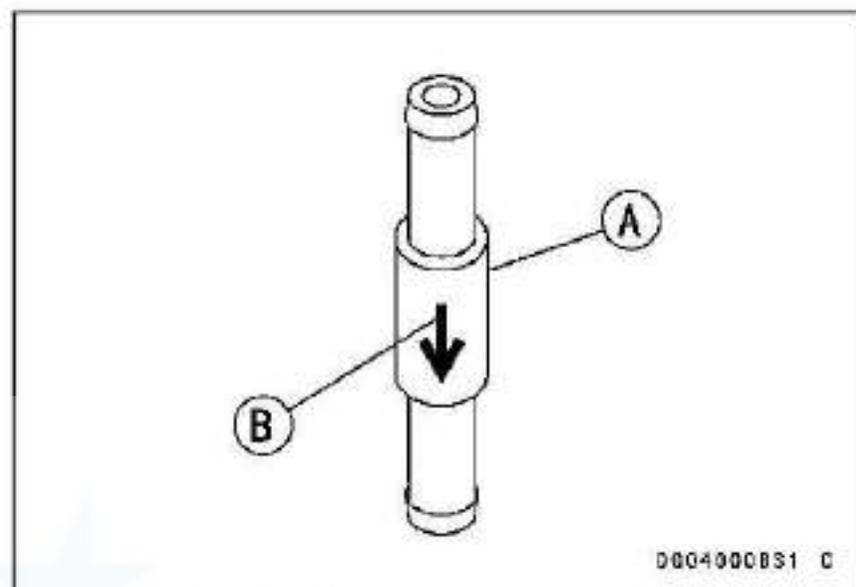
要点

- もし調整が要る場合は「ジェットスキーARK」でサービスを受けてください。

燃料ベントチェックバルブ

燃料タンクにはベントホースが設けられています。ベントホースの中間にチェックバルブが取り付けられ、ウォータクラフトが転覆したときの燃料流出を少なくし、燃料タンクへの空気の流れを許しています。

「定期点検整備表」の規定に従って、チェックバルブの検査を「ジェットスキーARK」で受けてください。



- A. チェックバルブ
- B. 流れ方向

高地使用

このキャブレタは海面での使用に調整されています。高地でジェットスキーを使用すると大気圧の減少により空気/燃料の混合が濃くなり性能の低下燃料の消費大となります。

1 000 m以上の高地でジェットスキーを使用する時には「ジェットスキーARK」でキャブレタの調整を受けてください。

燃料フィルタスクリーン:

ウォータクラフトには、キャブレタにゴミや異物が入るのを防ぐために燃料フィルタスクリーンが付いています。

76 整備と調整

「定期点検整備表」の規定に従って、燃料フィルタスクリーンを清掃してください。

燃料フィルタスクリーンの点検

- 取り付けスクリューを外し、燃料アウトレットアッシを引き出します。



A. スクリュー

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタータロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所が換気が良く、火気がないかよく確かめてください。



A. 燃料フィルタスクリーン

- 燃料フィルタスクリーンに損傷や品質の低下がないか点検します。もしあれば交換してください。

燃料フィルタスクリーンの清掃

- 燃料フィルタスクリーンを洗浄油で洗い、スクリーンに詰まった汚れはブラシで落としてください。

⚠ 警告

フィルタスクリーンの清掃は通気性の良い、火気のない場所で行ってください。ガソリンとか引火性の強い洗浄油は、スクリーンの洗浄には使用しないでください。

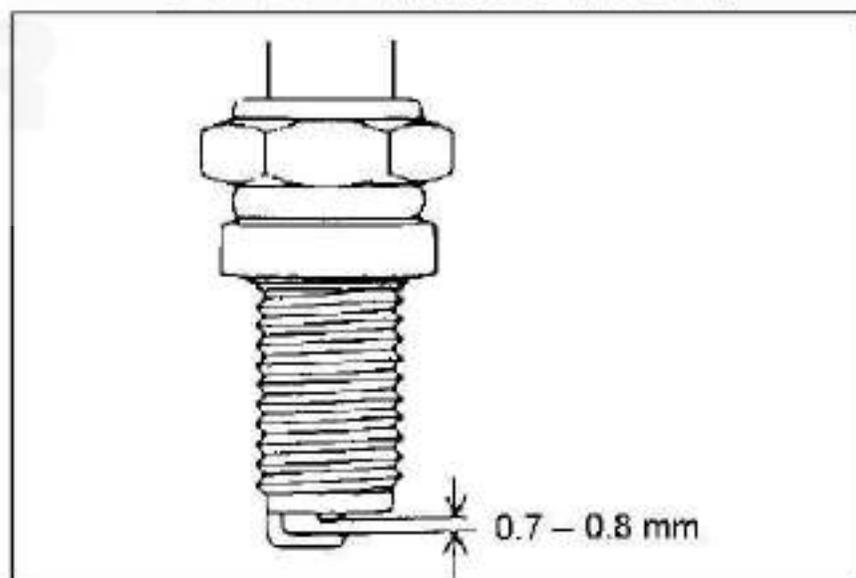
- 燃料アウトレットアッシェを取り付け、スクリューをしっかりと締めます。

スパークプラグ

「定期点検整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK BR8ESです。ギャップを0.7～0.8 mmに調整して使用してください。

ウォータクラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンダヘッド温度は比較的安定しています。従ってエンジンの調子がよく、調整も適切で、適切な混合比のガソリンとオイルを使用すれば、熱価の異なったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱価のスパークプラグを使用するとエンジンの広範囲な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用してください。



78 整備と調整

スパークプラグの点検および交換

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を点検します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁体が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照してください。

注意

過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起すので、原因をつきとめ直ちに修正してください。

- 絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物がある時は、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。キャブレタが正しく調整されているか点検してください。黒い堆積物が湿って油気を帯びている時は、オイルのタイプか混合比が不相当と考えられます。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗淨油で清掃します。ギャップが広がっていれば、0.7~0.8 mmに調整します。電極が腐食または焼損していれば、プラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷がある時は、いつでもプラグを交換してください。

スパークプラグ締付トルク:

25 ~ 30 N·m (2.5 ~ 3.0 kgf·m)

バッテリー

このウォータクラフトは密閉型バッテリーを使用しています。従って、バッテリー液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリーにバッテリー液がいったん入れられたら、密封栓を外さないでください。また、このウォータクラフトは、密閉型バッテリーのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリーと交換しないでください。

注意

密封栓は絶対に外さないでください。バッテリーが損傷します。

バッテリーを交換する場合は、必ず同型式のバッテリーをご使用ください。違う型式のバッテリーを使用すると、電気系統が正しく機能しません。

使用済みのバッテリーを廃却する場合は、「ジェットスキーARK」にご相談ください。

要点

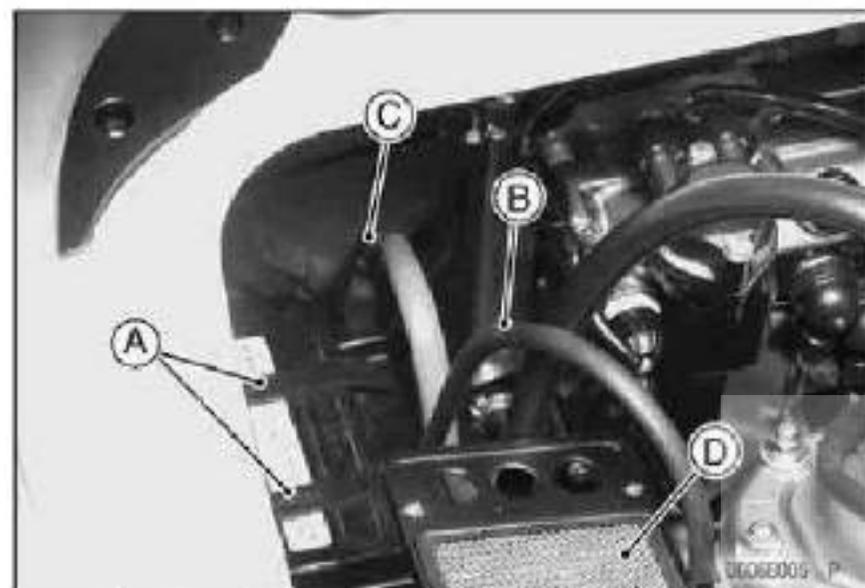
- 密閉型バッテリーを補充電する時は、バッテリーのラベルの指示に必ず従ってください。

バッテリーの取り外し

バッテリーの取り外しを容易にするため、最初にエアインテークカバー（空気吸入口カバー）を取り外してください。



- A. エアインテークカバー（空気吸入口カバー）
- B. ボルト

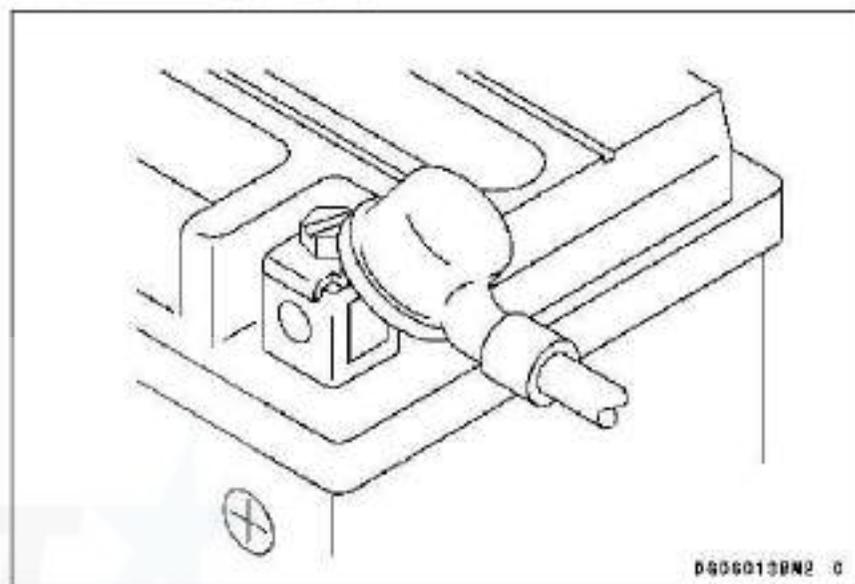


- A. ゴムバンド
- B. 黒ケーブル (アース)
- C. 赤ケーブル
- D. フレームアレスター

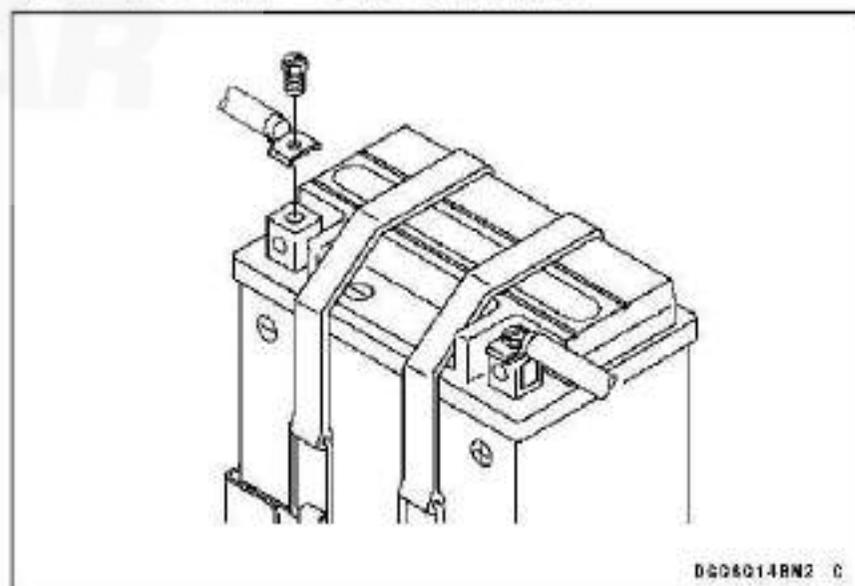
1. バッテリーケーブルの取り外し

- 必ずキルスイッチコードキーをストップボタンから抜いてから実施してください。

(1) キャップをずらす。

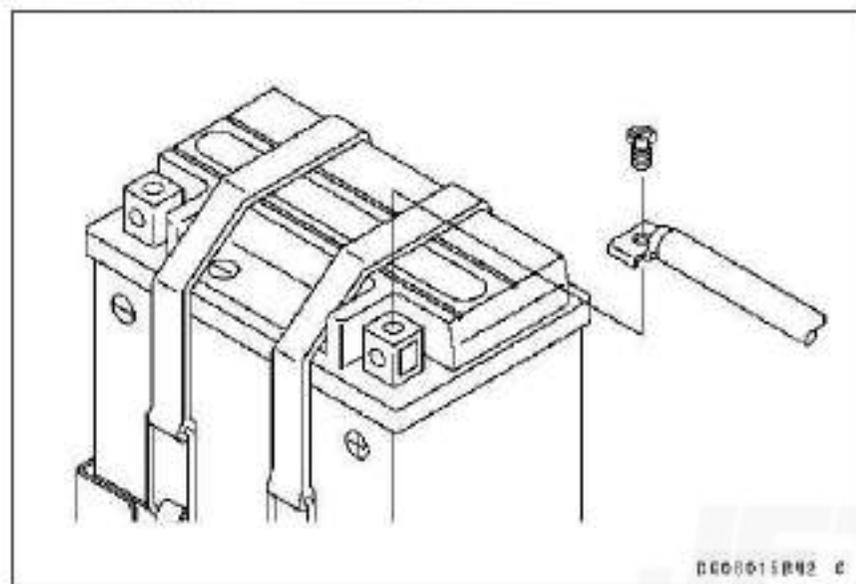


(2) マイナス側ケーブルの取り外し



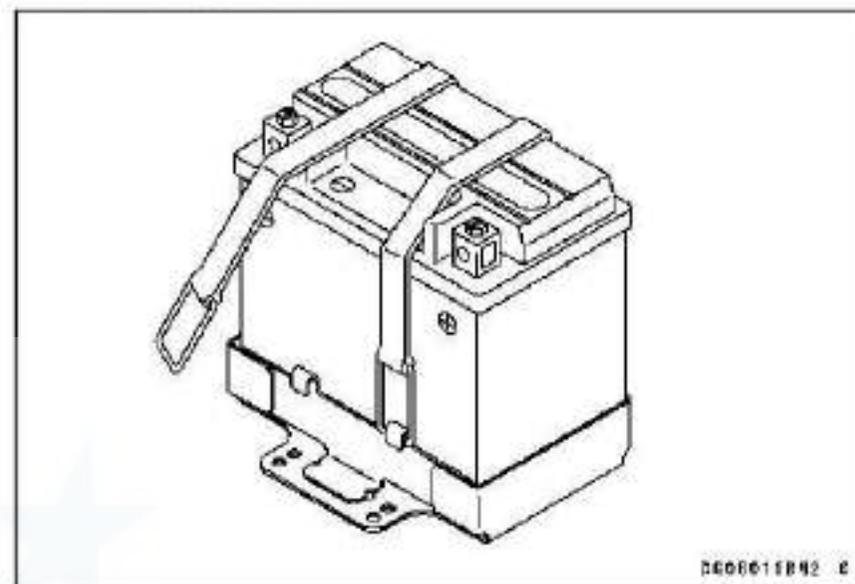
- 必ずマイナス (-) 側を先にはずす。

(3) プラス側ケーブルの取り外し



- 次に (+) 側をはずす。

2. バッテリー取り外し



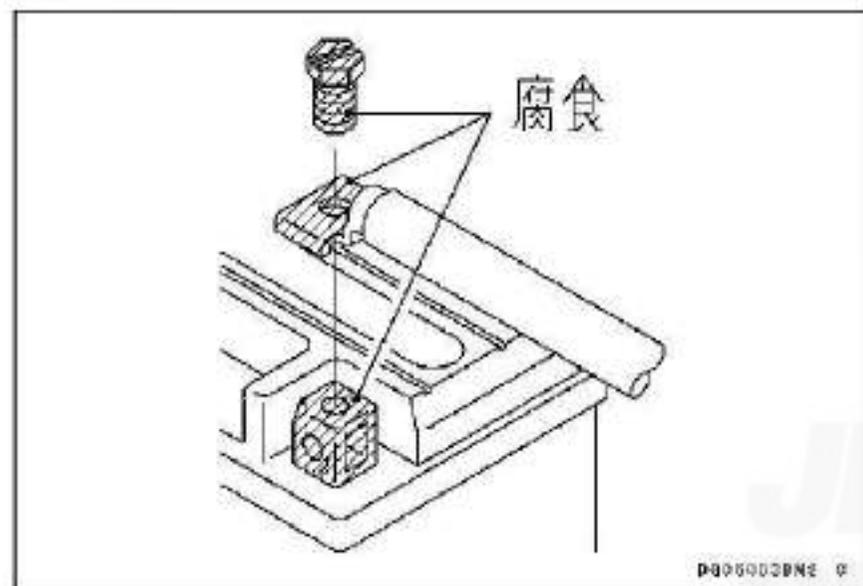
- 固定バンドの金具をフックより取りはずす。

JET
STAR

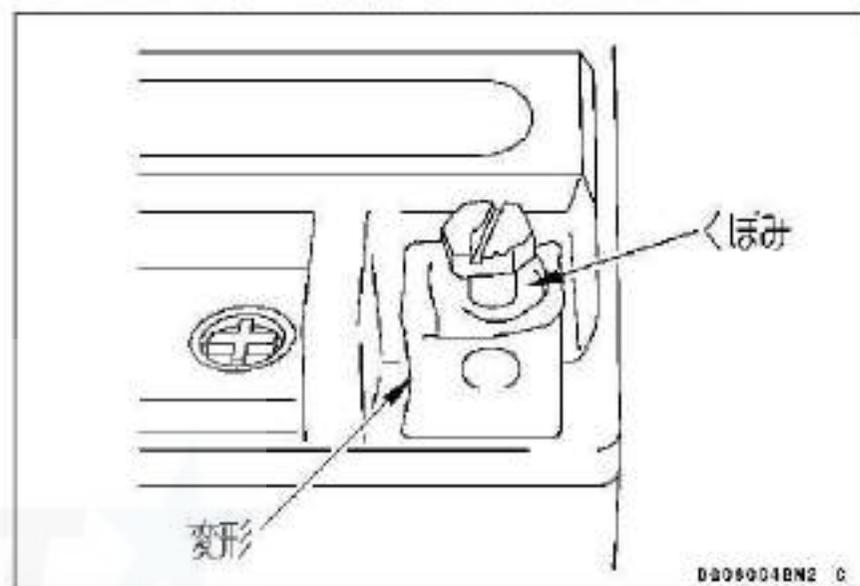
82 整備と調整

バッテリーの点検、処置:

(1) バッテリー端子部の酸化・腐食(緑青の発生、白い粉吹き等)



(2) バッテリー端子の損傷(変形、割れ、くぼみ)

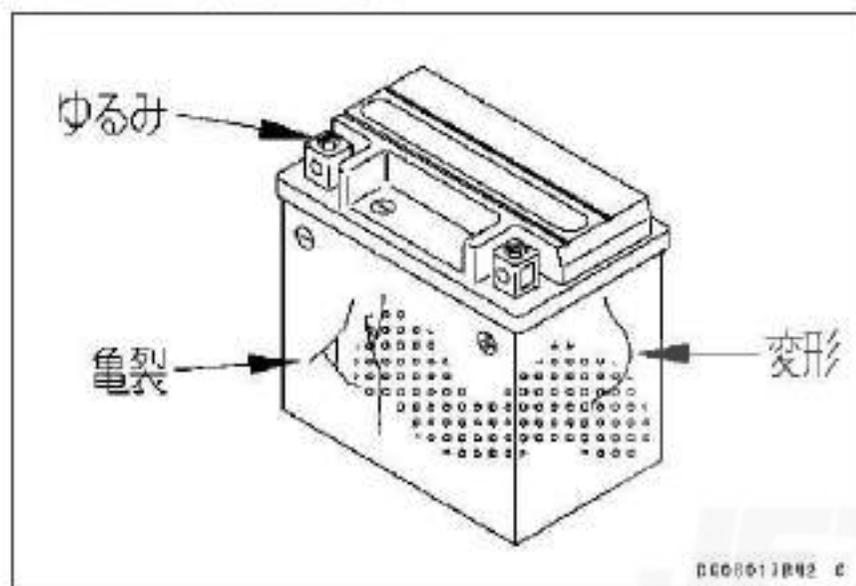


- 変形、割れ、くぼみがあればバッテリーを交換する。

<クリーニング方法>

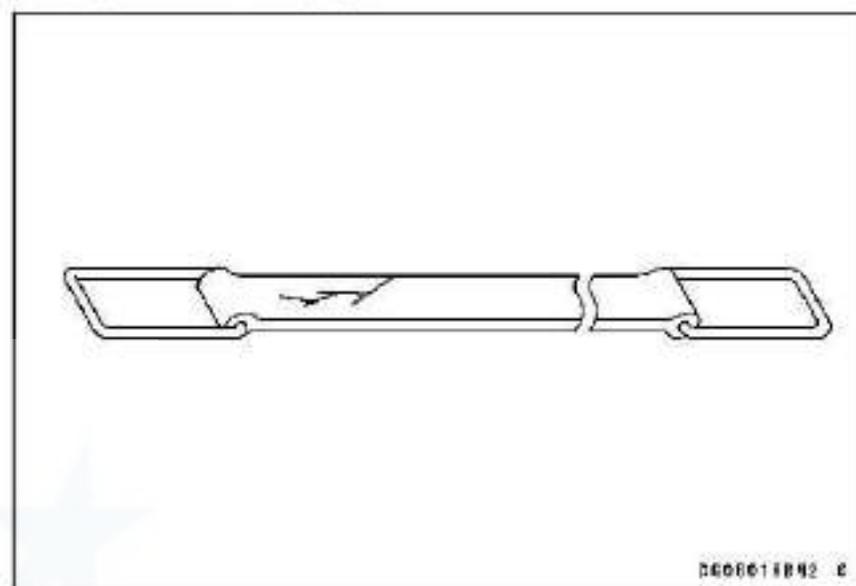
1. 浸透潤滑剤スプレーを塗布する。
2. 5分間放置する。
3. 布でふき取る。またはサンドペーパー、ワイヤブラシで磨く。

(3) バッテリー本体の点検



- 変形、割れ等のダメージがないことを確認する。

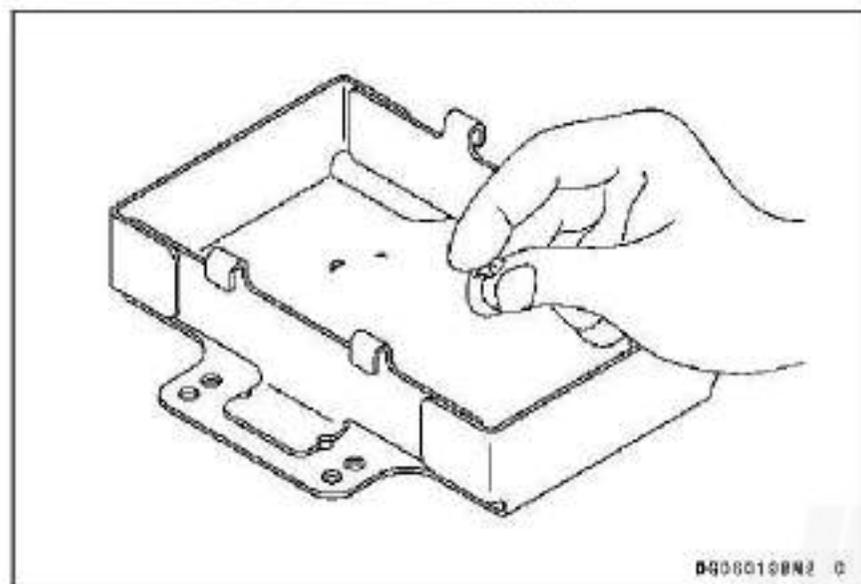
(4) 固定バンドの点検



- 切れ、割れ、伸びなどの劣化がないことを確認する。

84 整備と調整

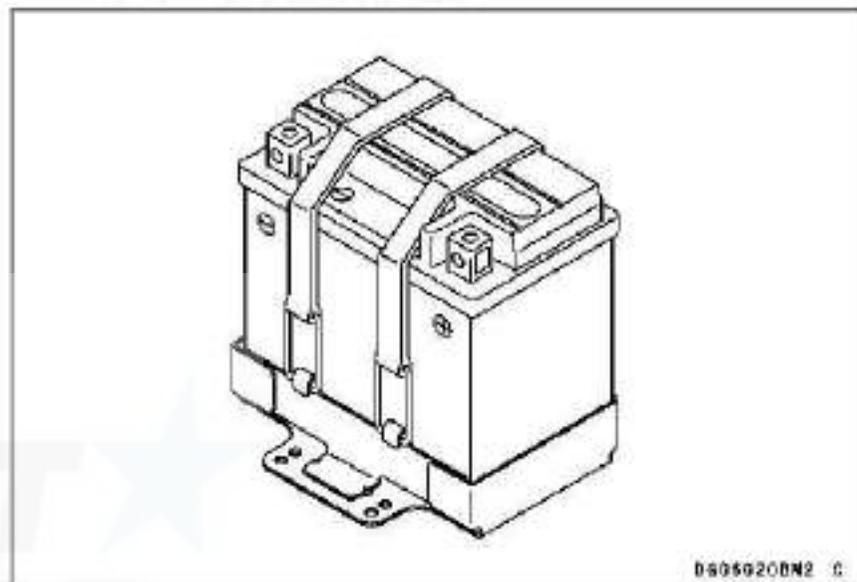
(5) バッテリー取り付けケースの清掃



- 取り付けケースを確認し、ゴミなどがあれば除去する。

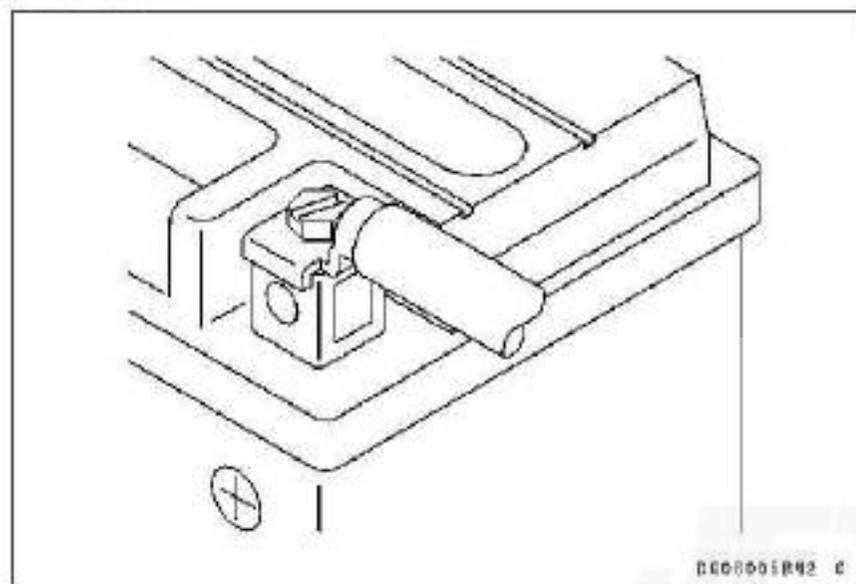
バッテリーの取り付け:

1. バッテリーの取り付け、固定



- バッテリーをバンドで固定し、バッテリーにガタが無いことを確認する。
- #### 2. ケーブル組み付け
- ケーブルは必ずプラス側を先に取り付けてください。

(1) 仮締め



- ケーブル端子の向きに注意し、バッテリー端子とケーブル端子が密着するように取り付ける。

注意

バッテリーの(+)と(-)を逆に接続しないでください。レギュレータや整流器が損傷します。

(2) 本締め



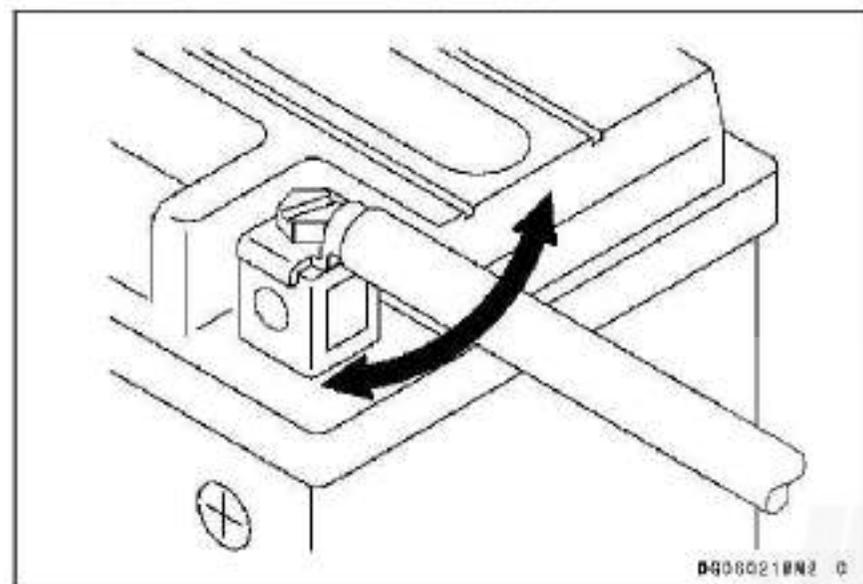
- スパナを使用し、規定トルクで締め付ける。規定トルク：3 N·m (0.3 kgf·m)

注意

プラス側を本締めした後、マイナス側を取り付ける。

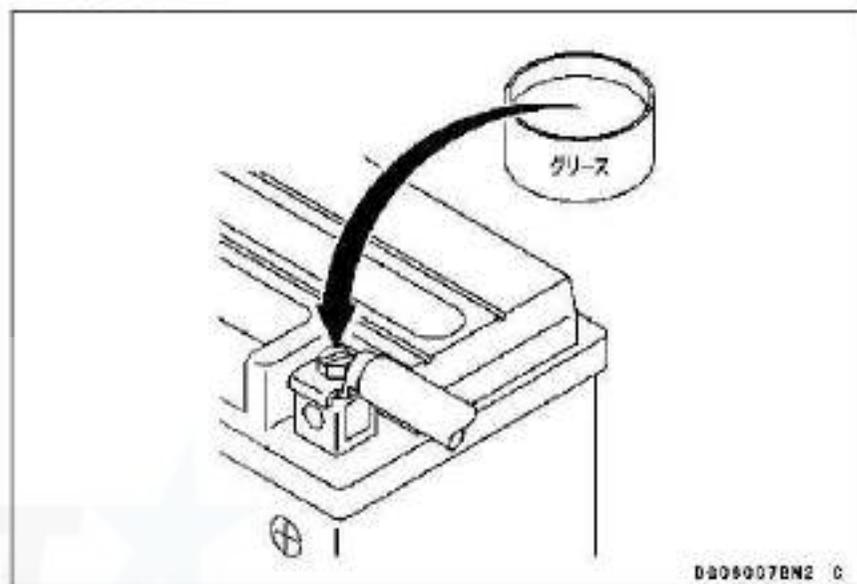
86 整備と調整

(3) バッテリーケーブルの固定確認

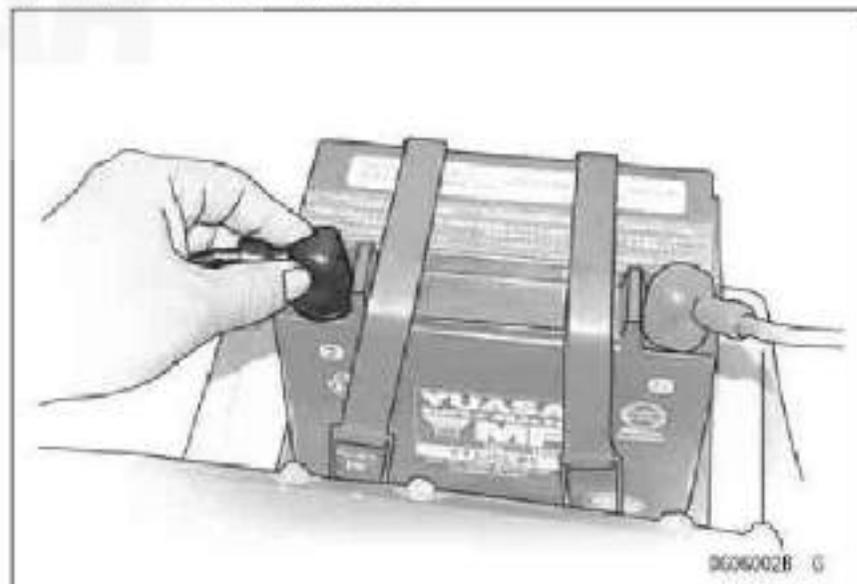


- 両側とも本締めした後、ケーブル端子を左右方向に動かし、ケーブルが動かないことを確認する。

(4) 防錆処理



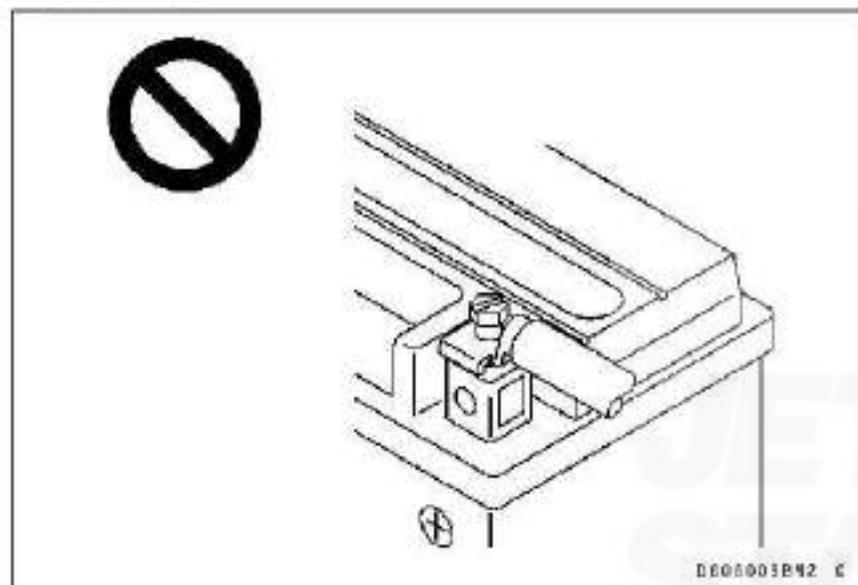
- グリースまたは浸透潤滑剤を塗布する。
- (5) 端子キャップ取り付け



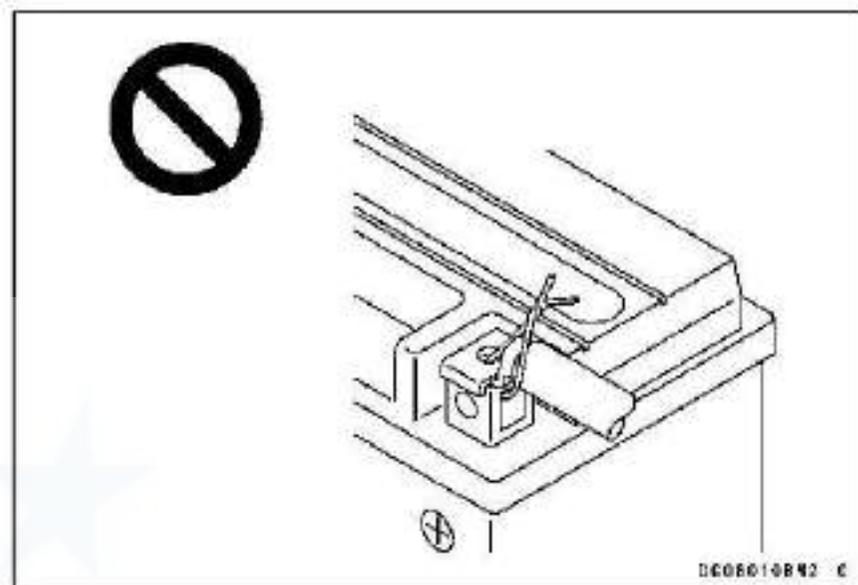
- 端子部を端子キャップで確実にカバーする。

ケーブル取り付け時の注意事項

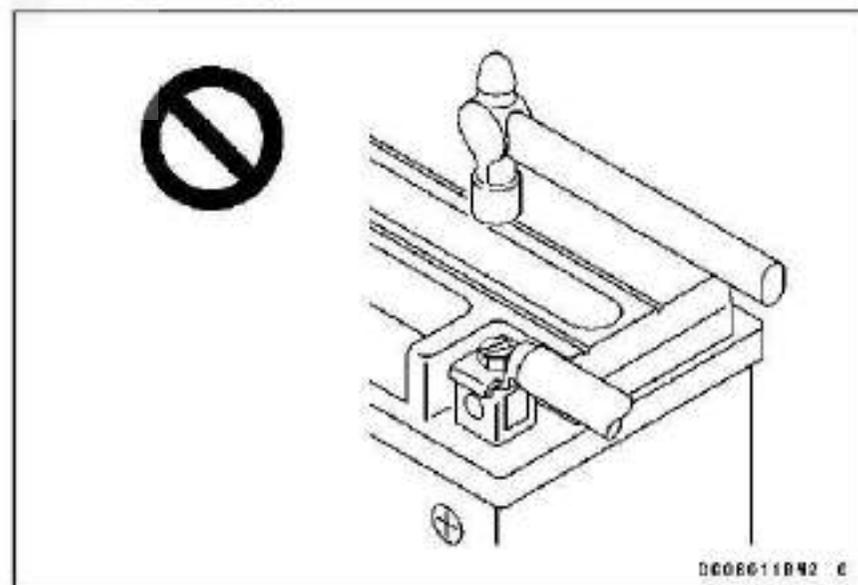
(1) 取付が不十分になるため、長過ぎるボルトは使用しないこと。



(2) 接触が不十分になるため、針金等で接続しないこと。

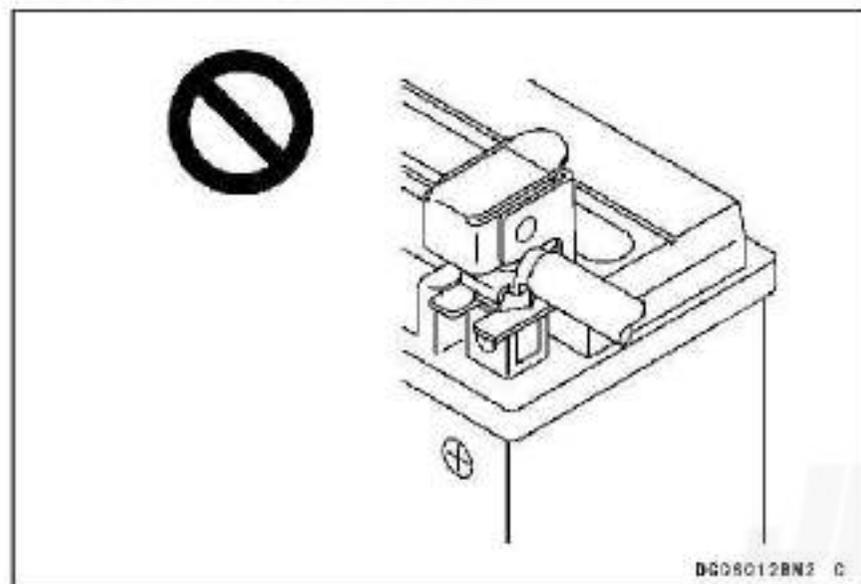


(3) 端子が変形・破損するため、端子部をハンマーでたたかないこと。



88 整備と調整

(4) 航行時の振動で外れるおそれがあるため、ワンタッチ式カプラは使用しない。



(5) 複数のケーブル端子を接続する場合端子間にスキマがないように確実に締め付ける。

警告

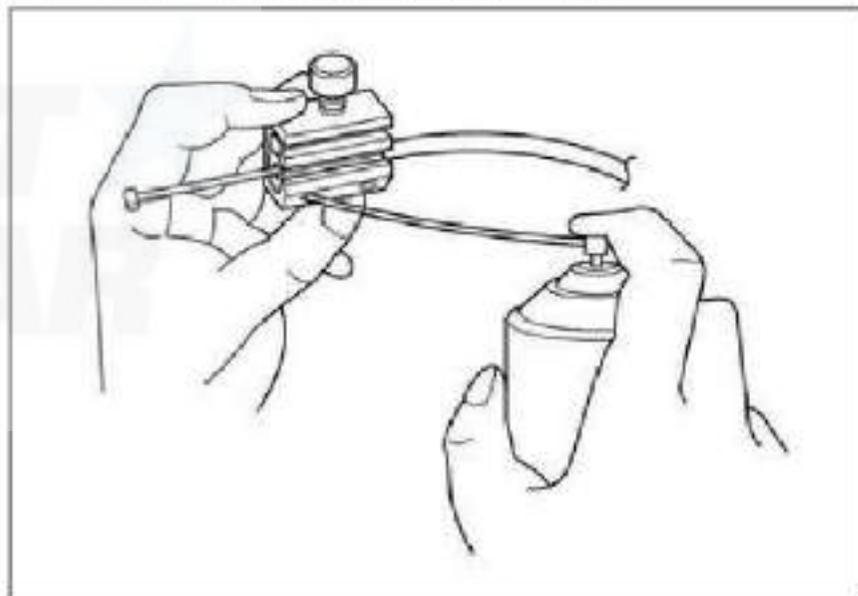
バッテリーケーブルの取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡するおそれがあります。バッテリーターミナルのスクリュはしっかり締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

潤滑

すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータクラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑回数については、「定期点検整備表」および「乗る前の点検項目」を参照してください。

- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。

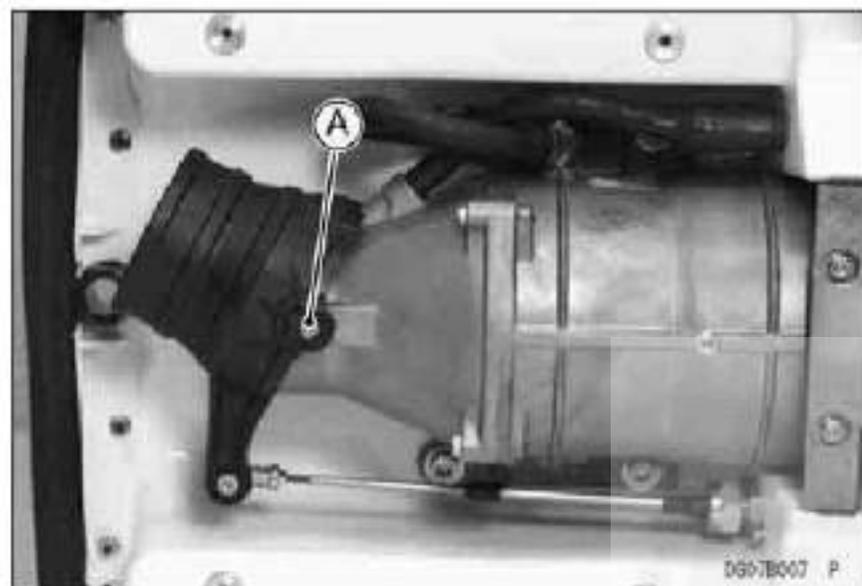
チョークケーブル、スロットルケーブル



ケーブルルーバを使ってケーブルの潤滑をする

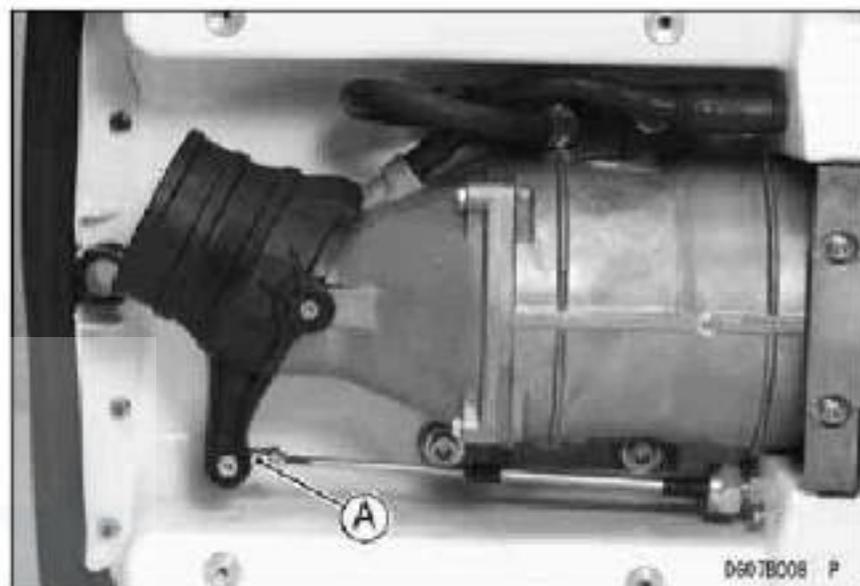
- 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。

ステアリングノズルピボット



A. ノズルピボット

ステアリングケーブルボールジョイント

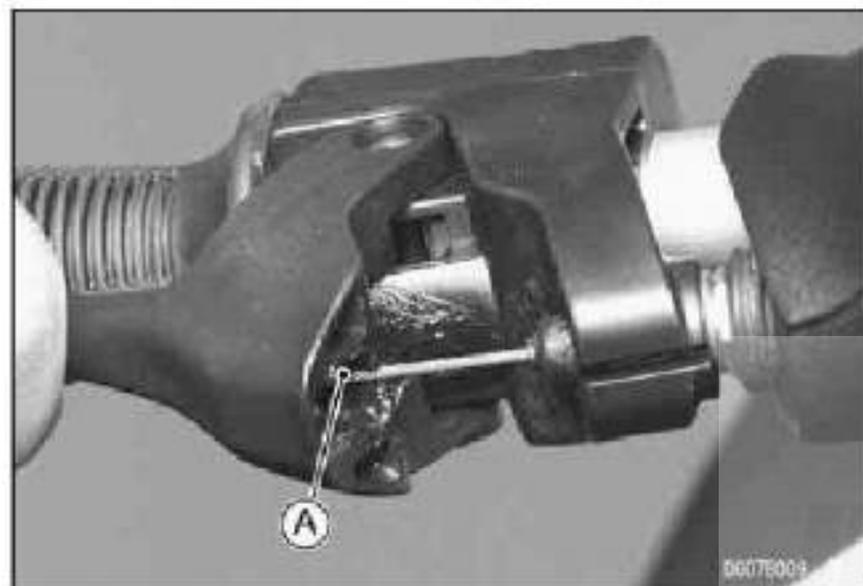


A. ボールジョイント

STAR

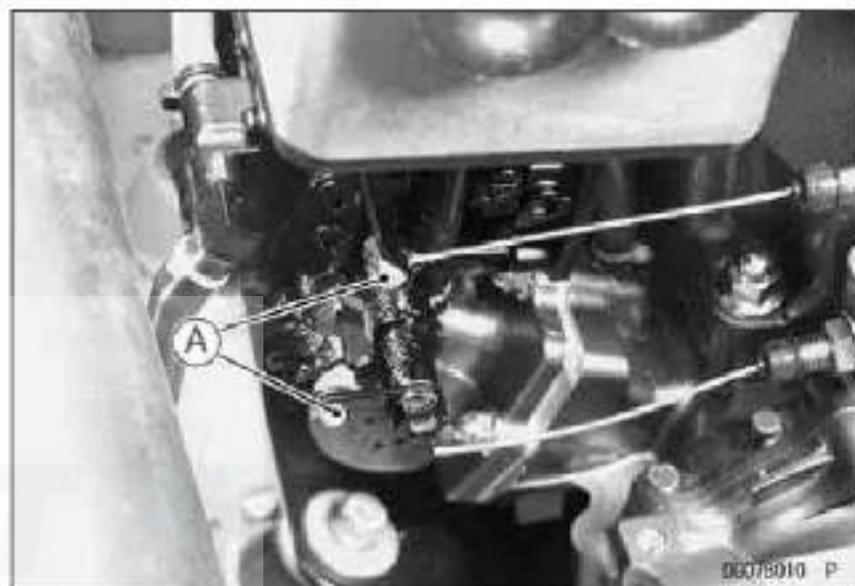
90 整備と調整

スロットルケースのケーブル取り付け部



A. グリースを塗布

キャブレタのスロットルケーブル取り付け部およびチョークケーブル取り付け部



A. グリースを塗布

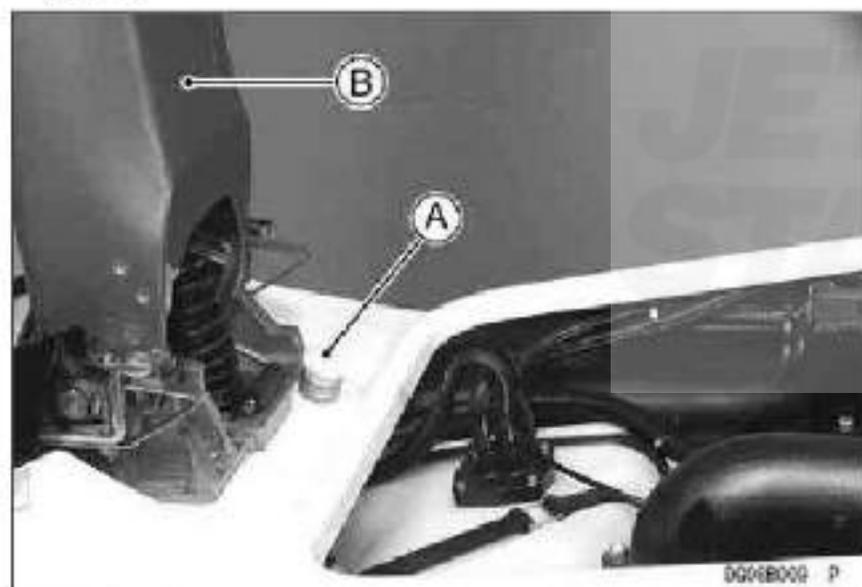
注意

ハンドルパーピボットの分解と潤滑は「ジェットスキーARK」で行ってもらってください。

冷却システムの洗浄

冷却システムに砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期点検整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水が減った時はすぐに行ってください。

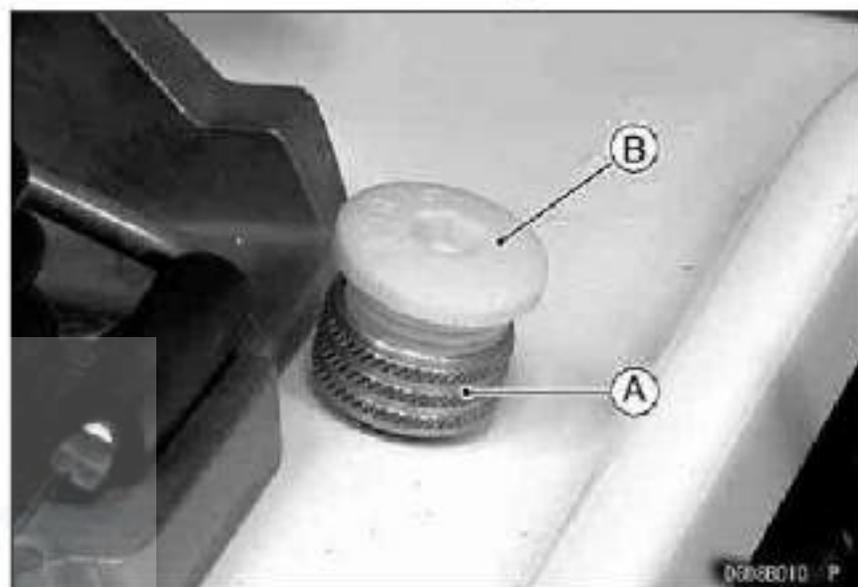
- 冷却水の接続口がハンドルポールの足元にあります。



A. 接続口
B. ハンドルポール

- ハンドルポールを起こして足元のストッパーピンを掛けます。

- エンジンフードを外します。



A. 接続口
B. キャップ

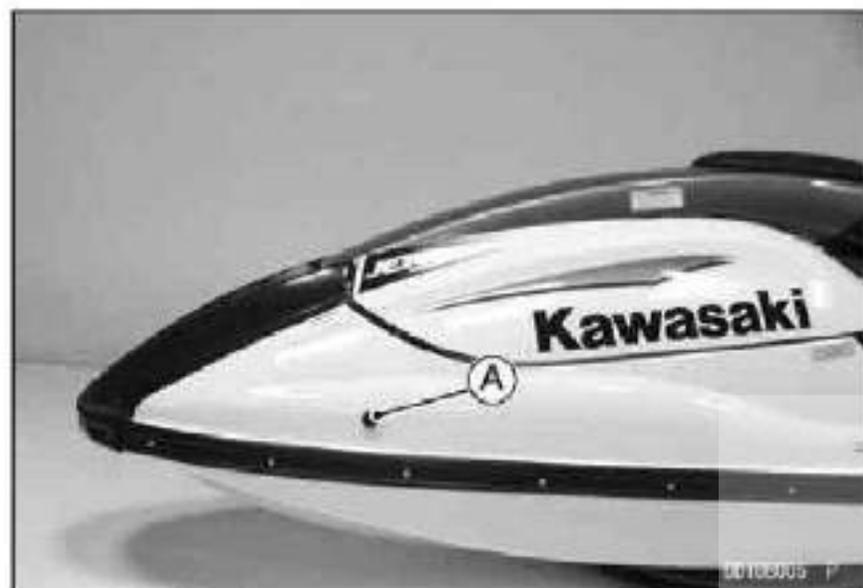
- 接続口のキャップ (B) を外し、接続金物の付いた水道ホースを接続口 (A) に接続します。
- 水道の蛇口を開ける前にエンジンを始動し、アイドリングさせます。

注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいてください。先に水を流すと、エキゾーストパイプを通してエンジン内に水が逆流して、内部を損傷するおそれがあります。

- エンジンをかけたらずちに水道の蛇口を開け、船の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節してください。

92 整備と調整



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回吹かせて排気系統から水を排出します。

注意

冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないでください。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷をひき起こすもとになります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取り付けてしっかり締めます。

ビルジ系統の洗浄

詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期点検整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われる時はすぐに洗浄してください。

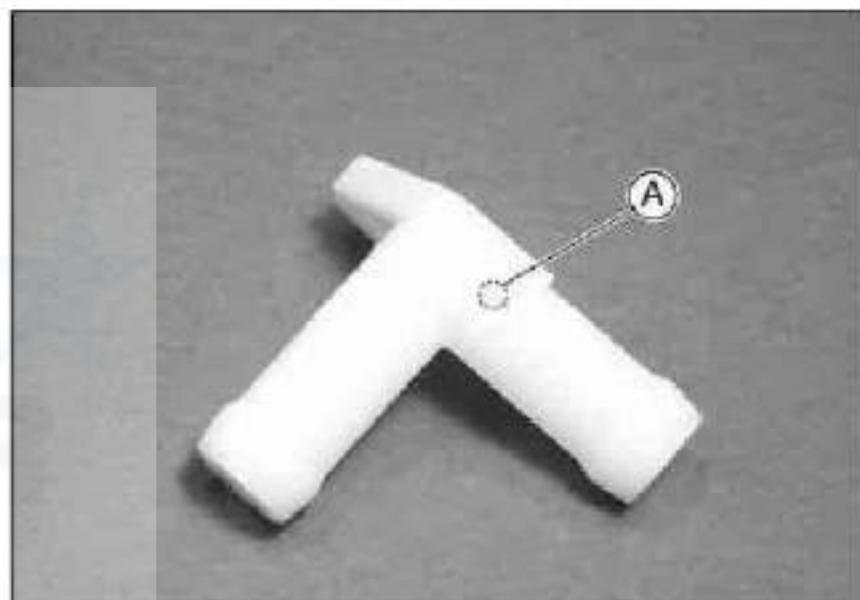
- プラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外してください。



A. ブリーザ

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。ウォータクラフトの横に保護パッドを置き、船を左に傾けてエンジンルームの水を出します。
- 船体の隔壁側からもう一方のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。

- プラスチックのブリーザにホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな孔が詰まっていないか確かめてください。もし、孔が詰まっていれば、エンジンが停止した時やアイドリング状態の時、ホースを通して水がどんどんエンジンルームに入ってくる可能性があります。ブリーザを外して掃除してください。



A. ブリーザの孔

- ビルジホースをもと通りに接続します。

要点

- ウォータクラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧縮空気を吹き込んでください。(「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。)

ジェットポンプベアリング/シール

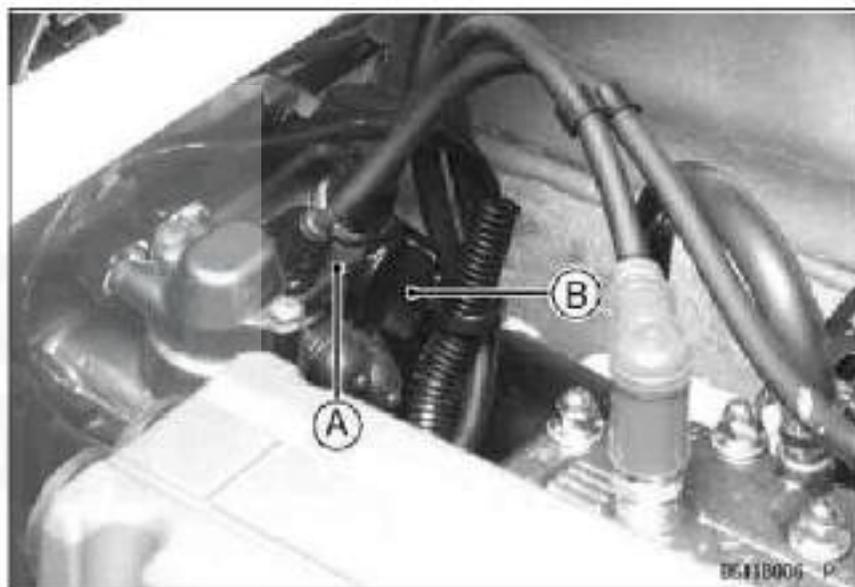
注意

ジェットポンプベアリングとシールは定期的に整備してください。整備が不十分な場合、ジェットポンプベアリングが破損し、エンジンの重大な損傷の原因となります。

ジェットポンプベアリングとシールは、最初の20時間後、以降は50時間毎または毎年1回のどちらか早い時期に「ジェットスキーARK」で定期点検を受けてください。また、長期間保管する前に、ジェットポンプベアリングの整備を実施し、ジェットポンプ内に残った水を抜いてください。水がポンプ内に残っていると、ジェットポンプベアリングが腐食したり、早期破損の原因になります。

ヒューズ

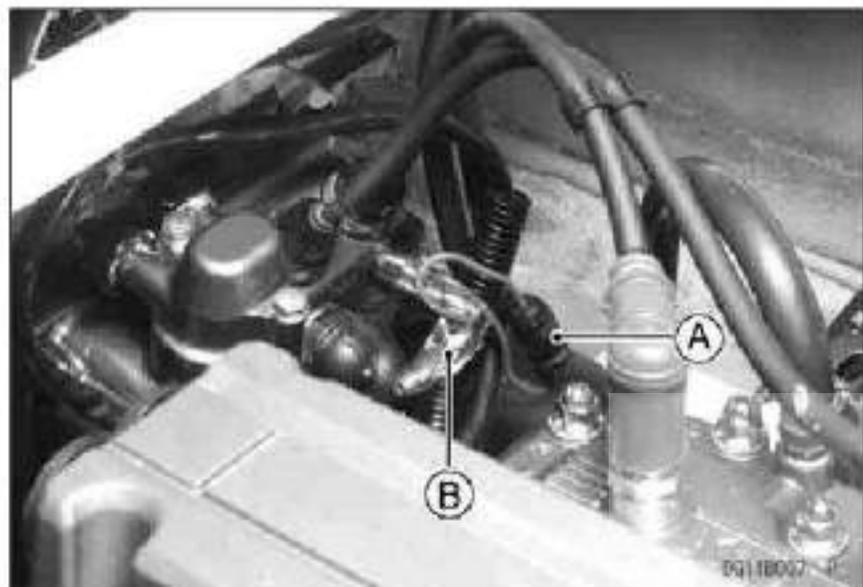
ヒューズは電装ケースに備えられています。操作中に、ヒューズが切れたらその原因となった電気系統を点検し、適切な容量の新しいヒューズに交換してください。



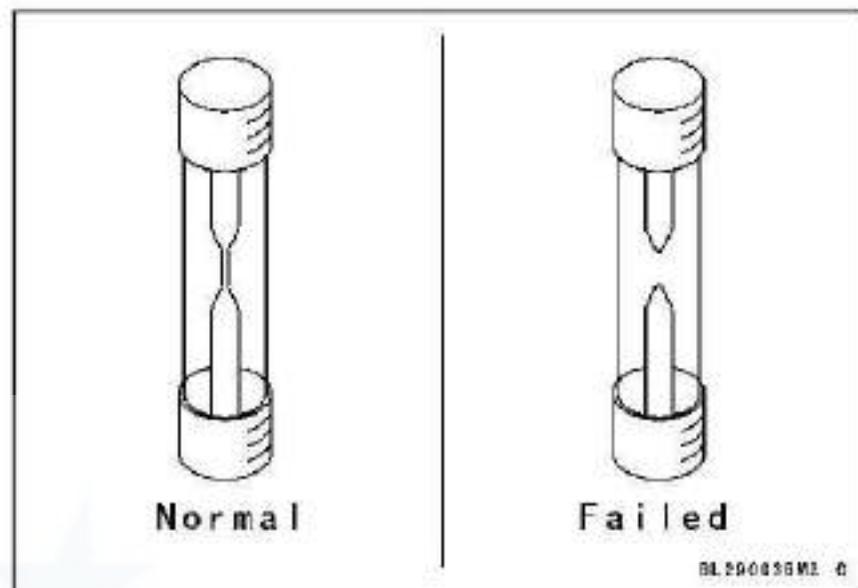
- A. ヒューズケース
- B. キャップ

注意

ヒューズの代用品は使用しないでください。切れたヒューズは電装ケースに規定された正しい容量のヒューズと交換してください。



A. メインヒューズ
B. 予備ヒューズ



正常なもの

破損したもの

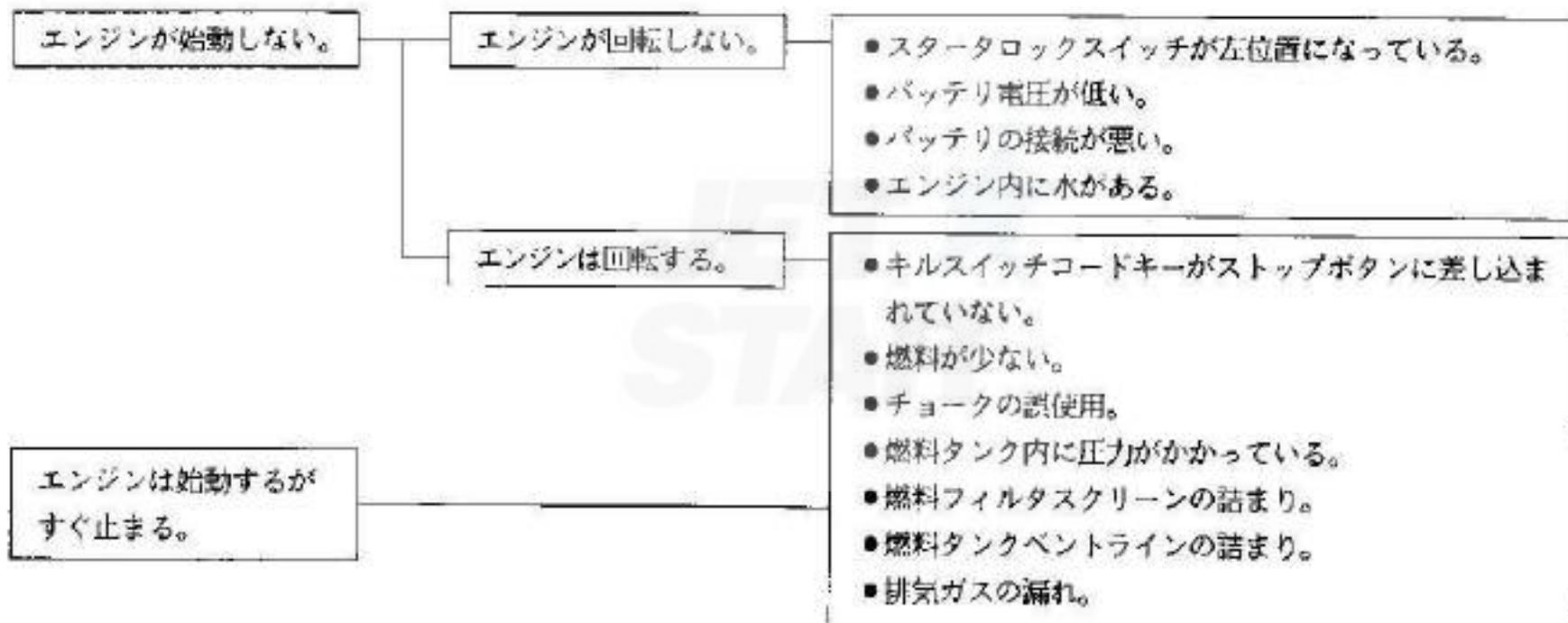
JET
STAR

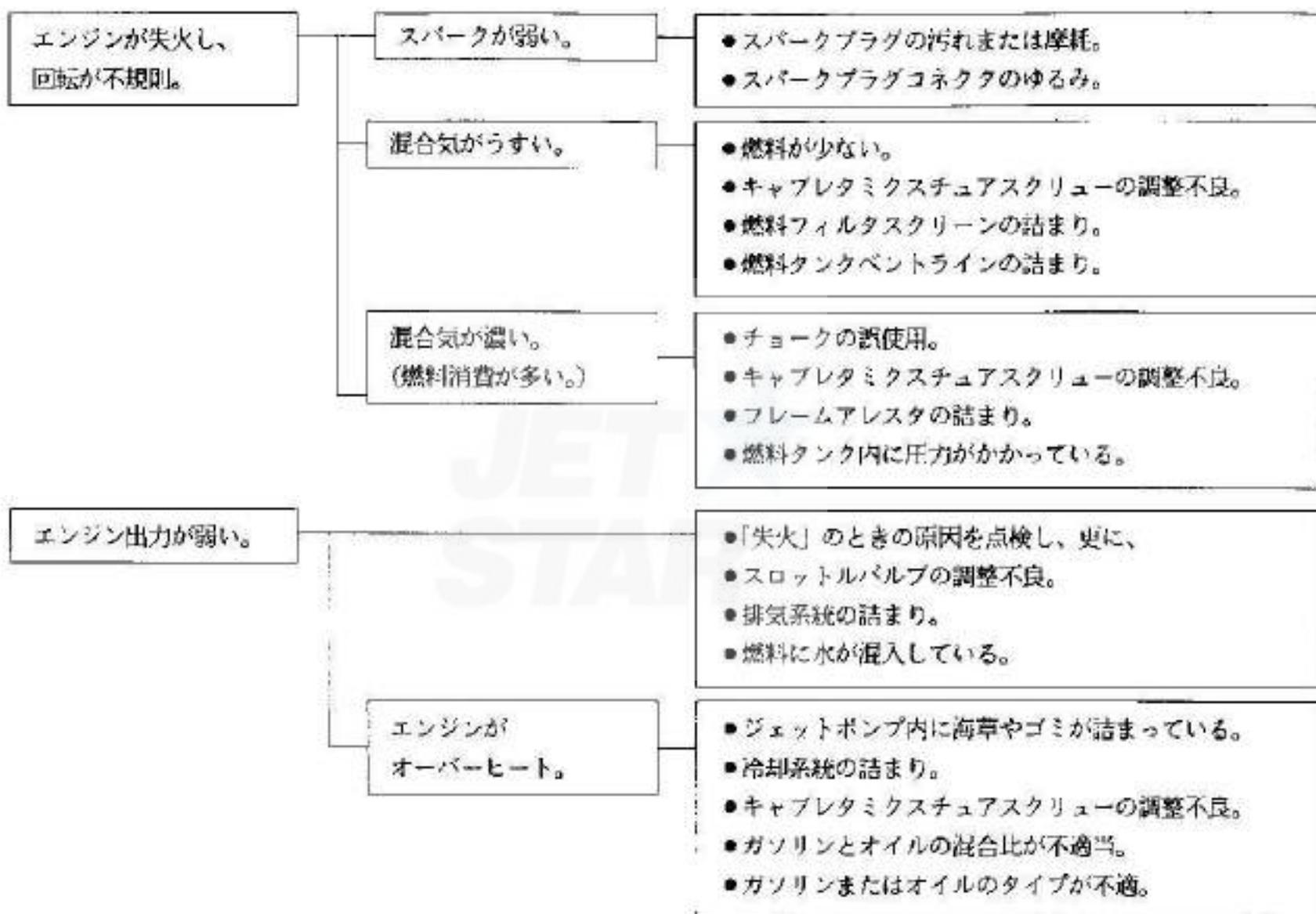
トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータクラフトのトラブルが確定できない時は、「ジェットスキーARK」に相談するか、サービスマニュアルを参照してください。

トラブル

原因





ノッキングを起こす。

- ガソリンの品質不良。
- ガソリンとオイルの混合比が不適當。
- スパークプラグの熱価が高過ぎる。

ステアリングがかたい、
または調子が悪い。

- ステアリングピボットの油切れ。
- ステアリングケーブルが損傷、または取りまわしが不適當。

警告

ステアリング装置に故障があれば非常に危険です。 「ジェットスキー-ARK」でよく調べてもらってください。

船舶検査

船舶検査

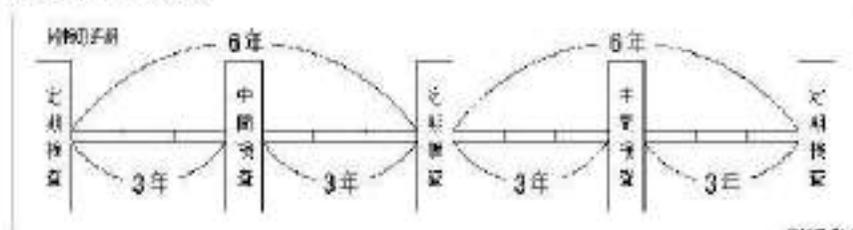
ウォータクラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中間の3年毎に行う中間検査があります。

- 定期検査
定期的に行う精密な検査
- 中間検査
定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1カ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

船舶検査証書など合格証書類

1. 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、(1)船舶検査証書(2)船舶検査手帳(3)船舶検査済票（年票と番号票を各2枚）が渡されます。

上記(1)および(2)の証書類は、ウォータクラフトを使う時には必ず船内に備えてください。

また、(3)の検査済票（通称「船検ナンバー」）は、ウォータクラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼り付けてください。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

2. 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返される時に、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼ってください。

航行区域

航行区域

法律（船舶安全法）により、ウォータクラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

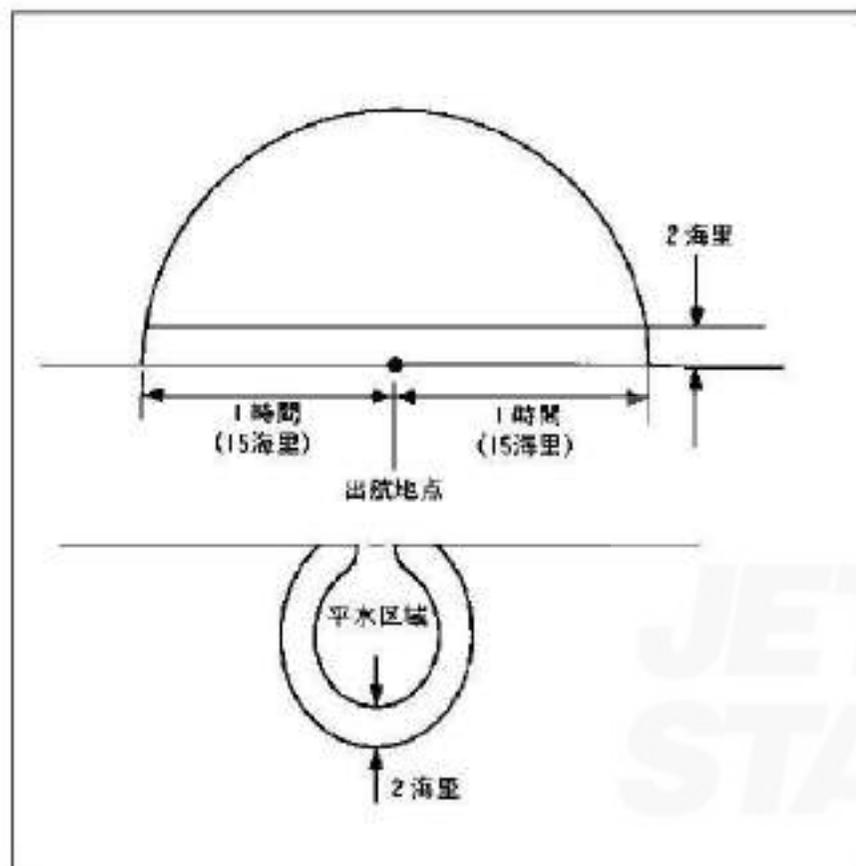
注：1

- 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
- 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

1. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸か2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

JET★
STAR



母船に乗せて使用する場合

1. 沿海区域で、母船から半径2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。
3. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

注意

母船に搭載してウォータクラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

*周辺の人達に迷惑をかけないために、次の事を守ってください。

- 遊泳者のいる近くでは乗らないでください。
- 人家の近くでは乗らないでください。
- 他の人に迷惑をかける騒音は出さないでください。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないように注意してください。
- 航走ちゅうの他の船に近づかないでください。
- 漁場へは乗り入れないでください。また、操業中の漁船には近づかないでください。
- 乗り入れ禁止区域には入らないでください。
- 指定区域内では制限速度を守ってください。

環境保護

環境保護

いつまでもきれいな環境を保つために、次の事を守ってください。

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。
(不法投棄は絶対にしないでください)。
- 燃料、オイル等で浜辺や海岸、そして水を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や、生物を大切にしましょう。
- 使用済みのバッテリーやエンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。また、将来ジェットスキーを廃棄される場合も同様です。もし、これらのものを廃棄するときは、「ジェットスキーARK」にご相談ください。



お客様の相談窓口

あなたのカワサキウォータークラフト“ジェットスキー”について、ご不明な点や、サービス面のことで、ご意見やご質問がございましたら、お買いあげいただきました「ジェットスキーARK（正規取扱店）」または下記の相談窓口にお申しつけください。

株式会社カワサキモーターズジャパン 〒673-8666 兵庫県明石市川崎町1番1号 Tel.078(921)2491代表
ジェットスキー営業部

*平成22年4月1日現在

JET★
STAR



JS800AB



* 9 9 9 2 1 - 0 1 3 3 *

STAR



川崎重工業株式会社

モーターサイクル&エンジンカンパニー

Part No. 99921-0133

Printed in Japan